

保健学専攻博士前期課程  
看護学専攻博士前期課程  
臨床心理学専攻博士前期課程  
【共通科目】



保健学専攻・看護学専攻 博士前期課程（平成29年度学則）  
 臨床心理学専攻 博士前期課程（令和4年度学則）  
 【研究科共通科目】

◆博士前期課程 ディプロマ・ポリシー

- (1) 保健、医療、看護、福祉、心理学領域の高度専門職業人としての知識
  - ・専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。
- (2) 保健、医療、看護、福祉、心理学領域の高度専門職業人としての技術
  - ・専攻する専門分野の高度な技術を修得し、高度専門職業人としての実践力を高めるとともに、現場での指導・教育の役割を担うことができる。
- (3) 医療系の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力
  - ・患者の病態を理解するための臨床的判断力を修得し、複雑・高度化するチーム医療のメンバーとしての役割を果たすことができる。
  - ・組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。
- (4) 課題解決のための広い視野と学際的識見
  - ・保健、医療、看護、福祉、心理学領域の諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、課題解決には、保健、医療、看護、福祉、心理の連携と協調が必要であることや、他の学問領域の視点で見ることが重要であることを理解し、課題を解決することができる。
- (5) 研究遂行能力
  - ・研究に関する諸概念の理解、研究計画の立案、データの収集・分析、考察ができ、論文を執筆することができる。
  - また、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を身につけ、研究内容を説得力を持って発表することができる。
- (6) 高い倫理観と国際的視野
  - ・他者を尊重し、自己を律することができ、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。

専門分野	授業科目	単位認定者 (R4)	単位数	開講時期		社会人特別選抜		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	ページ
				春	秋	夜間	土曜							
共通研究科目	専門横断科目	八並 光信	2	○		×	○	★						64
	研究倫理	滝 智彦	2	○		×	○	★						64

\*\*\*\*\*

【科目名】 専門横断科目

【授業コード】 21H00011 21N00011

【代表教員】 八並 光信

【担当教員】

瀧上 周、小池 貴久、近藤 知子、梅井 武彦、出嶋 靖志、福長 一義、柴田 茂貴、山本 智朗、松岡 恵、浅沼 奈美、島田 厚良、下島 裕美、竹田 里江、荒添 美紀

【授業概要】

大学院で学ぶ目的は、専門性を深めることのみならず、視野を広め、地域や施設における課題への解決能力を醸成することである。そのためには、専門分野とは異なっても保健・医療・福祉分野における今日の話題や厚生行政の課題について日常から関心を持ち、様々な視点で自ら考えられる力を持つ必要がある。本講義では、そうした話題について多様な専門分野の教員がオムニバスで授業を行うものである。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

保健、医療、看護、福祉、心理学領域の高度専門職業人としての知識

・専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。

《一般目標 (GIO) 》

保健・医療・看護・福祉分野における今日の話題や厚生行政の課題について日常から関心を持ち、様々な視点で自ら考えられる力を醸成する。

《個別目標 (SBOs) 》

①各テーマの論点について説明できる。

②各テーマに自らの意見を述べることができる。

【授業計画】

1. 化学感覚 (瀧上) 【講義・質疑応答】  
生命や生活の質 (QOL) の維持に大きく貢献する化学感覚について、嗅覚を中心に最近の知見も交えて概説する。
2. 多職種連携とコミュニケーション (荒添) 【講義・質疑応答】  
多職種連携におけるコミュニケーションの特徴やコミュニケーションについて考える。
3. メタ認知の基礎と応用 (下島) 【講義・質疑応答】  
自分自身を監視しコントロールしようとする働きであるメタ認知の基礎理論と教育・福祉・医療場面におけるメタ認知の応用について学ぶ。
4. 環境と健康の関わり (出嶋) 【講義・質疑応答】  
環境と人間との相互作用が健康の諸側面とどのように関わるかについて解説する。
5. 脳と免疫系の相互作用 (島田) 【講義・質疑応答】  
脳が免疫系と相互作用する仕組みと、その乱れが多く発症する精神神経疾患に関することを概説する。
6. 運動生理学と循環機能 (柴田) 【講義・質疑応答】  
運動中の循環動態の変化、特に心肺機能、血圧調節、脳循環調節について学ぶ。
7. 心肺停止と一次救命処置 (梅井) 【講義・質疑応答】  
突然の心肺停止など危機的状況下で行われるべき一次救命処置について解説する。
8. 前頭連合野における認知機能と情動の相互作用について (竹田) 【講義・質疑応答】  
脳の前頭連合野に注目し、認知機能と情動の相互作用について解説する。
9. 日常作業と健康 (近藤) 【講義・質疑応答】  
作業療法の専門性を紹介しつつ、自らの日常作業を健康との観点で振り返る経験をする。
10. 医用工学と医療機器 (福長) 【講義・質疑応答】  
多角的な視点から医用工学の基礎や医療機器を解説する。
11. 放射線応用計測の基礎 (小池) 【講義・質疑応答】  
身の回りの放射線について知るとともに、放射線計測の原理、計測技術の基礎を概説する。
12. 死後画像の役割と現状 (山本) 【講義・質疑応答】  
司法解剖や系統解剖の遺体に対して CT や MRI などを用いるが、その役割と現状を考える。
13. 心的外傷後ストレス障害 (PTSD) と回復支援 (浅沼) 【講義・質疑応答】  
心的外傷後ストレス障害の回復支援と、二次的外傷性ストレス障害の知識を深める。
14. リプロダクティブヘルス/ライツ (松岡) 【講義・質疑応答】  
母子保健の重要な概念であるリプロダクティブヘルス/ライツの概念とその歴史的な背景、およびその主要な臨床課題である家族計画について学ぶ。
15. 造血幹細胞移植と理学療法 (八並) 【講義・質疑応答】  
白血病における造血幹細胞移植がもたらす、身体的影響と理学療法におけるリスク管理および効果について学ぶ。

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。  
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。  
※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。  
☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。  
☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート (100%)

15 講義の各回のレポートを作成して、講義後 1 週間以内に担当教員へ提出 (A4 二枚程度)。

【備考】

土曜日の集中講義。

開講予定日 : 5/14 (1-4 限)・5/28 (1-4 限)・6/11 (1-4 限)・6/25 (1-3 限)・7/16 (補講日)

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

【科目名】 研究倫理

【授業コード】 21H00021 21N00021

【代表教員】 滝 智彦

【担当教員】

松岡 弘芳、柴田 茂貴、大木 幸子、中島 章夫、藤田 千春、相磯 聡子、長谷川 利夫

【授業概要】

保健学部での研究の多くは人を対象とする生命科学・医学系研究である。このような研究は、学問の自由のもとに、研究者が適正かつ円滑に研究を行うことの出来る制度的枠組みの構築が求められる一方で、研究対象者の身体及び精神又は社会に対して大きな影響を与える場合もあり、様々な倫理的、法的又は社会的問題を招く可能性がある。研究対象者の福利は、科学的及び社会的な成果よりも優先されなければならない。また、人間の尊厳及び人権が守られなければならない。文部科学省、厚生労働省および経済産業省では令和 3 年に、全ての「人を対象とする生命科学・医学系研究」の実施にあたって全ての研究者が遵守すべき倫理指針として、従来の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」と「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」を統合した「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」を定めた。本科目では、当該倫理指針について概説する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

保健、医療、看護、福祉、心理学領域の高度専門職業人としての知識  
・専攻する専門分野の理論やメカニズム、科学的根拠を理解し、職業現場での実践で応用、発展させることができる。

《一般目標 (GIO) 》

①人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針を熟知し、適切な研究の実施ができる。

②研究者の責務について理解し、研究倫理申請に係る申請書を適切に作成し、安全に研究を推進し、高い信頼性が確保された研究報告ができる。

《個別目標 (SBOs) 》

①人を対象とする生命科学・医学系研究に係るインフォームドコンセント、個人情報の保護、匿名加工情報などの内容を正確に説明できる。

②重篤な有害事象への対応について準備することができる。

【授業計画】

1. 責任ある研究者の行為について [e ラーニング]  
責任ある研究者の行為を学び、正しく理解できたか問題を解くことによってチェックする。
2. 研究における不正行為 [e ラーニング]  
研究における不正行為を学び、正しく理解できたか問題を解くことによってチェックする。
3. データの扱い [e ラーニング]  
データの扱いを学び、正しく理解できたか問題を解くことによってチェックする。
4. 共同研究のルール [e ラーニング]  
共同研究のルールを学び、正しく理解できたか問題を解くことによってチェックする。
5. オーサーシップ [e ラーニング]  
オーサーシップを学び、正しく理解できたか問題を解くことによってチェックする。
6. 盗用と見なされる行為 [e ラーニング]  
盗用と見なされる行為を学び、正しく理解できたか問題を解くことによってチェックする。
7. 公的研究費の取扱い [e ラーニング]  
公的研究費の取扱いを学び、正しく理解できたか問題を解くことによってチェックする。
8. ガイダンスの総則 (滝) 【講義・質疑応答】  
ガイダンスの総則について学ぶ。
9. 研究者の責務 (松岡) 【講義・質疑応答】  
研究者の責務について学ぶ。
10. 研究の適正な実施 (柴田) 【講義・質疑応答】  
研究の適正な実施に必要な研究計画書について学ぶ。
11. インフォームド・コンセント、研究により得られた結果の取扱い (大木) 【講義・質疑応答】  
インフォームド・コンセントおよび研究により得られた結果等の取扱いについて学ぶ。
12. 研究の信頼性確保 (中島) 【講義・質疑応答】  
研究の信頼性確保について学ぶ。
13. 重篤な有害事象への対応 (藤田) 【講義・質疑応答】  
重篤な有害事象への対応について学ぶ。
14. 倫理審査委員会 (相磯) 【講義・質疑応答】  
倫理審査委員会について学ぶ。
15. 個人情報等及び匿名加工情報 (長谷川) 【講義・質疑応答】  
個人情報等及び匿名加工情報について学ぶ。

【準備学習】

インターネットにて「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針 (令和 3 年 3 月 23 日、文部科学省、厚生労働省、経済産業省)」を入手する。  
(予習)

1-15. 各授業の前に、該当する項目を予習する。

(復習)

1-15. 各授業の後に、該当する項目を復習する

※全ての回、予習は 45 分、復習は 45 分必要とする。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。  
☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート (100%)

【備考】

対面講義 (8-15 回) は、社会人が夏期休暇を取得する中で効率的に講義を受けられるように 6 月 23 日 月頃に数日に分けて集中で行う。対面講義までに、e ラーニング (1-7 回) を自宅で実施し、e ラーニング内のテストに合格しておくこと。

\*\*\*\*\*

看 護 学 専 攻  
(博士前期課程)



# 杏林大学 大学院 保健学研究科（博士前期課程）看護学専攻ポリシー

【参考】 理念・目的	【参考】 教育目標	卒業認定・学位授与の方針 ディプロマ・ポリシー	教育課程編成・実施の方針 カリキュラム・ポリシー	入学者受入れの方針 アドミッション・ポリシー
<p>保健学研究科は、保健、医療及び福祉の分野における高度専門職業人、および研究、教育者に求められる高度な知識・技術を修得させることにも、それぞれ別の分野の語彙や複雑・多様なニーズに柔軟に対応できる広い視野を培うこと、さらに、それぞれの分野の研究対象を科学的に分析・探究できる能力と学際的な視野を培うことを教育目標とする。</p>	<p>保健学研究科看護学専攻博士前期課程では、教育目標を達成するために、修了時点までに修得すべき能力を以下のように定める。修了の要件を満たし、これら能力をすべて修得したと認められた学生に、修士（看護学）を授与する。</p> <p><b>(1) 看護・保健領域の高度専門職業人としての能力</b> 国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。</p> <p><b>(2) 看護・保健領域の高度な知識・技術</b> 高度実践看護師（専門看護師）として、必要な知識やスキルを修得し、実践に生かすことができる。</p> <p><b>(3) 高い倫理観と研究遂行能力</b> 看護領域における課題について、高い倫理観を有し、研究計画を立て、遂行し、論文を作成することができる。</p>	<p>保健学研究科看護学専攻博士前期課程は、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力の修得のために、基礎看護科学、実践看護科学、専攻共通科目、研究共通科目の専門分野を設け、以下に示した教育課程編成・実施の方針に基づき、コースワークとリサーチワークをシステムよく配置し、講義・演習・実験・実習などを適切に組み合わせた授業を行う。これらの科目は、体系的に理解できるようにカリキュラムマップにより可視化する。</p> <p>教育内容、教育方法、評価については以下のように定める。</p> <p><b>(1) 教育内容</b> <b>(1-1) 看護・保健領域の高度専門職業人としての能力を修得するために</b> ・看護・保健領域における専門性の強化、国際的視野も含めた広い視野とマネジメント能力養成を目的とし、専門的知識を修得し判断力・実践力・指導力を獲得するために、基礎看護領域および医療安全領域の基礎看護科学分野・各看護実践領域・高度実践看護師教育課程の実践看護科学分野を配置する。 <b>(1-2) 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）としての知識、技術を修得するために</b> ・看護学専攻共通科目における看護研究や看護実践に必要な知識を修得するために高度実践看護師教育課程を配置する。 ・副科目に関連する他領域の科目を配置する。また、専門看護師に必要な専門知識を修得するために高度実践看護師教育課程を配置する。 ・高度実践看護師教育課程（専門看護師教育課程）においては、高い実践能力修得の質を確保するため、日本看護系大学協議会から認定された「がん看護専門看護師課程」「リハビリテーション看護専門看護師課程」「精神看護専門看護師課程」を配置する。この教育課程で定められた講義・演習科目に従って教育指導する。</p> <p><b>(1-3) 高い倫理観と研究遂行能力を修得するために</b> ・看護領域における課題解決に必要な研究遂行能力や倫理観を培うために、リサーチワークとして「看護研究方法論」「特別研究」を配置する。</p> <p><b>(2) 教育方法</b> <b>(2-1) 看護領域の高度専門職業人としての知識と技術、臨床判断能力やマネジメント能力を獲得するために</b> ・学生の実務経験、研究経験に応じて、看護領域における諸課題を解決するための知識の幅が広がることを期待される科目、修士論文作成に必要な科目、基礎的な素養の涵養に役立つ共通科目について分野を超えて自由に選択できるように設定し、小人数できめ細やかに指導する。</p> <p><b>(2-2) 研究遂行能力を修得するために</b> ・指導教員が研究指導計画及び学生の作成する履修計画に基づき、きめ細やかに論文執筆や論文発表の指導を行う。また、論文発表に必要な能力を修得するために研究報告会を実施する。 ・保健学専攻と看護学専攻合同の研究報告会で多様な専門分野の教員が指導することで、研究科横断的に研究遂行能力やプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高める。</p> <p><b>(3) 教育成果の測定</b> 以下の方法で、研究遂行能力や論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力が、修士の学位に相応しいレベルに達しているかを評価し、課程として目的に沿った成果が上がつているかを測定する。 <b>(3-1)</b> 履修科目の総合判定は、各学年終了時に国際的成績評価である GPA (Grade Point Average) で評価する。 <b>(3-2)</b> 学期ごとの学生自己評価により、高度専門職業人としての知識と技術や能力の修得状況を測定する。 <b>(3-3)</b> 修士論文発表会および修士論文審査において、研究遂行能力や倫理観、国際性、論文執筆力、論文発表の際のプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力が身に付いているかを測定する。</p>	<p>保健学研究科看護学専攻博士前期課程では、本研究科の理念・目的を理解し、その達成に真摯に取り組む意欲のある人材を求めている。具体的には以下のような資質を求めている。</p> <p><b>(1) 求める学生像</b> <b>(1-1)</b> 研究者として、看護学の研究課題を探索する明確な目的意識を持つ人 <b>(1-2)</b> 看護ケアの質向上を目指し、高度実践看護師として、看護の課題を探索するための基礎的な知識と高度な実践能力を持つ人 <b>(1-3)</b> 看護実践の質の向上に貢献する意志と熱意を持つ人</p> <p><b>(2) 求める学習成果</b> <b>(2-1)</b> 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力を備えた人を目指す。 <b>(2-2)</b> 看護学専攻博士前期課程の教育を受けたための基礎的学力を有し、課題を研究的視点からとらえることができる。（知識・技能） <b>(2-3)</b> 看護学における課題を解決するための知識・思考力、判断力・表現力を有し、実践力を有する。 <b>(2-4)</b> 幅広い視野を得るために他分野の領域の学生とも積極的にディスタンスをとり、理解を深めながら学ぶ能力を有する。（態度）</p> <p><b>(3) 入学者選抜の基本方針</b> 本研究科の教育理念・目標に合致した学生を選抜するために、以下の通り入学者選抜を実施する。 <b>(3-1) 一般選抜</b> 英語問題、専門科目および面接から、欧米の学術論文の読解能力、研究計画を実施するための専門基礎知識を有しているか、高度実践看護師としての基礎知識と実践力を有しているか、博士前期課程の2年間で修士論文が作成できるか、研究テーマとして適切であるかを総合的に評価する。 <b>(3-2) 社会人特別選抜</b> 英語および一般選抜の専門問題に当たる小論文および面接から、英語科学論文の読解能力、研究計画を実施するための専門知識を有しているか、博士前期課程の2年間で修士論文が作成できるか、高度実践看護師としての基礎知識と実践力を有しているか、研究テーマとして適切であるかを総合的に評価する。</p>	





看護学専攻 博士前期課程

## 専攻共通科目



## 看護学専攻博士前期課程（平成29年度学則） 【専攻共通科目】

### ◆看護学専攻 博士前期課程 ディプロマ・ポリシー

- (1)看護・保健領域の高度専門職業人としての能力  
・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。
- (2)看護・保健領域の高度な知識・技術  
・高度実践看護師（専門看護師）として、必要な知識やスキルを修得し、実践に生かすことができる。
- (3)高い倫理観と研究遂行能力  
・看護領域における課題について、高い倫理観を有し、研究計画を立案・遂行し、論文を作成することができる。

専門分野	授業科目	単位認定者 (R4)	単位数	開講時期		社会人特別選抜		備考	(1)	(2)	(3)	ページ
				春	秋	夜間	土曜					
看護 専 攻 共 通 科 目	看護教育学特論	中島 恵美子	2	○		○	○	※	★	★		188
	看護管理学特論	佐藤 澄子	2	○		○	○	※	★	★		189
	看護研究方法論	松岡 恵	2	○		○	○	※	★	★		190
	コンサルテーション論	浅沼 奈美	2		○	○	○	※	★	★		191
	看護政策学特論	大木 幸子	2		○	○	○		★	★		160
	家族看護学特論	佐々木 裕子	2		○	○	×		★			160
	フィジカルアセスメント	加賀谷 聡子	2	○		○	○	※	★	★		192
	病態生理学	岩楯 桜子	2	○		×	○	※	★	★		193
	臨床薬理学	西村 伸大	2	○		—	—	※集中	★	★		194

※専門看護師教育課程科目の選択必修科目となる。

また、専門看護師教育課程を希望していない学生も履修可能である。

\*\*\*\*\*

**【科目名】**看護教育学特論  
**【授業コード】**21N10011  
**【代表教員】**中島 恵美子  
**【学位授与方針の関連 学習目標】**  
 <学位授与方針との関連>  
 看護・保健領域の高度専門職業人としての能力  
 ・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。  
 看護・保健領域の高度な知識・技術  
 ・高度実践看護師（専門看護師）として、必要な知識やスキルを修得し、実践に生かすことができる。

**【授業概要】【授業計画】【準備学習】【評価方法】**  
**【備考】**専門看護教育課程講義概要（共通科目）参照

\*\*\*\*\*

**【科目名】**看護管理学特論  
**【授業コード】**21N10021  
**【代表教員】**佐藤 澄子  
**【学位授与方針の関連 学習目標】**  
 <学位授与方針との関連>  
 看護・保健領域の高度専門職業人としての能力  
 ・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。  
 看護・保健領域の高度な知識・技術  
 ・高度実践看護師（専門看護師）として、必要な知識やスキルを修得し、実践に生かすことができる。

**【授業概要】【授業計画】【準備学習】【評価方法】**  
**【備考】**専門看護教育課程講義概要（共通科目）参照

\*\*\*\*\*

**【科目名】**看護研究方法論  
**【授業コード】**21N10031  
**【代表教員】**松岡 恵  
**【学位授与方針の関連 学習目標】**  
 <学位授与方針との関連>  
 看護・保健領域の高度専門職業人としての能力  
 ・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。  
 看護・保健領域の高度な知識・技術  
 ・高度実践看護師（専門看護師）として、必要な知識やスキルを修得し、実践に生かすことができる。

**【授業概要】【授業計画】【準備学習】【評価方法】**  
**【備考】**専門看護教育課程講義概要（共通科目）参照

\*\*\*\*\*

**【科目名】**コンサルテーション論  
**【授業コード】**21N10042  
**【代表教員】**浅沼 奈美  
**【学位授与方針の関連 学習目標】**  
 <学位授与方針との関連>  
 看護・保健領域の高度専門職業人としての能力  
 ・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。  
 看護・保健領域の高度な知識・技術  
 ・高度実践看護師（専門看護師）として、必要な知識やスキルを修得し、実践に生かすことができる。

**【授業概要】【授業計画】【準備学習】【評価方法】**  
**【備考】**専門看護教育課程講義概要（共通科目）参照

\*\*\*\*\*

**【科目名】**看護政策学特論  
**【授業コード】**21N10052  
**【代表教員】**大木 幸子 **【担当教員】**河原 智江  
**【授業概要】**  
 医療・保健・看護に関する制度や政策の決定過程を理解する。さらに、各受講者が自らの実践活動と政策の関連を振り返り、それぞれの専門領域での課題を検討する。  
**【学位授与方針の関連 学習目標】**  
 <学位授与方針との関連>  
 看護・保健領域の高度専門職業人としての能力  
 ・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。  
 看護・保健領域の高度な知識・技術  
 ・高度実践看護師（専門看護師）として、必要な知識やスキルを修得し、実践に生かすことができる。

<一般目標（GIO）>  
 保健・医療・看護に関連する政策決定の過程を学び、看護職に期待される政策立案能力を修得する。

<個別目標（SBOs）>  
 ①保健医療領域における政策の背景と政策決定の過程について理解できる。  
 ②保健医療政策における看護行政の役割及び関連について理解できる。  
 ③看護実践で直面する課題と政策の関連を捉え、課題解決を遂行する能力を修得する。

**【授業計画】**  
 1. ガイダンス/看護実践と政策の関連 [講義・質疑応答] (大木)  
 2. 保健医療福祉政策の変遷と課題 [講義・質疑応答] (大木)  
 3-4. 政策過程の理論 (1) - (2) [講義・質疑応答] (河原)  
 5-6. 看護政策の変遷と政策形成における看護職の役割 [講義・質疑応答] (河原)  
 7-8. 政策過程の分析と評価 (1) - (2) [講義・質疑応答] (河原)  
 9-10. 政策過程の分析と評価 (3) - (4) [講義・質疑応答] (河原)  
 11-12. 保健医療福祉施策の実践と展望 (1) - (2) [プレゼンテーション・質疑応答] (河原)  
 13-14. 身近な看護課題における政策形成の計画と戦略 (1) - (2) [講義・演習] (大木)

15. 身近な看護課題における政策形成の計画と戦略 (3)  
 [プレゼンテーション・質疑応答] (大木)  
 (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

**【準備学習】**  
 (予習)  
 1-15. 保健・医療・福祉に関する制度について、最新の状況、予算資料などを厚生労働省 IP などから事前に学習しておくこと。特に、医療保険制度、介護保険制度については、よく検討しておくこと。3～4回については、テキストの該当部分（主に第1章）を読み、疑問点を整理しておくこと。15回については、関心のある政策及び自らの体験した看護実践の課題をとり上げて、予め提示したワークシートを用いてレポートをまとめて臨むこと。

(復習)  
 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。  
 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。  
 ☆時間外学習時間（予習復習など）は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

**【評価方法】**  
 プレゼンテーション（60%）、レポート（40%）

**【備考】**  
 \*\*\*\*\*

**【科目名】**家族看護学特論  
**【授業コード】**21N10062  
**【代表教員】**佐々木 裕子 **【担当教員】**藤田 千春  
**【授業概要】**  
 家族看護学の歴史の変遷および家族看護学における諸理論を理解するとともに、家族と家族支援の基盤となる知識・技法を学習し、家族発達の各期における実践方法を学ぶ。また、現代における多様な家族を対象とした研究の動向を概観し、家族看護の研究の特徴と課題について考察する。

**【学位授与方針の関連 学習目標】**  
 <学位授与方針との関連>  
 看護・保健領域の高度専門職業人としての能力  
 ・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。  
 <一般目標（GIO）>  
 家族看護学の目的や動向、諸理論やアセスメントモデルについて理解できる。また事例を通して家族の健康課題を捉え、多角的視点で家族援助のあり方を考察することができる。  
 <個別目標（SBOs）>  
 ①家族看護学の定義、目的、評価、援助方法など家族看護の基本的な考え方を理解できる。  
 ②家族看護学における諸理論、アセスメントモデルについて理解することができる。  
 ③事例を通して、家族の健康や生活について、健康課題を明確にすることができる。  
 ④家族の健康課題に対し、多角的な視点で援助方法を検討することができる。  
 ⑤多様な家族を対象とした研究の動向と特徴および課題を検討することができる。

**【授業計画】**  
 1. 家族看護の理論① [講義・質疑応答] (佐々木)  
 家族の定義や家族看護学の目的について学ぶ。  
 2. 家族看護の理論② [講義・質疑応答] (佐々木)  
 家族の動向、機能および家族看護学の概念について学ぶ。  
 3. 家族を理解するための諸理論とアセスメントモデル① (藤田・佐々木)  
 [講義・質疑応答・プレゼン]  
 家族アセスメントモデル（フリードマン、カンガリーなど）について学ぶ。  
 4. 家族を理解するための諸理論とアセスメントモデル② (藤田・佐々木)  
 [講義・質疑応答・プレゼン]  
 家族アセスメントモデル（家族エンパワーメントモデル、渡辺式など）について学ぶ。  
 5. 家族を理解するための諸理論とアセスメントモデル③ (佐々木)  
 [講義・質疑応答・プレゼン]  
 家族アセスメントモデル（家族エンパワーメントモデル）について学ぶ。  
 6. 家族看護のプロセス [講義・質疑応答] (佐々木)  
 家族の全体像の描写と家族看護過程について学ぶ。  
 7. 家族看護の実践① [講義・質疑応答・プレゼン] (佐々木)  
 新しい家族の誕生と乳児を持つ家族への援助について検討する。  
 8. 家族看護の実践② [講義・質疑応答・プレゼン] (藤田・佐々木)  
 重症心身障がい児をもつ家族への支援について検討する。  
 9. 家族看護の実践③ [講義・質疑応答・プレゼン] (藤田・佐々木)  
 高齢者の在宅介護の家族への支援について検討する。  
 10. 家族看護の実践④ [講義・質疑応答・プレゼン] (藤田・佐々木)  
 救急医療・集中治療の場における家族への支援について検討する。  
 11. 家族看護の実践⑤ [講義・質疑応答・プレゼン] (佐々木)  
 精神疾患を持つ患者の家族への支援について検討する。  
 12. 家族看護の実践⑥ [講義・質疑応答・プレゼン] (佐々木)  
 被虐待児と親への支援について検討する。  
 13. 家族看護の実践⑦ [講義・質疑応答・プレゼン] (佐々木)  
 終末期にある人と家族への支援について検討する。  
 14. 家族看護の実践⑧ [講義・質疑応答・プレゼン] (佐々木)  
 多様な家族の暮らしと支援について検討する。  
 15. まとめ [講義・質疑応答・プレゼン] (佐々木)  
 講義を通して、自分なりに考える家族看護のあり方について考察する。  
 (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

**【準備学習】**  
 (予習)  
 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。  
 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。  
 (復習)  
 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり、4時間以上必要である。

☆時間外学習時間（予習・復習など）は、60時間以上必要であるため、不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

**【評価方法】**

プレゼンテーション（40%）、レポート（60%）

**【備考】**

\*\*\*\*\*

**【科目名】** フィジカルアセスメント

**【授業コード】** 2IN10071

**【代表教員】** 加賀谷 聡子

**【学位授与方針の関連 学習目標】**

《学位授与方針との関連》

看護・保健領域の高度専門職業人としての能力

・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。

看護・保健領域の高度な知識・技術

・高度実践看護師（専門看護師）として、必要な知識やスキルを修得し、実践に生かすことができる。

**【授業概要】【授業計画】【準備学習】【評価方法】**

**【備考】** 専門看護教育課程講義概要（共通科目）参照

\*\*\*\*\*

**【科目名】** 病態生理学

**【授業コード】** 2IN10081

**【代表教員】** 岩橋 桜子

**【学位授与方針の関連 学習目標】**

《学位授与方針との関連》

看護・保健領域の高度専門職業人としての能力

・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。

看護・保健領域の高度な知識・技術

・高度実践看護師（専門看護師）として、必要な知識やスキルを修得し、実践に生かすことができる。

**【授業概要】【授業計画】【準備学習】【評価方法】**

**【備考】** 専門看護教育課程講義概要（共通科目）参照

\*\*\*\*\*

**【科目名】** 臨床薬理学

**【授業コード】** 2IN10091

**【代表教員】** 西村 伸大

**【学位授与方針の関連 学習目標】**

《学位授与方針との関連》

看護・保健領域の高度専門職業人としての能力

・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。

看護・保健領域の高度な知識・技術

・高度実践看護師（専門看護師）として、必要な知識やスキルを修得し、実践に生かすことができる。

**【授業概要】【授業計画】【準備学習】【評価方法】**

**【備考】** 専門看護教育課程講義概要（共通科目）参照

\*\*\*\*\*



看護学専攻 博士前期課程

## 基礎看護科学分野





## 看護学専攻博士前期課程（平成29年度学則） 【基礎看護科学分野】

### ◆看護学専攻 博士前期課程 ディプロマ・ポリシー

- (1) 看護・保健領域の高度専門職業人としての能力
  - ・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。
- (2) 看護・保健領域の高度な知識・技術
  - ・高度実践看護師（専門看護師）として、必要な知識やスキルを修得し、実践に生かすことができる。
- (3) 高い倫理観と研究遂行能力
  - ・看護領域における課題について、高い倫理観を有し、研究計画を立案・遂行し、論文を作成することができる。

専門分野	授業科目	単位認定者 (R3)	単位数	開講時期		社会人特別選抜		(1)	(2)	(3)	ページ
				春	秋	夜間	土曜				
基礎看護科学分野	看護医療安全教育特論	荒添 美紀	2	○		○	×	★			165
	遺伝看護学特論	休講									
	法医看護学特論	岩楯 桜子	2		○	×	×	★			165
	小児保健看護学特論	藤田 千春	2	○		○	○	★			165
	生活機能看護学特論	金子 多喜子	2		○	×	○	★			165
	特別講義	金子 多喜子	2	○		×	○	★			166
	特別講義	荒添 美紀	2	○		○	×	★			166
	看護医療安全教育演習	荒添 美紀	2		○	○	×	★			166
	小児保健看護学演習	藤田 千春	2		○	○	○	★			167
	生活機能看護学演習	金子 多喜子	2		○	×	○	★			167
	特別演習	佐々木 裕子	2		○	○	×	★			167
	特別研究	荒添 美紀	4	○	○	—	—			★	168
	特別研究	金子 多喜子	4	○	○	—	—			★	168

## 【看護学専攻 基礎看護科学分野 博士前期課程 履修モデル】

### ★基礎看護学に関心がある社会人大学院生の履修例

- ・主科目として、専門分野科目から6科目と特別研究を、専攻共通科目から7科目、研究科共通科目から1科目、計15科目30単位を履修する。

修了業要件 (30単位以上)						
科目と単位		1 Semester	2 Semester	3 Semester	4 Semester	計
主 科 目	専 門 分 野 科 目	看護医療安全教育特論 2	遺伝看護学特論 2 法医学看護学特論 2 生活機能看護学演習 2 生活機能看護学特論 2			14
				特別研究 (通年) 2	特別研究 (通年) 2	
	小計	2	8	2	2	
	専 攻 共 通 科 目	看護教育学特論 2 看護管理学特論 2 家族看護学特論 2 病態生理学 2	看護政策学特論 2	看護研究方法論 2 フィジカルアセスメント 2		14
	小計	8	2	4	0	
	研 究 科 共 通 科 目	研究倫理 2				2
小計	2	0	0	0		
主科目小計		12	10	6	2	30
副 科 目	他 専 攻 ・ 他 専 門 分 野 科 目					0
副科目小計		0	0	0	0	
合計		12	10	6	2	60

\*\*\*\*\*

【科目名】看護医療安全教育特論

【授業コード】21N20011

【代表教員】荒添 美紀

【授業概要】

医療安全教育とは、看護倫理をベースとして、有害事象の未然防止や発生した事象への対応、並びに有害事象対象者への適切な対応に向けた教育的取り組みをいし、本講義では、これらに関連する課題や問題の調査・分析及び理論を基に、看護師として求められる医療安全の基本概念を理解し、社会のニーズに応えるべき具体的実践や教育に関する学びを深める。

【学位授与方針の関連 学習目標】

〈学位授与方針との関連〉

看護・保健領域の高度専門職業人としての能力

・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。

〈一般目標 (GIO) 〉

多様な医療事故に関する分析を通して発生の要因・プロセス・予防策を明確にし、医療事故防止の考え方を修得するとともに、学びを具体的な事故防止策や各現場でのリスク管理教育に活かすことができる。

〈個別目標 (SBOs) 〉

①これまでの主要な医療事故・看護事故に関する発生要因・プロセスと対策について分析・評価できる。(知識・技能)

②今後の医療現場におけるリスク発生要因を予測・分析しそれぞれの対応策について考察できる。(知識)

③リスク管理及びリスク管理教育に於ける重要ポイントを明確にできる。(知識)

④グループダイナミクスを活用し効果的なプレゼンテーションができる。(技能)

【授業計画】

1-2. 医療の質と安全 [講義・質疑応答]

これまでの医療安全の歩みを振り返り、様々なリスクを包含する医療・看護の本質を理解し、事故防止の考え方について学ぶ。

3-4. 医療安全と倫理 [講義・質疑応答]

医療安全の基本となる医療倫理・看護倫理教育における重要な視座について学び、有害事象当事者及び対象者への対応について理解を深める。

5-6. 安全管理体制 (1) [講義・質疑応答]

災害時における医療安全の政策展開と組織的取り組みについて学ぶ。

7-8. 安全管理体制 (2) [講義・質疑応答]

感染とリスクアセスメントにおける医療安全の政策展開と組織的取り組みについて学ぶ。

9-11. 看護現場の医療安全 [講義・質疑応答]

主要な看護事故を例に挙げて発生要因・プロセスと対策について考察する。

12-13. 他職種連携における医療安全と患者の視点 [講義・質疑応答]

Insider perspective の理解・共有という視点から捉える事故防止について学ぶ。

14-15. 今後想定される新たな課題と予防策 [講義・質疑応答]

社会のグローバル化、IT 技術の導入や医療機器の高度化及び特定行為看護師、麻酔専門看護師などの普及などに関連した医療現場で想定される新たな課題について検討する。(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は、60 時間以上必要であるため、不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート (30%)、口頭試問 (30%)、プレゼンテーション (40%)

【備考】

\*\*\*\*\*

【科目名】法医学看護学特論

【授業コード】21N20032

【代表教員】岩橋 桜子

【授業概要】

看護師を対象として法医学の基礎と臨床法医学を教授する。特に、児童虐待、ドメスティック・バイオレンス、高齢者虐待や性犯罪被害者の診察補助、法律上根拠となりうる記録方法、治療・予後の判定の補助や心理的ケアに加えて、必要な法的手続きを援助できる法医学を研究し、これを実務上に応用できる臨床法医学を専門とする看護師を育成する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

〈学位授与方針との関連〉

看護・保健領域の高度専門職業人としての能力

・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。

〈一般目標 (GIO) 〉

法医学看護学の基礎と知識を実際に使い、実務に役立てられる応用力を学習する。

〈個別目標 (SBOs) 〉

①臨床の場で実践できる能力を身につける。

②法医学的知識に基づき、虐待への対応を行うことができる。

【授業計画】

1. 臨床法医学と法医学看護学の概要 [講義・質疑応答]

2. 法医学看護師の役割 [講義・質疑応答]

3. 法医学病理学 (1) 内因性急死 [講義・質疑応答]

4. 法医学病理学 (2) 外因性急死 [講義・質疑応答]

5. 法医学病理学 (3) 創傷各論 [講義・質疑応答]

6. 子ども虐待への対応 [講義・質疑応答]

7. ドメスティック・バイオレンスへの対応 [講義・質疑応答]

8. 高齢者虐待への対応 [講義・質疑応答]

9. 性犯罪被害者への対応 [講義・質疑応答]

10. 救急医療に関わる諸問題とグリーフケア [講義・質疑応答]

11. 遺体の検死、検案、解剖の現状 [講義・質疑応答]

12. 看護分野における医療事故とその過失 [講義・質疑応答]

13. 法医学看護師とリスクマネジメント [講義・質疑応答]

14. 諸外国における法医学看護師の役割 [講義・質疑応答]

15. まとめ [講義・質疑応答]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート (50%)、口頭試問 (50%)

【備考】

\*\*\*\*\*

【科目名】小児保健看護学特論

【授業コード】21N20041

【代表教員】藤田 千春

【授業概要】

小児保健及び看護領域で用いられる理論や知見を整理し、現在生じている小児看護上の課題やその支援策について探求する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

〈学位授与方針との関連〉

看護・保健領域の高度専門職業人としての能力

・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。

〈一般目標 (GIO) 〉

①発達途上にある人としての子ども期の特徴・機能を整理する。

②母子関係の発達過程を理解する。

③子どもと家族のセルフケアの発達について理解し、実践や教育に活かすことができる。

④子どものヘルスポモーションの特徴と支援について理解する。

〈個別目標 (SBOs) 〉

①子どもの発達及び母子関係に関する理論家とその内容を整理できる。

②子どもと家族の発達を促進するための要因、支援策について説明できる。

③看護理論をもとに子どものヘルスポモーション支援について検討できる。

【授業計画】

1. ガイダンス、小児看護学領域における倫理的配慮① [講義・質疑応答]

2. 小児看護学領域における倫理的配慮② [講義・プレゼンテーション・質疑応答]

3-4. 子どもの成長・発達：胎生期から第二次性徴までの形態と機能の変化の理解 [講義・プレゼンテーション・質疑応答]

5. 子どもの成長・発達：子どもの栄養と食育および健康増進のための支援 [講義・プレゼンテーション・質疑応答]

6. 子どもの成長・発達：発達障害の理解 [講義・プレゼンテーション・質疑応答]

7. 子どもと家族への支援：家族関係論、家族システム論の理解 [講義・プレゼンテーション・質疑応答]

8. 子どもと家族への支援：新しい家族をむかえる家族・養育期にある家族看護 [講義・プレゼンテーション・質疑応答]

9-14. 子どもに関する諸理論：ピアジェの認知発達理論、エリクソンの自我発達理論、ポウルビイの愛着理論、マラーの分離―一体化理論の理解 [講義・プレゼンテーション・質疑応答]

15. 健康行動理論：健康信念モデル、計画の行動理論、ソーシャルサポートの理解と活用性の検討 [講義・プレゼンテーション・質疑応答]

9-15 までパワーポイントで資料を作り発表する。(評価対象)

7. の講義後に家族アセスメントのレポート課題を課す。(評価対象)

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

レポート (30%)、プレゼンテーション (50%)、口頭試問 (20%)

【備考】

〈テキスト〉授業初回及び適宜提示

\*\*\*\*\*

【科目名】生活機能看護学特論

【授業コード】21N20052

【代表教員】金子 多喜子

【授業概要】

生活機能の柱である個々人における社会とのつながりについて考察し、看護師として働くことについて探求する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

〈学位授与方針との関連〉

看護・保健領域の高度専門職業人としての能力

・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、

指導することができる。

《一般目標 (GIO)》

社会と看護、組織と個人のつながりを検討する。

《個別目標 (SBOs)》

- ①社会の変化と看護行政を理解する。(知識)
- ②看護とキャリア教育の課題を考察する。(知識)
- ③看護師として働くことについて考察する。(知識)

【授業計画】

- 1-2.働くことと健康の関連 [講義・質疑応答]  
組織心理学的視点から働くことを概観する。
- 3-4.社会の変化と看護行政 [プレゼンテーション・質疑応答]  
社会の変化と看護行政の変遷について概観する。
- 5-6.看護の人材確保と育成の実際 [プレゼンテーション・質疑応答]  
社会における看護ニーズから現状の看護における課題を検討する。
- 7-8.キャリアの概念 [講義・質疑応答・演習]  
キャリア発達論を理解しキャリア教育の重要性について考察する。
- 9-10.キャリアと自己理解 [講義・質疑応答・演習]  
キャリアを自らデザインすることの重要性について考察する。
- 11-12.個人と組織 [プレゼンテーション・質疑応答]  
働く者の関係法規を紐解く。
- 13-14.看護の組織と個人 [プレゼンテーション・質疑応答]  
15.看護師として働くこと [プレゼンテーション・質疑応答]  
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

- 1-15.各回とも、それぞれのテーマに関連する文献検討を行い、知見を整理して自己の考えをまとめておくこと。プレゼンテーション実施において、前日までに資料を配布しておくこと。

(復習)

- 1-15.講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

プレゼンテーション(30%)、口頭試問(30%)、レポート(40%)

【備考】

\*\*\*\*\*

【科目名】特別講義

【授業コード】21N20061

【代表教員】金子 多喜子

【授業概要】

看護師のメンタルヘルスの現状を分析し、看護の質を保ち、持続可能性を高める感情のマネジメントおよび代表的な感情労働者とされる看護師について考察する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

看護・保健領域の高度専門職業人としての能力  
・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。

《一般目標 (GIO)》

看護師のメンタルヘルスにおける現状を分析し、持続可能な質の高い看護支援のあり方について検討する。

《個人目標 (SBOs)》

- ①看護師のメンタルヘルスの現状分析ができる。
- ②看護と感情の関連を考察できる。
- ③看護師の感情と感情マネジメントについて理解できる。

【授業計画】

- 1-2.感情 [講義・質疑応答]
- 3-4.対人援助職を取り巻く現状：感情労働 [プレゼンテーション・講義・討議]
- 5-6.援助者のメンタルヘルス：燃えつき症候群・二次的外傷性ストレス [プレゼンテーション・講義・討議]
- 7-8.対人関係とメンタルヘルス：対人攻撃性 [プレゼンテーション・講義・討議]
- 9-10.看護師の感情調整：看護師の感情対処① [プレゼンテーション・講義・討議]
- 11-12.看護師の感情調整：看護師の感情対処② [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
- 13-14.看護師の感情調整：認知再構成法 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
- 15.専門職としての感情マネジメントと教育 [プレゼンテーション・講義・討議]  
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)

- 1-15.予定講義内容について、関連図書と論文をレビューして講義テーマにおける自己の考えを整理し、討議の準備を整える。また、プレゼンテーションのテーマについて、関連する先行研究をレビューして、現状の分析・問題・対策・さらなる問題提起ができるように各自工夫し、討議資料を作成する。プレゼンテーションの方法は問わないが要相談。

(復習)

- 1-15.講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間必要であるため不足分は休暇などを利用して復習すること。

【評価方法】

プレゼンテーション(30%)、口頭試問(30%)、レポート(40%)

【備考】

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

【科目名】特別講義

【授業コード】21N20071

【代表教員】荒添 美紀

【授業概要】

看護学および看護理論の歴史的発展を踏まえ、看護学の重要な概念や看護の基礎となる看護理論の理解を深める。また、諸理論の特徴を踏まえ、看護理論の実践、教育、研究への適応や応用について探求する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

看護・保健領域の高度専門職業人としての能力

・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。

《一般目標 (GIO)》

看護の基礎となる看護理論の歴史的発展を踏まえ、主な看護理論の概念枠組み、理論枠組み、理論構築について理解する。また、主な看護理論の特徴や限界を踏まえ、看護の実践、教育、研究への適応や応用にむけて討議できる。

《個別目標 (SBOs)》

- ①看護学および看護理論の歴史的発展を説明できる。(知識)
- ②主な看護理論の概要とその背景にある考え方について説明できる。(知識)
- ③主な看護理論の特徴とその限界について説明できる。(知識)
- ④看護理論の実践、教育、研究への活用方法について、討議できる。(技能・態度)
- ⑤看護理論の学習を通して、自らの実践を振り返ることができる。(技能・態度)

【授業計画】

- 1.ガイダンス、看護理論とは [講義・質疑応答]  
授業の目的、内容、スケジュールの確認、看護実践における理論的根拠、看護実践と看護理論、代表的な理論家の業績
- 2.看護理論の歴史的発展 [講義・質疑応答・プレゼンテーション・ディスカッション]  
看護理論の発展してきた時代背景と業績
- 3.基本的看護の構成要素と実践への活用 [講義・質疑応答]  
看護理論の構造、看護の主要概念(人間・環境・健康・看護)
- 4.看護理論の分類 [講義・質疑応答]  
テーマによる分類(ニード論、相互作用・人間関係、システム、ケアリング)、大きさによる分類(大理論、中範囲理論、小理論)
- 5-6.看護理論の概要及び評価(1) [講義・質疑応答・プレゼンテーション・ディスカッション]  
ニード/問題をテーマとした理論家の看護理論の概要および限界  
「バージニア・ヘンダーソン」「マイダ・ジーン・オーランド」「ドロセアE・オレム」
- 7-8.看護理論の概要及び評価(2) [講義・質疑応答・プレゼンテーション・ディスカッション]  
相互作用・人間関係をテーマとした理論家の看護理論の概要および限界  
「ヒルデガルド・ペプロウ」「アーネスチン・ウィーデンバック」「ジョイス・トラベルビー」
- 9.看護理論の適用(1) [講義・質疑応答・プレゼンテーション・ディスカッション]  
5-8回の看護理論を看護の実践、教育、研究へどのように適用するかをディスカッションする。
- 10-11.看護理論の概要及び評価(3) [講義・質疑応答・プレゼンテーション・ディスカッション]  
システムをテーマとした理論家の看護理論の概要および限界  
「マーサ・E・ロジャース」「アイジモン・キング」「シスター・カリスタ・ロイ」
- 12-13.看護理論の概要及び評価(4) [講義・質疑応答・プレゼンテーション・ディスカッション]  
ケアリングをテーマとした理論家の看護理論の概要および限界  
「マドレーン・レイニンガー」「ジーン・ワトソン」「パトリシア・ベナー」
- 14.看護理論の適用(2) [講義・質疑応答・プレゼンテーション・ディスカッション]  
10-13回の看護理論を看護の実践、教育、研究へどのように適用するかをディスカッションする。
- 15.まとめ [講義・質疑応答]  
今までの講義のまとめを行う。

(フィードバック方法) レポート、プレゼンテーションに対して、全体および個別に講評を返却する。

【準備学習】

(予習)

- 1-15.各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。  
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

- 1-15.講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は、60時間以上必要であるため、不足分は休暇などを利して復習しておくこと。

【評価方法】

プレゼンテーション(50%)、口頭試問(30%)、レポート(20%)

【備考】

\*\*\*\*\*

【科目名】看護医療安全教育演習

【授業コード】21N20082

【代表教員】荒添 美紀

【授業概要】

看護専門職に求められる医療安全教育の概要は、看護倫理をベースとした、有害事象の未然防止や発生した事象への対応、並びに有害事象対象者への適切な対応に向けた教育的取り組みである。演習では、これらに関連する課題や問題の調査・分析及び理論を基に、看護師として求められる医療安全の基本概念を通して、社会のニーズに応え得る具体的な医療安全管理や教育に関する実践的方法について学びを深め共有する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

看護・保健領域の高度専門職業人としての能力

・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。

＜一般目標 (GIO)＞

多様な医療事故に関する分析を通して、発生の要因・プロセス・予防策を明確にし、医療事故防止の考え方を習得するとともに、その学びを具体的な事故防止策や各現場でのリスク管理教育に活かすことができる。

＜個別目標 (SBOs)＞

- ①これまでの主要な医療事故・看護事故に関する発生の要因・プロセスの分析を通して、事故防止教育の重要ポイントについて説明できる。(知識)
- ②今後の医療現場におけるリスク発生の要因を予測・分析し、現場教育に活かす具体的な対策案を検討できる。(技能)
- ③リスク管理及びリスク管理教育に於ける重要ポイントを明確にできる。(知識)
- ④グループダイナミクスを活用し効果的なプレゼンテーションができる。(技能・態度)

**【授業計画】**

- 1-2. 教育的視点で考える医療の質と安全 [講義・グループワーク]  
これまでの医療安全の歩みを振り返り、様々なリスクを包含する医療・看護の本質を理解し、事故防止の教育方法について学ぶ。
- 3-4. 教育的視点で考える医療安全と倫理 [講義・グループワーク・プレゼンテーション]  
医療安全の基本となる医療倫理・看護倫理教育における重要な視座について学び、具体的な倫理教育や有害事象当事者及び対象者への効果的関わりについて学ぶ。
- 5-6. 教育的視点で考える安全管理体制① [講義・グループワーク・プレゼンテーション]  
災害サイクルの概念と各サイクルにおけるリスク管理教育や取り組みについて学ぶ。
- 7-8. 教育的視点で考える安全管理体制② [講義・グループワーク・プレゼンテーション]  
感染のリスクアセスメント並びに医療安全の組織的取り組みについて学ぶ。
- 9-11. 教育的視点で考える看護現場の医療安全 [講義・グループワーク・プレゼンテーション]  
主要な看護事故を例に挙げて発生の要因・プロセスと対策について考察し、具体的なリスク管理教育に関するアクションプランを検討する。
- 12-13. 教育的視点で考える他職種連携における医療安全と患者の視点 [講義・グループワーク]  
Insider perspective の理解・共有という視点から捉える事故防止教育について学ぶ。
- 14-15. 教育的視点で考える今後想定される新たな課題と予防策 [講義・グループワーク・プレゼンテーション]  
社会のグローバル化、IT技術の導入や医療機器の高度化及び特定行為看護師、麻酔専門看護師などの普及等に関連した医療現場で想定される新たなリスクと教育的課題について検討する。

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

**【準備学習】**

- (予習)
- 1-8. 医療の質と安全に関する自己の検討課題を簡潔にまとめておく。
  - 9-15. 自己のアクションプランについて準備学習を行う。
- (復習)
- 1-8. 自己の課題について授業で学んだことをノートにまとめておく。
  - 9-15. プレゼンテーションの準備・評価を行う。
- (各回予習 90分・復習 90分)
- \*アクションプランに関する具体的なオリエンテーションは授業内で行う。
- ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。
- ☆時間外学習時間 (予習復習など) は、60 時間以上必要であるため、不足分は休暇などを利用して修得しておくこと。

**【評価方法】**

課題 (30%)、プレゼンテーション (50%)、口頭試問 (20%)

**【備考】**  
厚労省医療  
[http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kerkou\\_iryuu/iryuu/i-anzen/index.html](http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kerkou_iryuu/iryuu/i-anzen/index.html)  
安全対策

**【科目名】** 小児保健看護学演習

**【授業コード】** 21N20092

**【代表教員】** 藤田 千春

**【授業概要】**

子どもと家族の健康問題を多角的にとらえ、子どもと家族への適切な保健及び健康回復支援の方策について検討できる。研究の基礎知識及び近年の知見や研究報告を整理し、子どもと家族に対する保健および健康回復に寄与する研究視点の基礎を養う。

**【学位授与方針の関連 学習目標】**

- ＜学位授与方針との関連＞
- 看護・保健領域の高度専門職業人としての能力
- ・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。
- ＜一般目標 (GIO)＞
- ①子どもと関わる看護現象を多角的にとらえ、ダイナミクスや構造をとらえる力を養う。
  - ②子どもと家族にとっての看護倫理を再考し、必要な関わりを提言できる。
  - ③健康課題、発達に課題を抱えている子どもと家族に関する文献検討から支援課題を検討できる。
- ＜個別目標 (SBOs)＞
- ①対象に合わせた健康支援及び看護が理解できる。
  - ②子どもと家族の健康および QOL 向上の支援について検討することができる。
  - ③文献検討から支援課題を抽出し、その看護の方策について説明できる。

**【授業計画】**

1. ガイダンス・地域における子育て支援や母子保健的な取り組みの概要 [講義・質疑応答]
- 2-3. 文献クリティーク・文献検討の説明 [プレゼンテーション・質疑応答・講義]  
カウンセリングリサーチ入門の「論文の読み方」をもとにクリティークする。
4. 特別支援教育が必要な子どもの理解と看護 (養護) 的支援の検討  
精神・知的障害児 [プレゼンテーション・質疑応答]
5. 特別支援教育が必要な子どもの理解と看護 (養護) 的支援の検討  
視覚障害児 [プレゼンテーション・質疑応答]
6. 特別支援教育が必要な子どもの理解と看護 (養護) 的支援の検討  
聴力障害児 [プレゼンテーション・質疑応答]
7. 特別支援教育が必要な子どもの理解と看護 (養護) 的支援の検討

8. 特別支援教育が必要な子どもの理解と看護 (養護) 的支援の検討  
病弱児 (慢性疾患、医療的ケア児) [プレゼンテーション・質疑応答]
9. 特別支援教育が必要な子どもの理解と看護 (養護) 的支援の検討  
不登校・いじめ [プレゼンテーション・質疑応答]
10. 継続した支援が必要な子どもの理解と看護 (養護) 的支援の検討  
アレルギー [プレゼンテーション・質疑応答]
- 11-12. 発達障害児の保護者支援：ペアレントトレーニングの実際 [講義・演習・質疑応答]
- 13-14. 幼児期の子どもに対する健康教育の検討、各自関心のある幼児期の健康課題から必要な健康教育を検討及び発表 [プレゼンテーション・質疑応答]
15. 学童期の子どもに対する健康教育の検討、各自関心のある幼児期の健康課題から必要な健康教育を検討及び発表 [プレゼンテーション・質疑応答]  
・興味ある子どもの保健・看護論文 (研究テーマ) にそって文献をクリティークし、適切な文献を収集して文献検討結果をプレゼンする (4-10)  
・対象に合わせた方法と健康課題から健康教育のプレゼンする (13-15)。  
(フィードバック方法) 前回の講義内容のフィードバック講義中あるいは次回の講義の最初に行う。

**【準備学習】**

- (予習)
- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。  
次回テーマに関してのデータ整理・検討し資料を作成すること。
- (復習)
- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
- ※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。
- ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。
- ☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

**【評価方法】**

プレゼンテーション (50%)、口頭試問 (50%)

**【備考】**

\*\*\*\*\*

**【科目名】** 生活機能看護学演習

**【授業コード】** 21N20102

**【代表教員】** 金子 多喜子

**【授業概要】**

社会の構造と健康について概観し、既存の概念枠組みから生活機能を多面的にとらえる視点を考察する。

**【学位授与方針の関連 学習目標】**

- ＜学位授与方針との関連＞
- 看護・保健領域の高度専門職業人としての能力
- ・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。
- ＜一般目標 (GIO)＞
- 生活機能を多面的にとらえる基礎を修得する。
- ＜個別目標 (SBOs)＞
- ①健康の社会的決定要因について理解する。(知識)
  - ②求められる健康の多様性を理解する。(知識)
  - ③看護活動を支える教育の課題について探究する。(態度・習慣) (知識)

**【授業計画】**

- 1-2. プレゼンテーションと論理的思考 [講義・質疑応答]  
本科目における思考を整理する視点について理解する。
- 3-4. 健康格差の現状と背景 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]  
健康格差の現状と背景を先行研究から読み解く。
- 5-6. 健康の公平性と社会 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]  
健康の公平性を担保する社会的しくみについて検討する。
- 7-8. 看護研究の実際① [講義・質疑応答]
- 9-10. 看護研究の実際② [講義・質疑応答]
- 11-12. 多様性の理解① [プレゼンテーション・講義・質疑応答]  
求められる健康の多様化と社会的マイノリティについて検討する。
- 13-14. 多様性の理解② [プレゼンテーション・講義・質疑応答]  
求められる健康の多様化と格差について検討する。
15. 看護の多様性と教育 [プレゼンテーション・講義・質疑応答]  
求められる健康の多様化と高度な看護ニーズについて検討する。  
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

**【準備学習】**

- (予習)
- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する文献検討を行い、知見を整理して自己の考えをまとめておくこと。プレゼンテーション実施において、前日までに資料を配布しておくこと。
- (復習)
- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。
- ※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。
- ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。
- ☆時間外学習時間 (予習復習など) は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

**【評価方法】**

プレゼンテーション (30%)、口頭試問 (30%)、レポート (40%)

**【備考】**

\*\*\*\*\*

**【科目名】** 特別演習

**【授業コード】** 21N20112

**【代表教員】** 佐々木 裕子

**【授業概要】**

生涯発達の視点から「親になる」ことを捉え、子どもの誕生に伴う親への移行期にある女性と家族の健康上の課題とその支援について、関連する概念や理論、国内外の研究の動向から検討

する。また、子育てに関わる地域社会のサポートシステムや制度、施策を踏まえて、移行期にある人々の well-being の向上を目指した看護支援のあり方を探求する。

### 【学位授与方針の関連 学習目標】

#### ＜学位授与方針との関連＞

看護・保健領域の高度専門職業人としての能力

・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。

＜一般目標 (GIO) ＞

親への移行期にある人々の健康課題を理解し、ウェルネスの視点から課題解決に向けた看護支援について専門的に学ぶ。

＜個別目標 (SBOs) ＞

- ①女性とその家族が新しい家族を形成する過程とそこで生じる健康課題や発達の变化が説明できる。
- ②移行、役割、適応、ジェンダーなどの親になることに関連する概念や理論が理解でき、説明できる。
- ③子どもの誕生をめぐって生じる生活や健康上の変化に対する支援のあり方を社会のサポートシステム、制度、施策から検討し、説明できる。
- ④様々な状況下で移行に伴う人々の役割獲得や適応を促すための支援に関する最近の見解と課題、看護介入について理解することができる。

### 【授業計画】

1. ガイダンス 親になる人々を取り巻く社会的背景 [講義・質疑応答]
  - 2-4. 親になることに関連する概念と移行理論 [プレゼンテーション・ディスカッション]
  5. 移行に伴う健康課題 (1) メンタルヘルス [プレゼンテーション・ディスカッション]
  6. 移行に伴う健康課題 (2) 夫婦関係 [プレゼンテーション・ディスカッション]
  7. 移行に伴う健康課題 (3) 子育て [プレゼンテーション・ディスカッション]
  8. 移行期の家族アセスメント [講義・ディスカッション]
  - 9-11. 移行期にある女性と家族を支える支援 (親準備期、育児期、ハイリスク家族) [プレゼンテーション・ディスカッション]
  12. 家族を取り巻く社会の状況 (社会システム・制度・健康施策) [プレゼンテーション・ディスカッション]
  - 13-15. 海外におけるペアレンティングプログラム [プレゼンテーション・ディスカッション]
- (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

### 【準備学習】

(予習)

- 1-15. 初講義に事前課題を提示する。  
提示された課題について文献を活用し、授業前日までにプレゼン資料を作成する。  
(復習)
- 1-15. 学習した内容を整理し、次回の課題に活用する。  
※全ての回、予習は90分、復習は90分必要である。  
☆概ね週当たり4時間必要である  
☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

### 【評価方法】

プレゼンテーション (60%)、口頭試問 (40%)

### 【備考】

\*\*\*\*\*

### 【科目名】 特別研究

【授業コード】 2IN2T1A1 2IN2T1A2

【代表教員】 荒添 美紀

### 【授業概要】

関心のあるテーマから研究課題を設定し、研究テーマに沿った研究計画を作成したうえで、調査・実験などによりデータを収集・分析を行い論文としてまとめる。論文作成の過程を通して研究する能力を修得する。

### 【学位授与方針の関連 学習目標】

#### ＜学位授与方針との関連＞

高い倫理観と研究遂行能力

・看護領域における課題について、高い倫理観を有し、研究計画を立案・遂行し、論文を作成することができる。

＜一般目標 (GIO) ＞

自らの研究活動を通して看護研究に必要な考え方や手法を学び、研究者としての基礎的能力を修得する。

＜個別目標 (SBOs) ＞

- ①関心のある研究疑問から研究テーマへと発展させることができる。(知識)
- ②研究テーマを明確化し、研究計画の立案、研究実施の過程を遂行できる。(技能)
- ③倫理的に適切な研究方法を選択できる。(知識)
- ④結果を分析・考察し論文を論理的にまとめることができる。(技能)

### 【授業計画】

- 1-5. 問題点の焦点化と研究課題の抽出 [演習]
  - 6-10. 研究計画書の作成 [演習]
  - 11-15. データ収集 [演習]
  - 16-20. データ分析 [演習]
  - 21-25. 結果、考察の検討 [演習]
  - 26-30. 論文作成 [演習]
- (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

### 【準備学習】

(予習)

- 1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。  
また次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。  
(復習)
- 1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。  
☆概ね週当たり4時間以上必要である。  
☆時間外学習時間(予習復習など)は、120時間以上必要であるため、不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

### 【評価方法】

論文 (90%)、口頭試問 (10%)

### 【備考】

\*\*\*\*\*

### 【科目名】 特別研究

【授業コード】 2IN2T1C1 2IN2T1C2

【代表教員】 金子 多喜子

### 【授業概要】

文献検討により明らかになった研究目的に沿って研究方法を選択し、収集したデータの分析を行い論文としてまとめる。一連の論文作成過程を通して、研究するための基礎的能力を修得する。

### 【学位授与方針の関連 学習目標】

#### ＜学位授与方針との関連＞

高い倫理観と研究遂行能力

・看護領域における課題について、高い倫理観を有し、研究計画を立案・遂行し、論文を作成することができる。

＜一般目標 (GIO) ＞

修士論文作成の過程から研究能力を向上させる。

＜個別目標 (SBOs) ＞

- ①研究疑問から文献検索を行い、研究目的を明確にできる。
- ②研究計画に基づき自ら研究を遂行できる。
- ③研究結果の実践への応用について説明できる。
- ④科学的かつ論理的に論文をまとめることができる。

### 【授業計画】

- 1-5. 問題の焦点化と研究課題の抽出 [演習]
  - 6-10. 研究計画書作成 [演習]
  - 11-15. データ収集 [演習]
  - 16-20. データ分析 [演習]
  - 21-25. 結果、考察の検討 [演習]
  - 26-30. 論文作成 [演習]
- (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

### 【準備学習】

(予習)

- 1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。  
また次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。  
(復習)
- 1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。  
※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。  
☆概ね週当たり4時間以上必要である。  
☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

### 【評価方法】

論文 (90%)、口頭試問 (10%)

### 【備考】

\*\*\*\*\*

看護学専攻 博士前期課程

**実践看護科学分野**





## 看護学専攻博士前期課程（平成29年度学則） 【実践看護科学分野】

### ◆看護学専攻 博士前期課程 ディプロマ・ポリシー

- (1)看護・保健領域の高度専門職業人としての能力  
・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。
- (2)看護・保健領域の高度な知識・技術  
・高度実践看護師（専門看護師）として、必要な知識やスキルを修得し、実践に生かすことができる。
- (3)高い倫理観と研究遂行能力  
・看護領域における課題について、高い倫理観を有し、研究計画を立案・遂行し、論文を作成することができる。

専門分野	授業科目	単位認定者 (R4)	単位数	開講時期		社会人特別選抜		備考	(1)	(2)	(3)	ページ
				春	秋	夜間	土曜					
実 践 看 護 科 学 分 野	精神看護学特論Ⅰ	浅沼 奈美	2	○		—	—	※	★	★		217
	精神看護学特論Ⅱ	浅沼 奈美	2	○		—	—	※	★	★		218
	精神看護学特論Ⅲ	浅沼 奈美	2	○		—	—	※	★	★		219
	精神看護学特論Ⅳ	佐藤 美保	2		○	—	—	※	★	★		219
	精神看護学特論Ⅴ	佐藤 美保	2		○	—	—	※	★	★		220
	精神看護学演習Ⅰ	佐藤 美保	2		○	—	—	※	★	★		221
	精神看護学演習Ⅱ	佐藤 美保	2		○	—	—	※	★	★		222
	精神看護学実習	浅沼 奈美	10		○	—	—	※	★	★		223
	がん看護学特論Ⅰ	中島 恵美子	2	○		—	—	※	★	★		196
	がん看護学特論Ⅱ	中島 恵美子	2	○		—	—	※	★	★		197
	がん看護学特論Ⅲ	中島 恵美子	2		○	—	—	※	★	★		198
	がん看護学特論Ⅳ	量 倫子	4		○	—	—	※	★	★		199
	がん看護学演習Ⅰ	中島 恵美子	2	○		—	—	※	★	★		200
	がん看護学演習Ⅱ	中島 恵美子	2		○	—	—	※	★	★		201
	がん看護学実習	中島 恵美子	10		○	—	—	※	★	★		202
	クリティカルケア看護学特論Ⅰ	加賀谷 聡子	2	○		—	—	※	★	★		205
	クリティカルケア看護学特論Ⅱ	伊藤 有美	2	○		—	—	※	★	★		206
	クリティカルケア看護学特論Ⅲ	加賀谷 聡子	2		○	—	—	※	★	★		207
	クリティカルケア看護学演習Ⅰ	伊藤 有美	2		○	—	—	※	★	★		209
	クリティカルケア看護学演習Ⅱ	伊藤 有美	2		○	—	—	※	★	★		210
	クリティカルケア看護学演習Ⅲ	加賀谷 聡子	2		○	—	—	※	★	★		211
クリティカルケア看護学実習	加賀谷 聡子	10		○	—	—	※	★	★		212	
高齢者看護学特論	坂井 志麻	2	○		○	×		★			176	
高齢者看護学演習	坂井 志麻	2		○	○	×		★			177	
ウィメンズヘルス看護学特論	松岡 恵	2	○		○	×		★			177	
ウィメンズヘルス看護学演習	松岡 恵	2		○	○	×		★			178	
助産学特論	加藤 千晶	2	○		○	×		★			178	
助産学演習	加藤 千晶	2	○		○	×		★			178	
小児看護学特論	伊藤 久美	2	○		○	○		★			178	
小児看護学演習	伊藤 久美	2		○	○	○		★			179	
地域看護学特論Ⅰ	大木 幸子	2	○		○	×		★			179	
地域看護学特論Ⅱ	大木 幸子	2	○		○	×		★		★	179	
地域看護学演習Ⅰ	大木 幸子	2		○	○	○		★			180	
地域看護学演習Ⅱ	大木 幸子	2		○	○	×		★			180	
在宅看護学特論	柴崎 美紀	2		○	○	×		★			180	
在宅看護学演習	柴崎 美紀	2		○	○	×		★			181	

## 看護学専攻博士前期課程（平成29年度学則） 【実践看護科学分野】

### ◆看護学専攻 博士前期課程 ディプロマ・ポリシー

- (1)看護・保健領域の高度専門職業人としての能力  
・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。
- (2)看護・保健領域の高度な知識・技術  
・高度実践看護師（専門看護師）として、必要な知識やスキルを修得し、実践に生かすことができる。
- (3)高い倫理観と研究遂行能力  
・看護領域における課題について、高い倫理観を有し、研究計画を立案・遂行し、論文を作成することができる。

専門分野	授業科目	単位認定者 (R4)	単位数	開講時期		社会人特別選抜		備考	(1)	(2)	(3)	ページ
				春	秋	夜間	土曜					
実践看護科学分野	病態治療論	東 利江	2	○		—	—	※	★	★		208
	特別講義	大木 幸子	2	○		○	○		★			181
	特別講義	佐藤 ユキ子	2		○	○	×		★			181
	特別演習（がん看護）	中島 恵美子	2		○	○	○				★	182
	特別演習（クリティカルケア看護）	加賀谷 聡子	2		○	○	○				★	182
	特別演習（精神看護）	浅沼 奈美	2		○	○	×				★	182
	特別研究	浅沼 奈美	4	○	○	—	—				★	182
	特別研究	大木 幸子	4	○	○	—	—				★	182
	特別研究	加賀谷 聡子	4	○	○	—	—				★	183
	特別研究	中島 恵美子	4	○	○	—	—				★	183
	特別研究	柴崎 美紀	4	○	○	—	—				★	183
	特別研究	坂井 志麻	4	○	○	—	—				★	183
	特別研究	佐々木 裕子	4	○	○	—	—				★	184
	特別研究	佐藤 ユキ子	4	○	○	—	—				★	184
	特別研究	田原 美香	4	○	○	—	—				★	184
特別研究	藤田 千春	4	○	○	—	—				★	184	

※専門看護師教育課程科目の選択必修科目となる。

また、専門看護師教育課程を希望していない学生も履修可能である。

## 【看護学専攻 実践看護科学分野 博士前期課程 履修モデル】

★精神看護の専門看護師を目指す社会人大学院生の履修例

- ・主科目として、専門分野科目から実習を含めて8科目24単位と専攻共通科目から7科目14単位、研究科共通科目から1科目2単位の計40単位を履修する。
- ・加えて、特定の課題に関する研究報告書を作成するにあたり、特別演習2単位を履修する。
- ・上記履修科目は、専門看護師教育課程に則った履修科目となっている。

修了要件 (30単位以上)							
科目と単位		1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	計	
主 科 目	専 門 分 野 科 目	精神看護学特論Ⅰ	2	精神看護学特論Ⅳ	2	特別演習	2
		精神看護学特論Ⅱ	2	精神看護学特論Ⅴ	2		
		精神看護学特論Ⅲ	2	精神看護学演習Ⅰ	2		
				精神看護学演習Ⅱ	2		
	精神看護学実習					10	
	小計		6	8	0	12	26
	専 攻 共 通 科 目	看護教育学特論	2	コンサルテーション論	2		14
		看護管理学特論	2				
		看護研究方法論	2				
		フィジカルアセスメント	2				
	病態生理学	2					
	臨床薬理学	2					
小計		12	2	0	0		
研 究 科 共 通 科 目	研究倫理	2				2	
小計		2	0	0	0		
主科目小計		20	10	0	0		
副 科 目	他 専 攻 ・ 他 専 門 分 野 科 目					0	
副科目小計		0	0	0	0		
42		20	10	0	12	42	

## 【看護学専攻 実践看護科学分野 博士前期課程 履修モデル】

★がん看護の専門看護師を目指す社会人大学院生の履修例

- ・主科目として、専門分野科目から実習を含めて8科目24単位、専攻共通科目から7科目14単位、研究科共通科目から1科目2単位の計40単位を履修する。
- ・加えて、特定の課題に関する研究報告書を作成するにあたり、特別演習2単位を履修する。
- ・上記履修科目は、専門看護師教育課程に則った履修科目となっている。

修了要件 (30単位以上)							
科目と単位		1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	計	
主 科 目	専 門 分 野 科 目	がん看護学特論Ⅰ	2	がん看護学特論Ⅲ	2	特別演習	2
		がん看護学特論Ⅱ	2	がん看護学特論Ⅳ	4		
	がん看護学演習Ⅰ	2	がん看護学演習Ⅱ	2			26
	がん看護学実習					10	
	小計	6	8	0	12		
	専 攻 共 通 科 目	看護教育学特論	2	コンサルテーション論	2		14
看護管理学特論	2						
看護研究方法論	2						
フィジカルアセスメント	2						
病態生理学	2						
臨床薬理学	2						
小計	12	2	0	0			
研 究 科 共 通 科 目	研究倫理	2				2	
小計	2	0	0	0			
主科目小計		20	10	0	0		
副 科 目	他 専 攻 ・ 他 専 門 分 野 科 目					0	
副科目小計	0	0	0	0			
合計		20	10	0	12	42	

## 【看護学専攻 実践看護科学分野 博士前期課程 履修モデル】

### ★クリティカルケア看護の専門看護師を目指す社会人大学院生の履修例

- ・主科目として、専門分野科目から実習を含めて8科目24単位と専攻共通科目から7科目14単位、研究科共通科目から1科目2単位の計40単位を履修する。  
加えて、特定の課題に関する研究報告書を作成するにあたり、特別演習2単位を履修する。
- ・上記履修科目は、専門看護師教育課程に則った履修科目となっている。

修了要件 (30単位以上)						
科目と単位		1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	計
主 科 目	専 門 分 野 科 目	クリティカルケア看護学特論Ⅰ 2 クリティカルケア看護学特論Ⅱ 2 クリティカルケア看護学演習Ⅰ 2 病態治療論 2	クリティカルケア看護学特論Ⅲ 2 クリティカルケア看護学演習Ⅱ 2 クリティカルケア看護学演習Ⅲ 2		特別演習 2	26
		クリティカルケア看護学実習 10				
	小計	8	6	0	12	
	専 攻 共 通 科 目	看護教育学特論 2 看護管理学特論 2 看護研究方法論 2 フィジカルアセスメント 2 病態生理学 2 臨床薬理学 2	コンサルテーション論 2			14
	小計	12	2	0	0	
	研 究 科 共 通 科 目	研究倫理 2				2
小計	2	0	0	0		
主科目小計		22	8	0	0	
副 科 目	他 専 攻 ・ 他 専 門 分 野 科 目					0
副科目小計		0	0	0	0	
合計		22	8	0	12	42

## 【看護学専攻 実践看護科学分野 博士前期課程 履修モデル】

★実践看護科学分野において学位論文を作成し、修士の学位取得を目指す一般及び社会人大学院生の履修例

- ・主科目として、専門分野科目から5科目と特別研究を、専攻共通科目から6科目、研究科共通科目から1科目、計14科目30単位を履修する。

※履修にあたっては、Ⅱ教務事項 3)授業科目および取得すべき単位の(1)(2)を参照すること。

修了業要件 (30単位以上)						
科目と単位		1 Semester	2 Semester	3 Semester	4 Semester	計
主 科 目	専門 分 野 科 目	地域看護学特論 I 2 地域看護学特論 II 2 特別講義 2	地域看護学演習 I 2 地域看護学演習 II 2			14
				特別研究(通年) 2	特別研究(通年) 2	
	小計	6	4	2	2	
	専 攻 共 通 科 目	看護教育学特論 2 看護管理学特論 2 看護研究方法論 2 病態生理学 2 臨床薬理学 2	看護政策学特論 2	フィジカルアセスメント 2		14
	小計	10	2	2	0	
	研 究 科 共 通 科 目	研究倫理 2				2
	小計	2	0	0	0	
主科目小計		18	6	4	2	
	副 科 目	他 専 攻 ・ 他 専 門 分 野 科 目				0
副科目小計		0	0	0	0	
合計		18	6	4	2	30



\*\*\*\*\*  
【科目名】がん看護学演習Ⅰ  
【授業コード】21N30131  
【代表教員】中島 恵美子  
【学位授与方針の関連 学習目標】  
《学位授与方針との関連》  
看護・保健領域の高度専門職業人としての能力  
・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。  
看護・保健領域の高度な知識・技術  
・高度実践看護師（専門看護師）として、必要な知識やスキルを修得し、実践に生かすことができる。  
【授業概要】【授業計画】【準備学習】【評価方法】  
【備考】専門看護教育課程 がん看護 講義概要参照  
\*\*\*\*\*

【科目名】がん看護学演習Ⅱ  
【授業コード】21N30142  
【代表教員】中島 恵美子  
【学位授与方針の関連 学習目標】  
《学位授与方針との関連》  
看護・保健領域の高度専門職業人としての能力  
・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。  
看護・保健領域の高度な知識・技術  
・高度実践看護師（専門看護師）として、必要な知識やスキルを修得し、実践に生かすことができる。  
【授業概要】【授業計画】【準備学習】【評価方法】  
【備考】専門看護教育課程 がん看護 講義概要参照  
\*\*\*\*\*

【科目名】がん看護学実習  
【授業コード】21N30151 21N30152  
【代表教員】中島 恵美子  
【学位授与方針の関連 学習目標】  
《学位授与方針との関連》  
看護・保健領域の高度専門職業人としての能力  
・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。  
看護・保健領域の高度な知識・技術  
・高度実践看護師（専門看護師）として、必要な知識やスキルを修得し、実践に生かすことができる。  
【授業概要】【授業計画】【準備学習】【評価方法】  
【備考】専門看護教育課程 がん看護 講義概要参照  
\*\*\*\*\*

【科目名】クリティカルケア看護学特論Ⅰ  
【授業コード】21N30161  
【代表教員】加賀谷 聡子  
【学位授与方針の関連 学習目標】  
《学位授与方針との関連》  
看護・保健領域の高度専門職業人としての能力  
・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。  
看護・保健領域の高度な知識・技術  
・高度実践看護師（専門看護師）として、必要な知識やスキルを修得し、実践に生かすことができる。  
【授業概要】【授業計画】【準備学習】【評価方法】  
【備考】専門看護教育課程 クリティカルケア看護 講義概要参照  
\*\*\*\*\*

【科目名】クリティカルケア看護学特論Ⅱ  
【授業コード】21N30171  
【代表教員】伊藤 有美  
【学位授与方針の関連 学習目標】  
《学位授与方針との関連》  
看護・保健領域の高度専門職業人としての能力  
・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。  
看護・保健領域の高度な知識・技術  
・高度実践看護師（専門看護師）として、必要な知識やスキルを修得し、実践に生かすことができる。  
【授業概要】【授業計画】【準備学習】【評価方法】  
【備考】専門看護教育課程 クリティカルケア看護 講義概要参照  
\*\*\*\*\*

【科目名】クリティカルケア看護学特論Ⅲ  
【授業コード】21N30182  
【代表教員】加賀谷 聡子  
【学位授与方針の関連 学習目標】  
《学位授与方針との関連》  
看護・保健領域の高度専門職業人としての能力  
・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。  
看護・保健領域の高度な知識・技術  
・高度実践看護師（専門看護師）として、必要な知識やスキルを修得し、実践に生かすことができる。  
【授業概要】【授業計画】【準備学習】【評価方法】  
【備考】専門看護教育課程 クリティカルケア看護 講義概要参照  
\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*  
【科目名】クリティカルケア看護学演習Ⅰ  
【授業コード】21N30192  
【代表教員】伊藤 有美  
【学位授与方針の関連 学習目標】  
《学位授与方針との関連》  
看護・保健領域の高度専門職業人としての能力  
・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。  
看護・保健領域の高度な知識・技術  
・高度実践看護師（専門看護師）として、必要な知識やスキルを修得し、実践に生かすことができる。  
【授業概要】【授業計画】【準備学習】【評価方法】  
【備考】専門看護教育課程 クリティカルケア看護 講義概要参照  
\*\*\*\*\*

【科目名】クリティカルケア看護学演習Ⅱ  
【授業コード】21N30202  
【代表教員】伊藤 有美  
【学位授与方針の関連 学習目標】  
《学位授与方針との関連》  
看護・保健領域の高度専門職業人としての能力  
・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。  
看護・保健領域の高度な知識・技術  
・高度実践看護師（専門看護師）として、必要な知識やスキルを修得し、実践に生かすことができる。  
【授業概要】【授業計画】【準備学習】【評価方法】  
【備考】専門看護教育課程 クリティカルケア看護 講義概要参照  
\*\*\*\*\*

【科目名】クリティカルケア看護学演習Ⅲ  
【授業コード】21N30212  
【代表教員】加賀谷 聡子  
【学位授与方針の関連 学習目標】  
《学位授与方針との関連》  
看護・保健領域の高度専門職業人としての能力  
・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。  
看護・保健領域の高度な知識・技術  
・高度実践看護師（専門看護師）として、必要な知識やスキルを修得し、実践に生かすことができる。  
【授業概要】【授業計画】【準備学習】【評価方法】  
【備考】専門看護教育課程 クリティカルケア看護 講義概要参照  
\*\*\*\*\*

【科目名】クリティカルケア看護学実習  
【授業コード】21N30221 21N30222  
【代表教員】加賀谷 聡子  
【学位授与方針の関連 学習目標】  
《学位授与方針との関連》  
看護・保健領域の高度専門職業人としての能力  
・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。  
看護・保健領域の高度な知識・技術  
・高度実践看護師（専門看護師）として、必要な知識やスキルを修得し、実践に生かすことができる。  
【授業概要】【授業計画】【準備学習】【評価方法】  
【備考】専門看護教育課程 クリティカルケア看護 講義概要参照  
\*\*\*\*\*

【科目名】高齢者看護学特論  
【授業コード】21N30231  
【代表教員】坂井 志麻  
【授業概要】  
高齢者看護で用いる理論、概念について学び、高齢者とその家族を対象にした看護を実践するための理論的基盤を養う。生涯発達の視点からライフステージとしての高齢期を考え、高齢者とその家族の生活に基づいたヘルスアセスメント方法、高齢者をとりまく様々な諸制度や介護サービス、サポートシステム、多職種との連携、高齢者をとりまく社会政策、国際レベルでの政策や高齢者ケアの動向について理解を深め、高齢者ケアの専門性についてディスカッションをもとに修得していく。  
【学位授与方針の関連 学習目標】  
《学位授与方針との関連》  
看護・保健領域の高度専門職業人としての能力  
・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。  
《一般目標 (GIO)》  
高齢者看護学領域の中で学問的関心のあるテーマを設定でき、それに伴う問題の背景や現状と具体的な看護援助、研究方法について理解し、研究的問いを立てることができる。  
《個別目標 (SB0s)》  
①高齢者看護学で用いる理論や概念について述べることができる。  
②ライフステージにある高齢期とはどのような段階を示すのか説明することができる。  
③我が国の人口動態と疾病構造を踏まえ、高齢者とその家族が抱える健康や生活問題について述べるができる。  
④我が国の介護の現場及び介護保険制度、介護の国際動向などを踏まえて、高齢者介護をめぐる諸問題について説明することができる。  
⑤高齢者とその家族への具体的支援について例をあげて説明することができる。  
⑥高齢者看護分野における看護政策や国際的動向について説明することができる。  
【授業計画】  
1. 高齢者看護学特論ガイダンス [講義・質疑応答]  
高齢者看護学特論で扱うテーマや内容についてオリエンテーションを行い、今後の計画



- を立てる。
- 2-3. 高齢者看護で用いる理論と概念 [講義・プレゼンテーション・質疑応答]  
 高齢者看護学で用いられている看護理論について、その有効性と範囲、理論枠組みなどを、文献検討を行いディスカッションする。
- 4-5. ライフステージとしての高齢期 [講義・プレゼンテーション・質疑応答]  
 高齢者の発達課題、エンパワーメント、ストレングスモデルなどについて文献を読み討  
 論する。
- 6-7. 高齢者の健康生活評価 [講義・質疑応答]  
 高齢者の総合的機能評価 (CGA)、QOLと評価、国際生活機能分類 (ICF) の考え方について学ぶ。
- 8-9. 家族看護とアセスメント [講義・プレゼンテーション・質疑応答]  
 家族に関連する諸理論を踏まえ、家族が問題対処能力を高めながら、問題解決できるように援助するためのアセスメント方法を学ぶ。
- 10-11. 老年保健医療福祉政策 [講義・質疑応答]  
 老人福祉法・老人保健法・介護保険などを含む老年保健医療福祉政策を理解し、その特徴を明確にする。
- 12-13. 継続ケアとケアマネジメント [講義・プレゼンテーション・質疑応答]  
 ケアマネジメントの理論と方法を理解し、ケアの継続性と地域包括ケアの視点を踏まえた高齢者ケアについてディスカッションする。
- 14-15. 世界の保健医療福祉政策 [講義・プレゼンテーション・質疑応答]  
 世界の保健医療福祉政策と制度・ケアシステムについて理解し、日本における政策やケアシステムの今後について探求する。
- (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

**【準備学習】**

(予習)

- 1-15. 各自授業テーマについての文献収集と文献検討を行う。  
 各自授業テーマについて得られた知見を整理し、自己の考えについてプレゼンできるように準備する。各自授業テーマにそってプレゼンテーションを準備する。  
 メンバーがあげたテーマについて文献を読み、ディスカッションできるように準備する。

(復習)

- 1-15. 各回の授業内容を各自適した方法でまとめておく。  
 ※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。  
 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。  
 ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

**【評価方法】**

レポート(70%)、プレゼンテーション(30%)

**【備考】**

\*\*\*\*\*

**【科目名】** 高齢者看護学演習

**【授業コード】** 21N30242

**【代表教員】** 坂井 志麻

**【授業概要】**

生涯発達の視点からライフステージとしての高齢期を考え、高齢者ケアの専門性について検討する。高齢者に関わる看護理論を踏まえて、生活援助視点に基づいたヘルスアセスメント方法、高齢者と介護保険制度や介護サービス、高齢者をめぐる様々な倫理的問題について理解を深め、問題提起とディスカッションにより高齢者ケアのあり方について修得する。

**【学位授与方針の関連 学習目標】**

≪学位授与方針との関連≫

- 看護・保健領域の高度専門職業人としての能力  
 ・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。  
 ≪一般目標 (GIO) ≫  
 高齢者看護学領域の中で学問的関心のあるテーマを設定でき、それに伴う問題の背景や現状と具体的な看護援助、研究方法について理解し、研究的問いを立てることができる。  
 ≪個別目標 (SBOs) ≫  
 ①認知症高齢者と家族のアセスメント方法、学際的チームアプローチを含む看護ケアのエビデンスについて理解する。  
 ②高齢者の摂食・嚥下機能および栄養状態の評価と看護ケアについて説明できる。  
 ③高齢者に特徴的な看護ニーズ(フレイル、転倒、尿失禁)について最近の研究や実践動向を踏まえて説明できる。  
 ④高齢者における薬物動態と薬物相互作用について説明できる。  
 ⑤高齢者をめぐる様々な倫理的問題について説明でき、問題解決に向けての具体的な検討を行うことができる。  
 ⑥高齢者への切れ目のない支援を行うための方策やシステムについて述べるができる。  
 ⑦加齢に伴う疾患や障害を抱えた高齢者とその家族について、ヘルスアセスメントを含んだ生活援助視点での具体的な看護ケアについて述べるができる。  
 ⑧高齢者ケアシステムの構築や改善を推進する施策について具体的に述べるができる。

**【授業計画】**

1. 高齢者看護学演習ガイダンス [講義・質疑応答]  
 高齢者看護学演習で扱うテーマや内容についてオリエンテーションを行い、今後の計画を立てる。
- 2-3. 認知症と高齢者ケア [講義・プレゼンテーション・質疑応答]  
 認知症高齢者、および家族へのアセスメント技法を修得し、学際的チームアプローチ、看護援助方法についてディスカッションする。
- 4-5. 高齢者の栄養評価 [講義・プレゼンテーション・質疑応答]  
 高齢者の摂食・嚥下機能のアセスメント方法と栄養評価の実際について学修し、学際的チームアプローチ、看護援助方法についてディスカッションする。
6. 高齢者に特徴的な看護ニーズ(フレイル、転倒、尿失禁) [講義・プレゼンテーション・質疑応答]  
 高齢者とその家族に特徴的にみられる看護ニーズ(フレイル、転倒、尿失禁)について理論、介入、評価方法などを最近の研究から理解する。
- 7-8. 高齢者の薬物動態テーマ [講義・プレゼンテーション・質疑応答]  
 高齢者における薬物動態と薬物相互作用、薬物療法の実践について理解し、臨床現場で医薬品使用時に配慮する視点についてディスカッションする。
- 9-10. 高齢者をめぐる倫理的問題 [講義・プレゼンテーション・質疑応答]  
 老年看護実践において遭遇する倫理的問題について理解し、アドボケートすることを探

- 究する。
- 11-12. 入退院支援と在宅療養移行支援 [講義・プレゼンテーション・質疑応答]  
 地域包括ケアシステムにおける入退院支援や在宅療養移行支援で求められる高齢者ケアについて、事例や文献検討を通して探求する。
13. 高齢者と家族の看護 [講義・プレゼンテーション・質疑応答]  
 事例検討より、高齢者とその家族に関する理論・看護・評価について探求する。
- 14-15. 高齢者ケア改善に向けた提言テーマ [講義・プレゼンテーション・質疑応答]  
 ケアシステムの構築や改善を推進するプロセスを学び、ケア改善への提案を実際に行う。(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

**【準備学習】**

(予習)

- 1-15. 各自授業テーマについての文献収集と文献検討を行う。各自授業テーマについて得られた知見を整理し、自己の考えについてプレゼンできるように準備する。各自授業テーマにそってプレゼンテーションを準備する。メンバーがあげたテーマについて文献を読み、ディスカッションできるように準備する。

(復習)

- 1-15. 各回の授業内容を各自適した方法でまとめておく。  
 ※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。  
 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。  
 ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

**【評価方法】**

レポート(70%)、プレゼンテーション(30%)

**【備考】**

\*\*\*\*\*

**【科目名】** ウィメンズヘルス看護学特論

**【授業コード】** 21N30251

**【代表教員】** 松岡 恵

**【授業概要】**

女性の性と生殖に関連する健康課題をライフステージおよび国や地域による特徴、それに対する健康教育、健康施策の現状と今後の方向性を、関連文献、書籍、国際機関、職能団体、学会などの資料を収集・分析し、討論を通じて論点を明らかにする。

**【学位授与方針の関連 学習目標】**

≪学位授与方針との関連≫

- 看護・保健領域の高度専門職業人としての能力  
 ・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。  
 ≪一般目標 (GIO) ≫  
 女性の性と生殖に関連する健康課題、特に出産/子育てに関する国内外の現状と今後の課題、保健医療の施策について理解する。  
 ≪個別目標 (SBOs) ≫  
 ①日本におけるリプロダクティブヘルス/ライツの課題と保健医療施策の変遷、今後の課題について説明できる。  
 ②途上国におけるリプロダクティブヘルス/ライツの課題と保健医療施策の変遷、今後の課題について説明できる。  
 ③先進諸国におけるリプロダクティブヘルス/ライツの課題と保健医療施策の変遷、今後の課題について説明できる。  
 ④親になる過程とその病理に関する現状と課題について説明できる。

**【授業計画】**

- 1-2. リプロダクティブヘルス/ライツの概念と歴史の変遷 [講義・質疑応答]  
 リプロダクティブヘルス/ライツの概念の歴史的な背景、日本における避妊および人工妊娠中絶をめぐる変遷を通して理解する。
- 3-4. リプロダクティブヘルス/ライツに対する世界保健機関 (WHO) の活動 [講義・質疑応答]  
 リプロダクティブヘルス/ライツの中で特に分娩に関わる医療者および医療介人の課題に関する世界保健機関の活動を理解する。
- 5-6. 途上国におけるリプロダクティブヘルスの課題 [講義・質疑応答]  
 途上国のリプロダクティブヘルス/ライツの課題(女性性器切除、家族計画、HIVなど)について理解する。
- 7-8. 母親をめぐる諸問題 [講義・質疑応答]  
 母親らしさの社会通念、女性の母親への適応過程における課題について理解する。
- 9-10. 親役割適応課程とその病理 [講義・質疑応答]  
 ボンディング障害、虐待、産後うつなど、親になる過程で生じる種々の課題について理解する。
- 11-12. リプロダクティブヘルス/ライツの課題 [グループワーク]  
 リプロダクティブヘルス/ライツの重要課題を各自が選び、現状分析と今後の課題、看護介入の方向性について理解する。
- 13-15. リプロダクティブヘルス/ライツの課題 [ゼミ・討論]  
 11-12回でグループで取り組んだリプロダクティブヘルス/ライツの重要課題について発表し、今後の課題、看護介入の方向性について意見交換を行う。(フィードバック方法) ゼミでの発表は毎回授業時間内で講評する。

**【準備学習】**

(予習)

- 1-15. 講義では各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習しなおしておく。  
 ゼミでは発表者は、毎回のテーマに即した発表について、授業前日までにレジュメと主な参考文献コピーを参加者全員に配布する。参加者は配付資料及び文献を熟読して出席する。

(復習)

- 1-15. 講義後は、講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき細く学習を行う。ゼミ後は発表者はコメントに基づき不足している点を補足し追加資料を作成する。参加者は授業内容と補足資料に基づき、内容をまとめる。  
 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。  
 ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

**【評価方法】**

レポート(75%)、プレゼンテーション(25%)

**【備考】**

\*\*\*\*\*

**【科目名】** ウィメンズヘルス看護学演習

**【授業コード】** 21N30262

**【代表教員】** 松岡 恵

**【授業概要】**

女性の各ライフステージに関わる健康課題を持つ個人や集団、看護介入技法などを理解し、専門的ケアの提供およびケア開発に関わる能力を修得する。

**【学位授与方針の関連 学習目標】**

《学位授与方針との関連》

看護・保健領域の高度専門職業人としての能力

- ・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。

《一般目標 (GIO) 》

女性およびその家族の健康について関心のある特定のテーマに関する問題を分析し解決策について専門的に学ぶ。

《個別目標 (SBOs) 》

- ①国内外のウィメンズヘルスの課題の中から重要な緊急課題を選択することができる。
- ②選択した課題の背景要因、現状分析を行うことができる。
- ③問題状況の分析を踏まえた予防策、改善策、将来予測を考える方法を理解することができる。

**【授業計画】**

すべてゼミ形式で行う。

1. ウィメンズヘルス看護学特論で学習した課題の中から、各自の関心あるテーマを選定する。[講義・演習・質疑応答]
- 2-5. 各自のテーマに基づいて文献調査を行う。[講義・演習・質疑応答]
- 6-7. 各自のテーマにおける論点、問題点について発表する。(中間発表) [講義・演習・質疑応答]
- 8-11. 中間発表時の議論を踏まえて、解決のための専門的援助のありかたについてさらに文献調査、検討を行う。[講義・演習・質疑応答]
- 12-13. 各自のテーマに関する専門的援助のあり方について発表する。[講義・演習・質疑応答]
- 14-15. 各自のテーマに関するレポートを作成する。[講義・演習・質疑応答]

(フィードバック方法) 課題は個別に面接し行いフィードバックを行う。

**【準備学習】**

(予習)

1-15. 各回とも、毎回のテーマに即した発表について、発表者は授業前日までにレジュメと主な参考文献コピーを参加者全員に配布する。参加者は配付資料および文献を熟読して出席する。

(復習)

1-15. 授業でのコメントを元に、発表者は学習の不足している点について補足学習を行い追加資料を作成する。参加者は授業内容をまとめ、追加資料を熟読する。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

**【評価方法】**

レポート(70%)、プレゼンテーション(30%)

**【備考】**

\*\*\*\*\*

**【科目名】** 助産学特論

**【授業コード】** 21N30271

**【代表教員】** 加藤 千晶

**【授業概要】**

助産の概念及び助産の対象となる母子や家族の特性を理解し、助産師として専門的なケアについて学ぶとともに助産師としてのキャリア発達について考察する。

**【学位授与方針の関連 学習目標】**

《学位授与方針との関連》

看護・保健領域の高度専門職業人としての能力

- ・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。

《一般目標 (GIO) 》

助産師の役割・対象の特性の歴史的变化から、専門職として期待されている助産師の役割と責務を考えることができる。

《個別目標 (SBOs) 》

- ①助産の概念、助産師の役割と機能について説明できる。(知識)
- ②現代社会での助産師の対象について説明できる。(知識)
- ③助産師としての専門的ケアについて説明できる。(知識)
- ④今後の社会において、助産師として期待されている役割と責務を再考できる。(知識)

**【授業計画】**

ゼミ形式で行う。

- 1-2. 助産の概念、助産師役割と機能の歴史の変遷 [プレゼンテーション・グループワーク]
- 助産師の役割・機能の変化を知り、現在・未来の助産師の責務を考える。
- 3-4. 現代社会の助産の対象とその特性(合併症、先天疾患などの有疾患者) [プレゼンテーション・グループワーク]
- 現代社会の中での周産期における助産の対象の変化をとらえ、対象のニーズを検討する。
- 5-6. 現代社会の助産の対象とその特性(上記以外) [プレゼンテーション・グループワーク]
- 周産期以外の現代の助産の対象に対する、助産師としての役割・責務を考える。
- 7-8. 周産期医療体制の中の助産 [プレゼンテーション・グループワーク]
- 生理的変化である助産の領域と周産期医療との関係を考える。
- 9-10. 助産ケアの地域展開 [プレゼンテーション・グループワーク]
- 妊娠・分娩だけではなく助産ケアの地域での展開を検討する。
- 11-12. 国際母子保健 [プレゼンテーション・グループワーク]
- 世界の国々で母子保健が持つ意味・そのシステムなどを知り、日本の母子保健システムを考える。
- 13-14. 助産技術とエビデンス [プレゼンテーション・グループワーク]
- 助産ケアをより安全に効果的に提供するために、助産ケアのエビデンスを探る。
15. 専門職としての助産師の将来 [プレゼンテーション・グループワーク]
- 看護職として、周産期医療の担い手として、助産の専門職としての必要性・将来性を検討する。

(フィードバック方法) 検討課題に対するフィードバックは次回授業の時に学生同士での解決

を目指す。

**【準備学習】**

(予習)

1-15. 毎回のテーマの基礎的な事項を学習しなおしておくこと。また、発表者は、授業前日までにレジュメと主な参考文献コピーを参加者全員に配布する。参加者は配布資料および文献を熟読して出席する。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

**【評価方法】**

レポート(75%)、プレゼンテーション(25%)

**【備考】**

\*\*\*\*\*

**【科目名】** 助産学演習

**【授業コード】** 21N30281

**【代表教員】** 加藤 千晶

**【授業概要】**

助産の対象となる個人や集団が持つ健康課題に対し、具体的な健康教育方法を理解して、助産師としての専門的ケアの提供及び開発に関わる能力を演習をとおして修得する。

**【学位授与方針の関連 学習目標】**

《学位授与方針との関連》

看護・保健領域の高度専門職業人としての能力

- ・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。

《一般目標 (GIO) 》

助産ケアの対象者の特性に合わせた健康教育を理解し、対象に提供できる能力を身につける。

《個別目標 (SBOs) 》

- ①対象に合わせ、助産師の専門性を活かした健康教育を、計画することができる。(技能)
- ②助産師としての必要な健康教育援助技術が修得できる。(技能)
- ③専門職として提供する健康教育のあり方が再考できる。(知識)

**【授業計画】**

ゼミ形式で行う。

1. ガイダンス/助産学演習の進め方 [講義・質疑応答]
- 2-4. 現代の出産事情に求められている個人的・社会的ニーズにおける健康教育について学び、ケアを考えることができる。 [講義・演習・質疑応答]
- 5-7. 日本の周産期医療の中で必要な健康教育について学び、ケアを考えることができる。 [講義・演習・質疑応答]
- 8-10. 多様な性に関する健康教育について学び、ケアを考えることができる。 [講義・演習・質疑応答]
- 11-13. 現代の子育て支援について学び、母子・家族に対するケアを考えることができる。 [講義・演習・質疑応答]
- 14-15. 学習してきたテーマにおける健康教育計画を発表する。 [プレゼンテーション・質疑応答]

(フィードバック方法) 疑問・検討課題については授業の時に学生同士での解決を目指す。

**【準備学習】**

(予習)

1-15. 各回のテーマに関する講義・演習の前には、そのテーマに関して自らの意見を述べるように学習しておく。

(復習)

1-15. 講義・演習内容をまとめ、学習の不足している点については補足学習を実施し課題作成を行う。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

**【評価方法】**

レポート(40%)、プレゼンテーション(20%)、課題(40%)

**【備考】**

\*\*\*\*\*

**【科目名】** 小児看護学特論

**【授業コード】** 21N30291

**【代表教員】** 伊藤 久美

**【授業概要】**

子どもを取り巻く社会や医療の現状と課題、子どもの生活環境を理解し、子どもと家族の発達および相互作用や健康に関する諸理論を探索する。さらに、我が国の文化や時代背景を踏まえて、これらの理論を活用して現象を把握し、その適用と課題や境界について学修する。

**【学位授与方針の関連 学習目標】**

《学位授与方針との関連》

看護・保健領域の高度専門職業人としての能力

- ・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。

《一般目標 (GIO) 》

- ①子どもの成長・発達、子どもと家族を理解するための諸理論や概念、看護援助に関する理論について修得する。
- ②理論的枠組みを活用し、子どもと家族を理解する分析能力と論理的思考力を養う。

《個別目標 (SBOs) 》

- ①子どもと家族を取り巻く医療・保健・福祉・教育の現状と課題について説明できる。
- ②子どもと家族を理解するための主要な発達理論や概念について説明できる。
- ③①～②をもとに、それらの理論や概念の小児看護実践への適用可能性や関連について検討することができる。
- ④小児看護の現状と課題を検討し、子どもと家族への援助を考案することができる。

**【授業計画】**

1. ガイダンス [講義・質疑応答]

授業の進め方、クリエイティブの説明

2-3. 子どもと家族を取り巻く医療・保健・福祉・教育の現状と課題

[プレゼンテーション・ディスカッション]

子どもと家族に関連する医療・保健・福祉・教育の現状を概観し、子どもと家族に起きている問題、小児看護学の動向と課題を探索する。

4. 自我の発達発達理論 [プレゼンテーション・ディスカッション]

フロイト、エリクソンの発達理論の歴史的背景・概論と看護実践への活用を考える。

5. 認知・思考の発達発達理論 [プレゼンテーション・ディスカッション]

ピアジェ、ブルーナーの発達理論について理論分析を行い、看護実践への活用を考える。

6-7. 関係性の発達に関する理論 [プレゼンテーション・ディスカッション]

ボウルビィ、エインスワース、ウィニコット、マラー、バーナードの概説と看護実践への活用を考える。

8-11. 子どもと家族をめぐる理論 [プレゼンテーション・ディスカッション]

ストレス・コーピング、セルフケア、ソーシャル・サポート理論について理論分析を行い、看護実践への活用を考える。

12-14. 小児期各期の成長・発達に関する理論 [プレゼンテーション・ディスカッション]

レジリエンス、自己効力感の定義・概念と看護実践への活用を考える。

15. 小児看護実践における理論・概念活用の意義と課題

[プレゼンテーション・ディスカッション]

理論を活用して事例を検討し、小児看護における理論・概念の活用の意義を学ぶ。

(フィードバック方法) 課題、プレゼンテーションに対するフィードバックは講義内に行う。

#### 【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

#### 【評価方法】

プレゼンテーション(40%)、口頭試問(20%)、レポート(40%)

#### 【備考】

\*\*\*\*\*

#### 【科目名】小児看護学学習

【授業コード】21N30302

【代表教員】伊藤 久美

#### 【授業概要】

健康課題をもつ子どもと家族へのエビデンスやこれまでの実践経験を活用し、看護実践モデルを構築する。ケアモデルの構築においては、子どもの苦痛緩和、子どもと家族のニーズの充足に向けた看護援助、多職種との連携などの観点も包含する。既存の知識との関連性を考えて、新たな知見を実践の中に応用できる基礎的能力を養う。

#### 【学位授与方針の関連 学習目標】

〈学位授与方針との関連〉

看護・保健領域の高度専門職業人としての能力

・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。

〈一般目標 (GIO) 〉

①健康課題をもつ子どもと家族への看護ケアモデルの構築に向けた諸理論や概念について修得する。

②看護実践ケアモデルの構築および活用について、文献検討および演習を通して修得する。

〈個別目標 (SBOs) 〉

①エビデンスや経験に基づく看護実践に向けて、健康課題をもつ子どもと家族への看護実践ケアモデルを構築することができる。

②ケアモデルの構築にあたり、子どもの苦痛緩和、ニーズ、子どもの状況、場、多職種との連携を考慮することができる。

③構築したケアモデルを活用し、事例を分析・評価し、適宜モデルの修正を行うことができる。

④分析した結果を踏まえて、健康課題をもつ子どもと家族に、看護援助を提供する方法を考察することができる。

#### 【授業計画】

1. ガイダンス [講義・質疑応答]  
授業の進め方・健康課題をもつ子どもと家族の課題
- 2-3. 様々な健康課題をもつ子どもへの看護実践ケアモデル [プレゼンテーション・ディスカッション]  
ケアモデル構築に向けた諸理論・概念を学ぶ。
- 4-5. 健康課題をもつ子どもの苦痛に関する文献検討および援助 [プレゼンテーション・ディスカッション]  
苦痛の緩和、症状マネジメントを踏まえたケアモデル検討
- 6-8. 健康課題をもつ子どもと家族を取り巻く療養環境に関する文献検討および援助 [講義・ディスカッション]  
周手術期、急性状態における子どもと家族、在宅移行・退院支援に向けた環境調整に関する文献検討
9. 健康課題をもつ子どもへの看護実践における多職種連携に関する文献検討および援助 [プレゼンテーション・ディスカッション]  
ケアモデル実践における多職種連携の実践
10. 健康課題をもつ子どもと家族の抱える諸問題に関する文献検討および援助 [プレゼンテーション・ディスカッション]  
ターミナル期にある子どもと家族に関する文献検討
- 11-14. 健康課題をもつ子どもと家族へのケアモデルの構築 [演習]  
院生の専門分野におけるケアモデルを構築し、事例の分析・評価・モデルの修正
15. 全体のまとめ [プレゼンテーション]  
様々な健康課題をもつ子どもと家族へのケアモデルの検討、考察、看護師としての役割に関する包括的まとめ  
(フィードバック方法) 課題、プレゼンテーションに対するフィードバックは講義内に行う。

#### 【準備学習】

(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

#### 【評価方法】

プレゼンテーション(30%)、口頭試問(30%)、レポート(40%)

#### 【備考】

\*\*\*\*\*

#### 【科目名】地域看護学特論 I

【授業コード】21N30311

【代表教員】大木 幸子

#### 【授業概要】

公衆衛生看護活動に必要とされる概念・理論、スキルについて理解し、効果的な活動のあり方と保健師の専門性について考察する。

#### 【学位授与方針の関連 学習目標】

〈学位授与方針との関連〉

看護・保健領域の高度専門職業人としての能力

・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。

〈一般目標 (GIO) 〉

個人・家族、集団、地域への看護の理論と方法を理解する。

〈個別目標 (SBOs) 〉

①個人・家族、集団、地域への看護ケアの方法について関連する概念・理論に基づき理解できる。

②住民との協働によるコミュニティへの支援方法について、関連理論に基づき理解できる。

#### 【授業計画】

1. ガイダンス/地域看護学の概念枠組み [講義・質疑応答]
2. 地域看護学の概念枠組み (公衆衛生看護学と地域看護学の定義を巡って) [講義・質疑応答]
3. 公衆衛生看護活動の特性 [講義・質疑応答]
- 4-8. 個人への相談支援の理論と方法 (ストレングスモデル) (1) - (5) [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
- 9-10. 家族支援の理論と方法 [講義・質疑応答]
- 11-14. 地域支援の理論と方法 (コミュニティ・アズ・パートナーモデル) (1) - (4) [プレゼンテーション・講義・質疑応答]
15. まとめ [プレゼンテーション・討議]  
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

#### 【準備学習】

(予習)

1-15. 各回の発表者は自分の担当セクションについて講義時間にプレゼンテーションができるようレジュメなどを準備しておくこと。発表者以外の学生は関連する文献、テキストの該当箇所を熟読しておくこと。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

#### 【評価方法】

プレゼンテーション(40%)、口頭試問(20%)、レポート(40%)

#### 【備考】

\*\*\*\*\*

#### 【科目名】地域看護学特論 II

【授業コード】21N30321

【代表教員】大木 幸子

#### 【授業概要】

地域保健行政の基盤となる、近年の公共性の議論について理解し、住民自治を具現化する諸条件を探索する。さらに公営や精神保健をとりあげ、疾病とスティグマについて公共性の概念から照射し、公衆衛生看護活動の基盤となる倫理を考察する。

#### 【学位授与方針の関連 学習目標】

〈学位授与方針との関連〉

看護・保健領域の高度専門職業人としての能力

・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。

高い倫理観と研究遂行能力

・看護領域における課題について、高い倫理観を有し、研究計画を立案・遂行し、論文を作成することができる。

〈一般目標 (GIO) 〉

公共性からとらえた公衆衛生看護活動の原則と倫理的な課題への判断を理解する。

〈個別目標 (SBOs) 〉

①公共性の議論の理論的背景を理解できる。

②地域で進行している現状の課題を個々の課題から公共性の視点から捉え分析できる。

③公衆衛生看護活動で直面する倫理的課題を判断し、解決に向けた思考を展開できる。

#### 【授業計画】

1. ガイダンス/公共性をめぐる議論の動向 [講義・質疑応答]
2. 公共哲学の諸潮流 (1) (ハーバーマース、共同体、モラルサイエンスの公共哲学) [講義・質疑応答]
- 3-4. ハンナアレントの公共性の視点と論考 [講義・質疑応答]
- 5-7. 「公共性」の概念からみた疾病とスティグマ (1) - (3) (水俣病) [講義・質疑応答]

- 8-10. 「公共性」の概念からみた疾病とスティグマ (4) - (6) (ハンセン病) [講義・質疑応答]  
 11-12. 「公共性」の概念からみた疾病とスティグマ (7) - (8) (精神障害) [講義・質疑応答]  
 13-14. 公衆衛生看護活動における倫理的課題とその検討 (1) - (2) [演習]  
 15. まとめ [プレゼンテーション]  
 (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

**【準備学習】**  
(予習)

- 1-15. テーマに即した関連文献およびテキストの指定箇所を読み、レジメを準備しておくこと。  
 発表者はプレゼンテーションの準備をしておくこと。  
 (復習)  
 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。  
 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。  
 ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

**【評価方法】**

プレゼンテーション (30%)、レポート (40%)、口頭試問 (30%)

**【備考】**

\*\*\*\*\*  
**【科目名】** 地域看護学演習 I  
**【授業コード】** 21N30332  
**【代表教員】** 大木 幸子  
**【授業概要】**

公衆衛生看護活動において必要とされる概念・理論、コンピテンシーやスキルについて、事例演習などを通じて理解を深める。それらとおとして、保健師の専門性に求められる視点・態度を探究する。

**【学位授与方針の関連 学習目標】**

- 《学位授与方針との関連》  
 看護・保健領域の高度専門職業人としての能力  
 ・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。  
 《一般目標 (GIO)》  
 地域看護実践において個人から地域にいたる各レベルでの支援技術を養う。  
 《個別目標 (SBOs)》  
 ①地域看護実践における個人・家族への支援技術の特性を理解できる。  
 ②地域看護実践における地域診断及び地域活動への計画立案ができる。  
 ③地域看護実践における課題解決過程から施策化へ展開することができる。

**【授業計画】**

1. ガイダンス/公衆衛生看護における個人・家族への支援技術 [講義・質疑応答]  
 2. インテーク相談支援の技術 [講義・質疑応答]  
 3-8. 個別支援技術 (個別支援事例における支援技術の検討) (1) - (6) [演習]  
 9-12. 地域診断技術 (地域課題の抽出) (1) - (4) [演習]  
 13-14. 地域への支援技術 (地域課題の解決にむけた支援計画の立案) (1) - (2) [演習]  
 15. まとめ [プレゼンテーション]  
 (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

**【準備学習】**  
(予習)

- 1-15. これまでの活動でかかわった事例について振り返り、自らのアセスメントや支援のよくなった点、さらに工夫ができたと思う点をレポートにまとめておくこと。また、サブテキスト本「無名の語り」の指定の章を読み、保健師が展開している支援技術を抽出して所定のレポートにまとめておくこと。9回目以降は、地区をとりあげて、地域診断のための情報を収集、分析内容をまとめておくこと。  
 (復習)

- 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。  
 ※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。  
 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。  
 ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

**【評価方法】**

プレゼンテーション (30%)、口頭試問 (30%)、レポート (40%)

**【備考】**

\*\*\*\*\*  
**【科目名】** 地域看護学演習 II  
**【授業コード】** 21N30342  
**【代表教員】** 大木 幸子  
**【授業概要】**

HIV 感染症を取り上げて、地域における個人・家族・集団・地域の健康課題の特性及び、その効果的支援方法について探究する。また、HIV 感染症を巡る健康課題の特性を sexual health 及び socially vulnerable の視点を踏まえて理解する。それらとおとして、予防から陽性者支援までの包括的対策に関する効果的な方法論及び支援技術について検討する。

**【学位授与方針の関連 学習目標】**

- 《学位授与方針との関連》  
 看護・保健領域の高度専門職業人としての能力  
 ・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。  
 《一般目標 (GIO)》  
 HIV/エイズをめぐる健康課題を個別支援及び地域支援の双方の視点をもって理解する。  
 《個別目標 (SBOs)》  
 ①セクシュアリティの多様性について説明できる。  
 ②HIV 感染症をめぐる健康課題の特性を説明できる。  
 ③HIV 陽性者の地域生活を支援するために必要な個別支援技術の基礎的能力を修得する。

**【授業計画】**

1. ガイダンス/HIV 感染症をめぐる動向 [講義・質疑応答]  
 2. HIV 感染症対策の変遷と課題 [講義・質疑応答]

3. HIV 感染症の病態と治療 [講義・質疑応答]  
 4. HIV 感染症と社会構造～Vulnerability と Stigma～ [演習]  
 5-6. Sexuality と Sexual health (1) - (2) [演習]  
 7-9. HIV 陽性者の生活課題と支援 (1) - (3) [講義・質疑応答]  
 10. HIV 対策のストラテジー～当事者の参加による展開～MSM への HIV 対策 [演習]  
 11-12. HIV 対策のストラテジー～予防・相談・検査・ケアの包括的展開～ (1) - (2) [講義・質疑応答]  
 13. HIV 検査・相談における支援方法 [演習]  
 14. HIV 陽性者へのセクシュアルヘルス支援の方法 [演習]  
 15. まとめ [プレゼンテーション]  
 (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

**【準備学習】**  
(予習)

- 1-15. 各回、発表者は、セクシュアリティ及び HIV 対策、エイズ看護に関する文献を読み、内容をレジメにまとめておくこと。  
 (復習)  
 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。  
 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。  
 ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

**【評価方法】**

プレゼンテーション (30%)、口頭試問 (30%)、レポート (40%)

**【備考】**

\*\*\*\*\*  
**【科目名】** 在宅看護学特論  
**【授業コード】** 21N30352  
**【代表教員】** 柴崎 美紀  
**【授業概要】**

国内外の在宅看護に関連する制度・理論・研究の動向について、ゼミ形式で学習する。また、健康障がいをもって地域で生活する人々とその家族への支援について関連文献を収集・分析し、討論を通じて在宅における専門的な援助について学ぶ。

**【学位授与方針の関連 学習目標】**

- 《学位授与方針との関連》  
 看護・保健領域の高度専門職業人としての能力  
 ・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。  
 《一般目標 (GIO)》  
 ①在宅看護に必要な制度・理論について知り、研究の動向について理解する。  
 ②在宅療養者とその家族に必要な援助と今後の方向性について説明できる。  
 《個別目標 (SBOs)》  
 ①在宅医療の現行制度における訪問看護をはじめとする在宅ケアの実態を把握することができる。(知識)  
 ②在宅看護に特徴的な看護過程、看護展開を考察することができる。(技能)  
 ③在宅看護におけるケアの質改善方法について討議することができる。(態度・習慣)

**【授業計画】**

1. 在宅看護の関連法規 [講義・質疑応答]  
 訪問看護に関連する現行制度について理解する。  
 2. 在宅ケアのシステム・政策論 [講義・質疑応答]  
 訪問看護に関連する在宅ケアシステム、在宅医療政策について理解する。  
 3. 在宅ケアに関わる基礎的理論 [講義・質疑応答]  
 在宅ケア対象者への保健医療福祉介護に関する総合的なケアの理論を理解する。  
 4. 在宅看護における研究の動向 (1) [講義・質疑応答]  
 訪問看護、在宅ケアにおける国内外の研究の動向を理解する。  
 5. 在宅看護における研究の動向 (2) [プレゼンテーション]  
 国内外の文献をもとに各自がテーマを選定しレビューを行う。  
 6. 在宅看護における研究の動向 (3) [プレゼンテーション]  
 国内外の文献をもとに各自がテーマを選定しレビューを行う。  
 7. 在宅看護における倫理的課題 [講義・質疑応答]  
 在宅看護における倫理的課題について理解する。  
 8. 健康課題をもつ療養者と家族への在宅看護 (がん) [講義・質疑応答・グループワーク]  
 在宅におけるがん看護を理解し、事例への適用を考察する。  
 9. 健康課題をもつ療養者と家族への在宅看護 (認知症) [講義・質疑応答・グループワーク]  
 在宅における認知症看護を理解し、事例への適用を考察する。  
 10. 健康課題をもつ療養者と家族への在宅看護 (難病) [講義・質疑応答・グループワーク]  
 在宅における難病看護を理解し、事例への適用を考察する。  
 11. 健康課題をもつ療養者と家族への在宅看護 (精神疾患) [講義・質疑応答・グループワーク]  
 在宅における精神疾患看護を理解し、事例への適用を考察する。  
 12. 健康課題をもつ療養者と家族への在宅看護 (小児) [講義・質疑応答・グループワーク]  
 在宅における小児看護を理解し、事例への適用を考察する。  
 13. 在宅における専門職の人材育成 [講義・質疑応答]  
 在宅における専門職の人材育成の動向を理解する。  
 14. 地域連携とチームケア [講義・質疑応答]  
 在宅ケアにおける職種間連携と病院-地域間連携の実態を理解する。  
 15. 受講生によるまとめのプレゼンテーション [プレゼンテーション]  
 各自が体験した事例をもとにテーマを設定し、そのテーマに沿って資料を作成し発表と討論を行う。  
 (フィードバック方法) フィードバックは次の授業時に行う。

**【準備学習】**  
(予習)

- 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。  
 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。  
 (復習)  
 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。  
 ※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。

☆概ね週当たり4時間以上必要である。  
☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】  
口頭試問(40%)、プレゼンテーション(20%)、レポート(40%)

【備考】  
\*\*\*\*\*

【科目名】在宅看護学演習  
【授業コード】21N30362  
【代表教員】柴崎 美紀  
【授業概要】

在宅療養者とその家族に対する援助方法について文献及び演習を通して理解し、専門的なケアの提供のための能力を修得する。

【学位授与方針の関連 学習目標】  
《学位授与方針との関連》

看護・保健領域の高度専門職業人としての能力  
・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。

《一般目標(GIO)》  
①在宅看護活動について、各自の関心あるテーマを選定し、課題を明確化できる。

②課題を分析し、解決するための看護の果たすべき役割について考察する。

《個別目標(SBOs)》  
①国内外の研究から、訪問看護をはじめとする在宅ケアの実態と、現状における課題を把握することができる。(知識)

②医療依存度の高い在宅看護を実践する訪問看護ステーションの実践から、在宅療養者および家族を多角的に捉える視点を深め、看護上の課題を把握することができる。(技能)

③在宅療養者および家族の自立とQOLを促進するための看護実践のあり方、問題解決方法について考察し、提言できる。(知識)(態度・習慣)

【授業計画】  
1. わが国における在宅看護の現状と課題 [講義・質疑応答]  
在宅看護における現状と課題から、自身の課題について検討する。

2. 選択したテーマに関する文献レビューと事例展開(1) [演習]  
学生各自が実践中に体験した事例に基づいた関心テーマを選定し文献レビューを行う。

3. 選択したテーマに関する文献レビューと事例展開(2) [演習]  
学生各自が実践中に体験した事例に基づいた関心テーマを選定し文献レビューを行う。

4. 選択したテーマに関する文献レビューと事例展開(3) [プレゼンテーション]  
関心テーマに関するプレゼンテーションを行う。

5-9. 在宅看護実践活動の見学・参加 [演習]  
選択した関心テーマに関する看護実践活動の見学・参加から、在宅看護活動の機能と役割について学ぶ。

10-13. 在宅看護実践活動の評価 [グループワーク・プレゼンテーション]  
実践活動を評価し、課題を考察する。

14-15. 在宅看護の役割についての検討・考察 [プレゼンテーション]  
(フィードバック方法) フィードバックは次の授業時に行う。

【準備学習】  
(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。  
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。  
☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】  
口頭試問(40%)、プレゼンテーション(20%)、レポート(40%)

【備考】  
\*\*\*\*\*

【科目名】病態治療論  
【授業コード】21N30371  
【代表教員】東 利江

【学位授与方針の関連 学習目標】  
《学位授与方針との関連》

看護・保健領域の高度専門職業人としての能力  
・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。

看護・保健領域の高度な知識・技術  
・高度実践看護師(専門看護師)として、必要な知識やスキルを修得し、実践に生かすことができる。

【授業概要】【授業計画】【準備学習】【評価方法】  
【備考】専門看護教育課程 クリティカルケア看護 講義概要参照

\*\*\*\*\*

【科目名】特別講義  
【授業コード】21N30381A  
【代表教員】大木 幸子

【授業概要】  
地域にかかわる理論をとりあげ、コミュニティへの先行研究をレビューし、コミュニティへの支援方法に関する概念を理解する。また、コミュニティでの合意形成にかかわる公衆衛生看護活動の機能と支援方法を活動事例及び文献より探求する。

【学位授与方針の関連 学習目標】  
《学位授与方針との関連》

看護・保健領域の高度専門職業人としての能力  
・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。

《一般目標(GIO)》  
コミュニティと人々の健康との関連を分析するため研究的視点を養う。

《個別目標(SBOs)》  
①コミュニティをめぐる理論とその背景を理解できる。  
②コミュニティと人々の健康との関連に関する理論や最近の知見を説明できる。

【授業計画】  
1. ガイダンス/コミュニティにかかわる概念 [講義・質疑応答]  
2. コミュニティにかかわる概念 [講義・質疑応答]  
3-5. コミュニティ・エンパワメントの概念と研究動向(1)-(3)  
[プレゼンテーション・講義・質疑応答]  
6-8. ソーシャルキャピタルの概念と研究動向(1)-(3)  
[プレゼンテーション・講義・質疑応答]  
9-11. 地域への愛着形成をめぐる研究動向(1)-(3)  
[プレゼンテーション・講義・質疑応答]  
12-14. コミュニティでの合意形成のための支援方法(1)-(3)  
[プレゼンテーション・講義・質疑応答]  
15. まとめ [プレゼンテーション]  
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】  
(予習)

1-15. 発表者は、各回のテーマに即した文献をレビューしレジメを準備しておくこと。  
また、前日までにレジメと主な文献を参加者に配布しておくこと。  
参加者は配布されたレジメと文献を熟読しておくこと。

(復習)

1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。  
☆概ね週当たり4時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】  
プレゼンテーション(30%)、レポート(40%)、口頭試問(30%)

【備考】  
\*\*\*\*\*

【科目名】特別講義  
【授業コード】21N30382B  
【代表教員】佐藤 ユキ子

【授業概要】  
慢性の病をもつ人および家族の多様で複雑な状況をとらえ、療養支援に必要な概念、理論について理解を深める。さらに健康レベルに応じた質の高い生活を維持していくための支援方法について事例や関連文献、書籍より探求する。

【学位授与方針の関連 学習目標】  
《学位授与方針との関連》

看護・保健領域の高度専門職業人としての能力  
・看護ケアの質の向上を目指し、国際性を視野に入れ、高度専門職業人として判断し、実践し、指導することができる。

《一般目標(GIO)》  
慢性の病をもつ人が質の高い生活を維持していくための具体的療養支援について検討する。

《個別目標(SBOs)》  
①慢性の病をもつ人々の行動、心理を理解する視点で看護展開できる。

②慢性の病をもつ人の多様な病期における適切な支援方法を選択するための概念、理論、技法を説明できる。(知識)

③各概念・理論の臨床応用について自身の実践事例と結びつけて検討し、慢性の病をもつ人々と家族への看護のあり方について考えを発表、記述できる。(知識・態度)

【授業計画】  
1. ガイダンス/慢性疾患特有の複雑で困難な問題と背景 [講義・質疑応答]  
成人期における慢性疾患(循環器系・呼吸器系・糖尿病・慢性腎不全・脳神経系)の治療と経過、社会背景について学び、支援の必要性について検討する。

2. 慢性の病をもつ人の生活体験の理解(1) [講義・プレゼンテーション・質疑応答]  
「慢性疾患の病みの軌跡」を読み、慢性の病をもつ人の生活体験を理解し、病気をもって生活すること、病気を管理することについて考察する。

3. 慢性の病をもつ人の生活体験の理解(2) [講義・プレゼンテーション・質疑応答]  
「慢性疾患の病みの軌跡」理論の実践への適用について検討する。

4-5. 慢性の病をもつ人の生活体験の理解と支援方法(1)(2)  
[講義・プレゼンテーション・質疑応答]  
看護を考えるうえで重要となる概念・理論(コンプライアンス/アドヒアランス/トランスセオレティカルモデル)について学び、実践への適用について検討する。

6-7. 慢性の病をもつ人の生活体験の理解と支援方法(3)(4)  
[講義・プレゼンテーション・質疑応答]  
看護を考えるうえで重要となる概念・理論(セルフモニタリング/セルフマネジメント/ヘルスプロモーション)について学び、実践への適用について検討する。

8. 慢性の病をもつ家族が抱える問題と支援方法  
[講義・プレゼンテーション・質疑応答]  
家族支援の文献を選定し、現状と課題について検討する。

9-10. 慢性期看護における研究の動向(1)(2) [講義・プレゼンテーション・質疑応答]  
国内外の文献をもとに各自がテーマを選定しレビューを行う。

11-13. 慢性の病をもつ人の変化する健康レベルに応じた支援方法(1)-(3)  
[講義・プレゼンテーション・質疑応答]  
自己の関心領域(循環器系・呼吸器系・糖尿病・慢性腎不全・脳神経系)での文献・事例を検討する。

14. 慢性の病をもつ人の変化する健康レベルに応じた支援方法(4)  
[講義・プレゼンテーション・質疑応答]  
エンドオブライフケアについての文献・事例を検討する。

15. 受講生によるまとめ [プレゼンテーション]  
自己が体験した事例をもとにテーマを設定し資料を作成し、発表と討議を行う。  
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】  
(予習)

1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。

今回のテーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。  
(復習)  
1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。また、プレゼンテーション時のコメント内容は追加・修正しておくこと。  
※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。  
☆概ね週当たり4時間以上必要である。  
☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

**【評価方法】**  
プレゼンテーション(30%)、レポート(40%)、口頭試問(30%)

**【備考】**  
\*\*\*\*\*

**【科目名】**特別演習(がん看護)  
**【授業コード】**2IN30392  
**【代表教員】**中島 恵美子  
**【授業概要】**

特定の課題に沿った文献検討を行い、課題論文を作成し、研究する基礎的能力を修得する。  
**【学位授与方針の関連 学習目標】**  
《学位授与方針との関連》  
高い倫理観と研究遂行能力  
・看護領域における課題について、高い倫理観を有し、研究計画を立案・遂行し、論文を作成することができる。  
《一般目標(GIO)》  
各専門領域における特定の課題に基づいて論文を作成する。

**【授業計画】**  
下記内容を合計15回の講義で行うが、受講者の状況に応じて各内容の回数を調整する。  
1-5. 各領域における特定の課題に応じた文献レビューを行う。[演習]  
6-10. 課題研究のテーマを明確にする。[演習]  
11-15. CNS 実習における学習から課題に基づき考察し論文を作成する。[演習]  
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

**【準備学習】**  
(予習)  
1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておく。  
また、次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)  
1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。  
☆概ね週当たり4時間以上必要である。  
☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

**【評価方法】**  
論文(90%)、口頭試問(10%)

**【備考】**  
\*\*\*\*\*

**【科目名】**特別演習(クリティカルケア看護)  
**【授業コード】**2IN30402  
**【代表教員】**加賀谷 聡子  
**【授業概要】**

特定の課題に沿った文献検討を行い、課題論文を作成し、研究する基礎的能力を修得する。  
**【学位授与方針の関連 学習目標】**  
《学位授与方針との関連》  
高い倫理観と研究遂行能力  
・看護領域における課題について、高い倫理観を有し、研究計画を立案・遂行し、論文を作成することができる。  
《一般目標(GIO)》  
各専門領域における特定の課題に基づいて論文を作成する。

《個別目標(SBOs)》  
①自らの関心と実習における学びをもとに研究課題を明確にすることができる。  
②関連する文献を適切に検討することができる。  
③研究の一連のプロセスが説明できる。  
④課題論文を作成することができる。

**【授業計画】**  
下記内容を合計15回の講義で行うが、受講者の状況に応じて各内容の回数を調整する。  
1-5. 各領域における特定の課題に応じた文献レビュー [演習]  
各領域における特定の課題に応じた文献レビューを行う。  
6-10. 課題研究テーマの明確化 [演習]  
課題研究のテーマを明確にする。  
11-15. 課題に基づく考察と論文作成 [演習]  
CNS 実習における学習から課題に基づき考察し、論文を作成する。  
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

**【準備学習】**  
(予習)  
1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。  
また、今回のテーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)  
1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。  
※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。  
☆概ね週当たり4時間以上必要である。  
☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

**【評価方法】**  
論文(90%)、口頭試問(10%)

**【備考】**  
\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

**【科目名】**特別演習(精神看護)  
**【授業コード】**2IN30412  
**【代表教員】**浅沼 奈美  
**【授業概要】**

特定の課題に沿った文献検討を行い、課題論文を作成し、研究する基礎的能力を修得する。  
**【学位授与方針の関連 学習目標】**  
《学位授与方針との関連》  
高い倫理観と研究遂行能力  
・看護領域における課題について、高い倫理観を有し、研究計画を立案・遂行し、論文を作成することができる。  
《一般目標(GIO)》  
各専門領域における特定の課題に基づいて論文を作成する。

**【授業計画】**  
下記内容を合計15回の講義で行うが、受講者の状況に応じて各内容の回数を調整する。  
1-5. 各領域における特定の課題に応じた文献レビューを行う。(5回) [演習]  
6-10. 課題研究のテーマを明確にする。(5回) [演習]  
11-15. CNS 実習における学習から課題に基づき考察し、論文を作成する。(5回)  
[演習・プレゼンテーション]  
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

**【準備学習】**  
(予習)  
1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。  
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)  
1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。  
※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。  
☆概ね週当たり4時間以上必要である。  
☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

**【評価方法】**  
論文(90%)、口頭試問(10%)

**【備考】**  
\*\*\*\*\*

**【科目名】**特別研究  
**【授業コード】**2IN3T1A1 2IN3T1A2  
**【代表教員】**浅沼 奈美  
**【授業概要】**

学位論文作成に向けて、研究課題および方法を明確にし、自立した研究活動を展開する。  
**【学位授与方針の関連 学習目標】**  
《学位授与方針との関連》  
高い倫理観と研究遂行能力  
・看護領域における課題について、高い倫理観を有し、研究計画を立案・遂行し、論文を作成することができる。  
《一般目標(GIO)》  
研究課題および方法を明確にする。

**【授業計画】**  
1-10. 先行研究から研究課題の明確化し研究計画書の作成(10回) [演習]  
11-20. 研究方法の選定及びデータ収集と結果分析(10回) [演習]  
21-30. 考察及び論文作成(10回) [演習・プレゼンテーション]  
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

**【準備学習】**  
(予習)  
1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。  
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)  
1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。  
※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。  
☆概ね週当たり4時間以上必要である。  
☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

**【評価方法】**  
論文(90%)、口頭試問(10%)

**【備考】**  
\*\*\*\*\*

**【科目名】**特別研究  
**【授業コード】**2IN3T1B1 2IN3T1B2  
**【代表教員】**大木 幸子  
**【授業概要】**

各自の専門分野における研究方法を学び、研究テーマに沿った文献検討を調査、実験などによりデータを収集し、論文作成の過程を通して学術論文として公表する能力を修得する。  
**【学位授与方針の関連 学習目標】**  
《学位授与方針との関連》  
高い倫理観と研究遂行能力  
・看護領域における課題について、高い倫理観を有し、研究計画を立案・遂行し、論文を作成することができる。

《一般目標(GIO)》  
各自の関心課題についての研究論文を作成する過程をとおして、研究への実践力を修得する。  
《個別目標(SBOs)》  
①自らの関心を研究的問いへと発展させることができる。  
②研究テーマの絞り込みから研究計画の立案、研究実施の過程を遂行できる。  
③研究の遂行にあたっての倫理的に適切な方法を判断、選択できる。

**【授業計画】**  
研究計画及び実施、論文作成を進行に応じて、検討課題を発表し討議する。  
1-4. 研究課題の検討と選考研究のクリティック [演習]

- 5-8. 研究方法及び倫理的問題の検討 [演習]
- 9-14. 研究計画書の作成 [演習]
- 15-18. 研究データの収集と分析方法の検討 [演習]
- 19-22. 研究結果の分析 [演習]
- 23-26. 研究結果の考察及び課題の検討 [演習]
- 27-30. 研究論文のまとめ方 [演習]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)  
1-30. 関連した先行研究のレビュー、研究計画の作成、究課題への取り組み過程のプレゼン資料作成を行うこと。

(復習)  
1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は 60 分、復習は 60 分必要とする。  
☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。  
☆時間外学習時間(予習復習など)は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

論文 (90%)、口頭試問 (10%)

【備考】

\*\*\*\*\*  
【科目名】特別研究

【授業コード】21N3T1C1 21N3T1C2

【代表教員】加賀谷 聡子

【授業概要】

各自の専門分野における研究方法を学び、研究テーマに沿った文献検討を行い、調査・実験などによりデータを収集し、論文作成の過程を通して学術論文として公表する能力を修得する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

高い倫理観と研究遂行能力  
・看護領域における課題について、高い倫理観を有し、研究計画を立案・遂行し、論文を作成することができる。

《一般目標 (GIO)》

修士論文作成の過程を通して研究能力を向上させる。  
《個別目標 (SBOs)》  
①関心に基づいて適切に文献検索を行い、研究目的を明確にできる。  
②研究計画書を作成し、計画に沿って研究を進めることができる。  
③結果を分析し、論文にまとめることができる。

【授業計画】

- 1-5. 問題の焦点化と研究課題の抽出 [演習]  
関心のあるテーマの先行研究をクリティークし、研究課題を明確にしていく。
- 6-10. 研究計画書の作成 [演習]  
研究方法や倫理的問題を検討した上で、研究計画書を作成する。
- 11-15. データ収集 [演習]  
データ収集にまつわる具体的な課題について検討した後、データ収集を行う。
- 16-20. データ分析 [演習]  
データ分析方法を再度検討し、データ分析を実施する。
- 21-25. 結果・考察の検討 [演習]  
分析結果を整理し、考察内容を検討する。
- 26-30. 論文作成 [演習]  
論文の作成要領に従って論文を作成する。  
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)  
1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。  
また、次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)  
1-30. 各回の内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。

※全ての回、予習は 60 分、復習は 60 分必要とする。  
☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。  
☆時間外学習時間(予習復習など)は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

論文 (90%)、口頭試問 (10%)

【備考】

\*\*\*\*\*  
【科目名】特別研究

【授業コード】21N3T1D1 21N3T1D2

【代表教員】中島 恵美子

【授業概要】

各自の専門分野における研究方法を学び、研究テーマに沿った文献検討を調査、実験などによりデータを収集し、論文作成の過程を通して学術論文として公表する能力を修得する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

高い倫理観と研究遂行能力  
・看護領域における課題について、高い倫理観を有し、研究計画を立案・遂行し、論文を作成することができる。

《一般目標 (GIO)》

修士論文作成の過程から研究能力を向上させる。  
【授業計画】  
1-5. 問題点の焦点化と研究課題の抽出 [演習]  
6-10. 研究計画書作成 [演習]  
11-15. データ収集 [演習]  
16-20. データ分析 [演習]  
21-25. 結果、考察 [演習]

- 26-30. 論文作成 [演習]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)  
1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。  
また、次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)  
1-30. 学習の不足している点は資料に基づき補足学習を実施すること。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。  
☆時間外学習時間(予習復習など)は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

論文 (90%)、口頭試問 (10%)

【備考】

\*\*\*\*\*  
【科目名】特別研究

【授業コード】21N3T1E1 21N3T1E2

【代表教員】柴崎 美紀

【授業概要】

専門分野における研究方法を学び、研究テーマに沿った文献検討をし、論文作成の過程を通して研究する能力を修得する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

高い倫理観と研究遂行能力  
・看護領域における課題について、高い倫理観を有し、研究計画を立案・遂行し、論文を作成することができる。

《一般目標 (GIO)》

自己の研究課題に基づいて学術論文を作成する。

【授業計画】

- 1-6. 研究課題に応じた文献レビューを行う。 [演習]
- 7-12. 研究テーマを明確にする。 [演習]
- 13-18. 研究計画書の作成 [演習]
- 19-24. 研究データ収集と分析、結果のまとめ [演習]
- 25-30. 研究結果からの考察と課題の検討 [演習]  
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)  
1-30. 修士論文作成にむけたタイムスケジュールを作成し、それに基づいてゼミの内容、日程を調整する。毎回のゼミはそれに基づいて行う。  
ゼミ前日までにレジメと参考文献(必要時)を指導教員に提出する。

(復習)  
1-30. 授業でのコメントを元に、不足している点について補足学習を行い、タイムスケジュールに基づき研究をすすめる。  
☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。  
☆時間外学習時間(予習復習など)は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

【評価方法】

論文 (90%)、口頭試問 (10%)

【備考】

\*\*\*\*\*  
【科目名】特別研究

【授業コード】21N3T1F1 21N3T1F2

【代表教員】坂井 志麻

【授業概要】

各自の専門分野における研究方法を学び、研究テーマに沿った文献検討を調査、実験などによりデータを収集し、論文作成の過程を通して学術論文として公表する能力を修得する。

【学位授与方針の関連 学習目標】

《学位授与方針との関連》

高い倫理観と研究遂行能力  
・看護領域における課題について、高い倫理観を有し、研究計画を立案・遂行し、論文を作成することができる。

《一般目標 (GIO)》

修士論文作成の過程から研究能力を向上させる。  
《個別目標 (SBOs)》  
①高齢者看護学における理論開発、アセスメント方法の開発、評価、実践方法に関する研究を行い、論文を作成できる。  
②研究プロセスを学び、高齢者看護学における質の高い研究とはどのようなものかについて説明できる。  
③研究結果の実践への応用について説明できる。

【授業計画】

- 1-5. 問題点の焦点化と研究課題の抽出 [演習]
- 6-10. 研究計画書作成 [演習]
- 11-15. データ収集 [演習]
- 16-20. データ分析 [演習]
- 21-25. 結果、考察 [演習]
- 26-30. 論文作成 [演習]  
(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

【準備学習】

(予習)  
1-30. それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。  
次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。

(復習)  
1-30. 各回の内容についてまとめておくこと。  
※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。  
☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。  
☆時間外学習時間(予習復習など)は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

**【評価方法】**

論文 (90%)、口頭試問 (10%)

**【備考】**

\*\*\*\*\*

**【科目名】** 特別研究

**【授業コード】** 21N3T1H1 21N3T1H2

**【代表教員】** 佐々木 裕子

**【授業概要】**

研究方法を学び、文献検討を踏まえて専門分野の研究課題を科学的に探求する。研究テーマの明確化、研究計画書の作成、データ収集から論文作成までの一連の過程を通して研究する能力を修得する。

**【学位授与方針の関連 学習目標】**

《学位授与方針との関連》

高い倫理観と研究遂行能力

・看護領域における課題について、高い倫理観を有し、研究計画を立案・遂行し、論文を作成することができる。

《一般目標 (GIO) 》

研究課題に基づいて修士論文を作成する。

**【授業計画】**

1-6. 研究課題に応じた文献レビュー [演習]

7-12. 研究課題の明確化 [演習]

13-18. 研究計画書の作成 [演習]

19-24. データ収集、分析、結果のまとめ [演習]

25-26. 研究結果の考察と今後の課題 [演習]

27-30. 研究論文のまとめ方 [演習]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

**【準備学習】**

(予習)

1-30. 研究課題に関連した先行研究のレビュー、研究計画書の作成、データ収集から論文作成までのスケジュールを明確にしておく。授業計画に基づき、毎回、プレゼンの資料を準備しておくこと。

(復習)

1-30. 授業でのコメントに応じて不足している点を補っておくこと。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

**【評価方法】**

論文 (90%)、口頭試問 (10%)

**【備考】**

\*\*\*\*\*

**【科目名】** 特別研究

**【授業コード】** 21N3T1I1 21N3T1I2

**【代表教員】** 佐藤 ユキ子

**【授業概要】**

専門分野における研究方法を学び、研究テーマに沿った文献検討をし、論文作成の過程を通して研究する能力を修得する。

**【学位授与方針の関連 学習目標】**

《学位授与方針との関連》

高い倫理観と研究遂行能力

・看護領域における課題について、高い倫理観を有し、研究計画を立案・遂行し、論文を作成することができる。

《一般目標 (GIO) 》

自己の研究課題に基づいて学術論文を作成する。

**【授業計画】**

1-6. 研究課題に応じた文献レビューを行う。 [演習]

7-12. 研究テーマを明確にする。 [演習]

13-18. 研究計画書の作成 [演習]

19-24. 研究データ収集と分析、結果のまとめ [演習]

25-30. 研究結果からの考察と今後の課題の検討、論文作成 [演習]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

**【準備学習】**

(予習)

1-30. 修士論文作成にむけたタイムスケジュールを作成し、それに基づいてゼミの内容、日程を調整する。毎回のゼミはそれに基づいて行う。ゼミ前日までにレジュメと参考文献(必要時)を指導教員に提出する。

(復習)

1-30. 授業でのコメントを元に、不足している点について補足学習を行い、タイムスケジュールに基づき研究をすすめる。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

**【評価方法】**

論文 (90%)、口頭試問 (10%)

**【備考】**

\*\*\*\*\*

**【科目名】** 特別研究

**【授業コード】** 21N3T1J1 21N3T1J2

**【代表教員】** 田原 美香

**【授業概要】**

専門分野における研究方法を学び、研究テーマに沿った文献検討をし、論文作成の過程を通して研究する能力を修得する。

**【学位授与方針の関連 学習目標】**

《学位授与方針との関連》

高い倫理観と研究遂行能力

・看護領域における課題について、高い倫理観を有し、研究計画を立案・遂行し、論文を作成することができる。

《一般目標 (GIO) 》

自己の研究課題に基づいて学術論文を作成する。

**【授業計画】**

1-6. 研究課題に応じた文献レビューを行う。 [演習]

7-12. 研究テーマを明確にする。 [演習]

13-18. 研究計画書の作成 [演習]

19-24. 研究データ収集と分析、結果のまとめ [演習]

25-30. 研究結果からの考察と課題の検討 [演習]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

**【準備学習】**

(予習)

1-30. 修士論文作成にむけたタイムスケジュールを作成し、それに基づいてゼミの内容、日程を調整する。毎回のゼミはそれに基づいて行う。ゼミ前日までにレジュメと参考文献(必要時)を指導教員に提出する。

(復習)

1-30. 授業でのコメントを元に、不足している点について補足学習を行い、タイムスケジュールに基づき研究をすすめる。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

**【評価方法】**

論文 (90%)、口頭試問 (10%)

**【備考】**

\*\*\*\*\*

**【科目名】** 特別研究

**【授業コード】** 21N3T1K1 21N3T1K2

**【代表教員】** 藤田 千春

**【授業概要】**

専門分野における研究方法を学び、研究テーマに沿った文献検討および研究計画書を作成し、調査、分析、論文作成の過程を通して研究する能力を修得する。

**【学位授与方針の関連 学習目標】**

《学位授与方針との関連》

高い倫理観と研究遂行能力

・看護領域における課題について、高い倫理観を有し、研究計画を立案・遂行し、論文を作成することができる。

《一般目標 (GIO) 》

自己の研究課題に基づいて学術論文を作成する。

**【授業計画】**

1-6. 研究課題に応じた文献レビューを行う。 [演習、プレゼンテーション]

7-12. 研究テーマを明確にする。 [演習、プレゼンテーション]

13-18. 研究計画書の作成・子どもを対象にした倫理的配慮の活用 [演習、プレゼンテーション]

19-24. 研究データ収集と分析、結果のまとめ [演習、プレゼンテーション]

25-30. 研究結果からの考察と課題の検討 [演習、プレゼンテーション]

(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。

**【準備学習】**

(予習)

1-30. 修士論文作成にむけたタイムスケジュールを作成し、それに基づいてゼミの内容、日程を調整する。毎回のゼミはそれに基づいて行う。ゼミ前日までにレジュメと参考文献(必要時)を指導教員に提出する。

(復習)

1-30. 授業でのコメントを元に、不足している点について補足学習を行い、タイムスケジュールに基づき研究をすすめる。

☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。

☆時間外学習時間(予習復習など)は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。

**【評価方法】**

論文 (90%)、口頭試問 (10%)

**【備考】**

\*\*\*\*\*



# 專門看護師教育課程



## 高度実践看護師教育課程

1.本学大学院保健学研究科看護学専攻に専門看護師教育課程が置かれている。

2.専門看護師教育課程と受験資格に必要な科目

当該分野における科目を全て履修し、単位を修得すること。

### <専門看護師教育課程（38単位）>

#### 【 専門看護師教育課程共通科目の照合表 】

科 目	大学院の該当科目	履修単位	認定単位
看護教育論	看護教育学特論	2	2
看護管理論	看護管理学特論	2	2
看護研究	看護研究方法論	2	2
コンサルテーション論	コンサルテーション論	2	2
フィジカルアセスメント	フィジカルアセスメント	2	2
病態生理学	病態生理学	2	2
臨床薬理学	臨床薬理学	2	2

#### 【 専門看護分野：がん看護 】

科 目	大学院の該当科目	履修単位	認定単位
がん看護に関する病態生理学	がん看護学特論Ⅰ	2	2
がん看護に関する理論	がん看護学特論Ⅱ	2	2
がん治療支援に関わる看護援助論	がん看護学演習Ⅰ	2	2
がん薬物療法看護	がん看護学特論Ⅲ	2	2
	がん看護学演習Ⅱ	2	2
緩和ケア	がん看護学特論Ⅳ	4	4
実習	がん看護学実習		
	・がん看護学実習Ⅰ	2	2
	・がん看護学実習Ⅱ	4	4
	・がん看護学実習Ⅲ	4	4

#### 【 専門看護分野：クリティカルケア看護 】

科 目	大学院の該当科目	履修単位	申請単位
危機とストレスに関する科目	クリティカルケア看護学特論Ⅰ	2	2
重症患者の代謝病態生理学に関する科目	病態治療論	2	2
クリティカルケア治療管理に関する科目	クリティカルケア看護学演習Ⅰ	2	2
クリティカルケア看護援助に関する科目Ⅰ	クリティカルケア看護学特論Ⅱ	2	2
クリティカルケア看護援助に関する科目Ⅱ	クリティカルケア看護学特論Ⅲ	2	2
クリティカルケア看護援助に関する科目Ⅲ	クリティカルケア看護学演習Ⅱ	2	2
クリティカルケア看護援助に関する科目Ⅳ	クリティカルケア看護学演習Ⅲ	2	2
クリティカルケア看護実習	クリティカルケア看護学実習		
	クリティカルケア看護学実習Ⅰ	2	2
	クリティカルケア看護学実習Ⅱ	3	3
	クリティカルケア看護学実習Ⅲ	3	3
	クリティカルケア看護学実習Ⅳ	2	2

【専門看護分野：精神看護】

科目	大学院の該当科目	履修単位	認定単位
歴史・法制度に関する科目	精神看護学特論Ⅰ	2	2
精神・身体状態の評価に関する科目	精神看護学特論Ⅱ	2	2
精神科治療技法に関する科目	精神看護学特論Ⅲ	2	2
	精神看護学演習Ⅰ	2	2
精神看護理論、援助技法に関する科目	精神看護学特論Ⅳ	2	2
	精神看護学演習Ⅱ	2	2
リエゾン精神看護	精神看護学特論Ⅴ	2	2
実習	精神看護学実習		
	・精神看護学実習Ⅰ	2	2
	・精神看護学実習Ⅱ	2	2
	・精神看護学実習Ⅲ	6	6

【専門看護師教育課程 (38単位)】

共通科目A照合表

基準の科目名	大学院の該当科目	その科目の内容	単位	
			履修単位	認定単位
看護教育論	看護教育学特論	看護ケアの質を高めるために必要な教育の原理とその機能を理解し、専門看護師として教育的働きかけができる能力を修得する。また、教育環境の整備、継続教育や生涯教育についても学びを深める。	2	2
看護管理論	看護管理学特論	看護管理におけるマネジメント、リーダーシップ、調整機能、コンサルタント、スタッフ教育や意思決定などについて理論と実践から学び、問題特定、解決能力を養い実践能力を修得する。	2	2
看護研究	看護研究方法論	看護活動を効果的に展開するのに必要な看護技術の向上や開発を図るために、研究プロセスを理解し、看護実践における研究活動に必要な基礎的研究能力を修得する。	2	2
コンサルテーション論	コンサルテーション論	専門看護師としての役割遂行に必要な能力を深めるため、コンサルテーションの基本的概念とプロセスを理解し、コンサルタントとしての技術を養いコンサルテーションの実践に必要な能力を修得する。	2	2
			認定合計単位 8単位	

共通科目B照合表

基準の科目名	大学院の該当科目	その科目の内容	単位	
			履修単位	認定単位
臨床薬理学	臨床薬理学	対象の健康問題に応じた薬物治療が効果的かつ安全に行われるために、薬物の生体に対する生理学的、生化学的な影響、作用メカニズム、薬物動態について理解し、薬物療法の継続に必要な知識と技術を修得する。	2	2
フィジカルアセスメント	フィジカルアセスメント	複雑な健康問題を抱える対象の身体・精神状況を包括的に査定するために必要なフィジカルアセスメントの概念を理解する。また、フィジカルイグザミネーションの技法を修得し対象の身体所見について解釈、アセスメントし臨床判断ができる能力を養う。	2	2
病態生理学	病態生理学	身体の生理学的メカニズムを理解し、疾病の成因、症状および診断・治療についての知識を深め、対象の病態生理学的变化の解釈、判断に必要な技術を修得する。	2	2
			履修合計単位 6単位	

## 看護教育学特論（共通科目）

2 単位（春学期）

科目責任者 中島 恵美子（本学教授）

1. 教育目的： 教育的機能の基本を理解し、専門看護師としての役割遂行に必要な教育の原理と技能を学び、看護ケア向上に活用できる能力を修得する。
2. 教育目標： 1) 教育的機能の原理を学ぶ。  
2) 専門看護師に必要とされる教育的機能を理解し、実践で活用できる方法を学ぶ。  
3) 専門看護師の能力向上に必要とされる継続教育の実際について学ぶ。
3. 教育内容：
  - ① ガイダンス
  - ② 看護基礎教育と継続教育の概要と展望
  - ③ 看護教育における教育評価
  - ④ 患者教育における指導と評価
  - ⑤ 専門看護師の教育的機能の理論と実際
  - ⑥ 専門看護師育成プログラムと教育的機能
  - ⑦ がん看護専門看護師の役割機能とその実際
  - ⑧ クリティカルケア看護専門看護師の役割機能とその実際
  - ⑨ 精神看護専門看護師の役割機能とその実際
  - ⑩ 専門看護師の継続教育の実際
  - ⑪ 専門看護師の継続教育とその課題
  - ⑫ 看護実践におけるスタッフ教育(1)
  - ⑬ 看護実践におけるスタッフ教育(2)
  - ⑭ 看護ケア向上のための能力開発(エンパワメントと看護教育)
  - ⑮ 看護ケア向上のための能力開発(ケアリングと看護教育)
4. 教育の進め方： 講義と学生のプレゼンテーションで行う。  
初回の講義において進め方、課題について具体的に説明する。
5. 成績評価方法： プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

## 看護管理学特論（共通科目）

2 単位（春学期）

科目責任者 佐藤 澄子（本学非常勤講師）

1. 教育目的：我が国の医療制度、政策について理解を深め、看護管理上の課題を明らかにする。さらに、看護管理に関する理論や技術を体系的に学び、看護管理実践における意思決定と問題の特定・課題解決能力を養い、看護管理における実践能力を修得する。また、組織内におけるリーダーシップや調整機能、キャリア開発、人的資源管理などについて、理論と実際から学ぶ。
2. 教育目標：1) 看護管理における機能、責務について理解できる。  
2) 看護管理に関する臨床実践能力を養うことができる。  
3) 医療・看護の場における最適な看護管理のあり方を考察できる。
3. 教育内容：
  - ① ガイダンス・看護管理学総論
  - ② 看護管理における人材育成とキャリア開発
  - ③ 組織における意思決定とマネジメント 1)
  - ④ 組織における意思決定とマネジメント 2)
  - ⑤ 組織におけるリーダーシップ行動とマネジメント能力の開発(理論と実際 1)
  - ⑥ 組織におけるリーダーシップ行動とマネジメント能力の開発(理論と実際 2)
  - ⑦ 医療の質と看護サービスの質評価と改善
  - ⑧ 看護管理に影響を及ぼす法令と政策 1)
  - ⑨ 看護管理に影響を及ぼす法令と政策 2)
  - ⑩ 病院における医療安全管理とリスクマネジメント 1)
  - ⑪ 病院における医療安全管理とリスクマネジメント 2)
  - ⑫ 看護管理実践における諸理論と人的資源管理 1)
  - ⑬ 看護管理実践における諸理論と人的資源管理 2)
  - ⑭ 看護管理実践過程における課題解決方法 1) プレゼンテーション
  - ⑮ 看護管理実践過程における課題解決方法 2) プレゼンテーション
4. 教育の進め方：講義、学生のプレゼンテーションで進行する。  
初回の講義において進め方、課題について具体的に説明する。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

## 看護研究方法論（共通科目）

2 単位（春学期）

科目責任者 松岡 恵（本学教授）

1. 教育目的：科学的根拠に基づいた看護実践を展開する上で必要な一連の研究過程を展開するための基礎的な能力を修得する。

### 2. 教育目標

GI0：看護研究の一連の研究プロセスを理解し、研究の批判的吟味を行うことができる。

SBOs:

- 1) 看護実践現場での問題意識から研究課題を作成する方法が理解できる。
- 2) 研究課題から研究目的を導く方法が理解できる。
- 3) 研究目的に適した研究方法と研究対象を定める方法が理解できる。
- 4) 研究計画書を作成するために必要な検討事項が理解できる。
- 5) 研究のクリティークを行うことができる。

### 3. 教育内容

担当教員：松岡 恵、大木 幸子、加賀谷 聡子、浅沼 奈美、図書館司書  
授業計画：

- ① 看護研究のプロセス（松岡）
- ② 研究のクリティーク（松岡）
- ③ 研究課題と仮説：テキスト第4章（松岡）
- ④ 文献レビュー：テキスト第5章（松岡）
- ⑤⑥文献検索演習（図書館司書）
- ⑦⑧質的研究のデザインと分析：テキスト第11章、第23章（大木）
- ⑨⑩量的研究のデザインと厳密性の強化：テキスト第8章、第9章（松岡）
- ⑪⑫標本抽出とデータの質の評価：テキスト第13章、第18章（加賀谷）
- ⑬⑭文献クリティーク（浅沼、大木）
- ⑮ まとめ（松岡）

### 4. 教育の進め方

第1、2、15回は講義、第5、6回は図書館での文献検索演習、第3、4回および第7～14回はゼミを行う。

第1回講義で、講義のテキスト該当ページを提示するので講義前に該当ページを熟読し、疑問点を明らかにしておく。文献検索演習は各自の研究課題を基に検索ワードを準備し、事前に配付された資料を熟読して臨む。

第3回～12回はテキスト：ポーリット&ベック（近藤潤子監訳）看護研究—原理と方法第2版、医学書院を用いるので、学生は各担当章の配付資料と紹介文献を前日までに担当教員と学生に配布する。

13回、14回は前日までに担当学生がクリティーク論文を担当教員と学生に配布する。担当以外の学生は配布された論文を各自でクリティークし、疑問点を明らかにして授業に臨む。

授業後は配付資料と討論内容を復習する。

### 5. 成績評価方法

プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)



## コンサルテーション論（共通科目）

2 単位（秋学期）

科目責任者 浅沼 奈美（本学教授）

1. 教育目的：看護教育学特論において学んだ専門看護師としての役割遂行に必要な能力をさらに深めることを目的に、本科目では主としてコンサルテーションの基本概念を学び、専門看護師としてコンサルテーションの実践に必要な能力を修得する。
2. 教育目標：1) 講義や事例分析などからコンサルトとしての技術を養うことができる。  
2) コンサルテーションの現状と課題を明らかにすることができる。
3. 教育内容：
  - ①ガイダンス
  - ②コンサルテーションの基本概念
  - ③コンサルテーションのプロセス
  - ④コンサルテーションの役割機能
  - ⑤援助関係におけるダイナミックス
  - ⑥対面関係におけるサイコダイナミックス
  - ⑦コンサルタントとコンサルティの関係
  - ⑧促進的なプロセス介入
  - ⑨コンサルテーションの実際 - ロールプレイ (1)
  - ⑩コンサルテーションの実際 - ロールプレイ (2)
  - ⑪コンサルテーションの実際 - 事例分析 (1)
  - ⑫コンサルテーションの実際 - 事例分析 (2)
  - ⑬コンサルテーションの実際 - 事例分析 (3)
  - ⑭看護組織におけるコンサルテーションの現状と課題 (1)
  - ⑮看護組織におけるコンサルテーションの現状と課題 (2) まとめ
4. 教育の進め方：学生のプレゼンテーション、ロールプレイを中心とし、講義を入れながら行う。  
初回の講義において進め方、課題について具体的に説明する。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション (40%)、課題レポート (60%)

## フィジカルアセスメント（共通科目）

2 単位（春学期）

科目責任者 加賀谷 聡子（本学教授）

1. 教育目的：複雑な健康問題を抱える対象の身体・精神状況を包括的に査定するために必要なフィジカルアセスメントの知識と技術を修得する。
2. 教育目標：1) フィジカルアセスメントの概念を理解しその意義が説明できる。  
2) フィジカルイグザミネーションの技法を習得し、対象の症状、身体所見の正常・異常について識別し解釈できる。  
3) 対象者の健康問題が日常生活に与える影響をアセスメントし臨床判断ができる。  
4) アセスメントの結果を看護支援の根拠および効果測定・評価の指針にできる。
3. 教育内容：
  - ①②ガイダンス フィジカルアセスメントとは  
ヘルスヒストリーの構成要素と問診・インタビュー
  - ③④精神機能のアセスメント
  - ⑤⑥呼吸器系のフィジカルアセスメント
  - ⑦⑧呼吸器系のフィジカルイグザミネーションの実際
  - ⑨⑩循環器系のフィジカルアセスメント
  - ⑪⑫循環器系のフィジカルイグザミネーションの実際
  - ⑬⑭消化器系のフィジカルアセスメント
  - ⑮⑯消化器系のフィジカルイグザミネーションの実際
  - ⑰⑱腎・泌尿器系・女性生殖器のフィジカルアセスメント
  - ⑲⑳腎・泌尿器系・女性生殖器のフィジカルイグザミネーションの実際
  - ㉑㉒感覚器系のフィジカルアセスメント
  - ㉓㉔感覚器系のフィジカルイグザミネーションの実際
  - ㉕㉖中枢神経系のフィジカルアセスメント
  - ㉗㉘中枢神経系のフィジカルイグザミネーションの実際
  - ㉙㉚フィジカルアセスメントの統合(臨床所見と統合的臨床判断の実際まとめ)
4. 教育の進め方：呼吸器系、循環器系、消化器系、中枢神経系、感覚器系、運動系におけるフィジカルアセスメントの方法について講義とシミュレータ機器を活用した技術演習にて進める。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

## 病態生理学（共通科目）

2 単位（春学期）

科目責任者 岩楯 桜子（本学教授）

1. 教育目的：身体の生理学的メカニズムを理解したうえで、疾病の成因、症状および診断・治療についての知識を深め、対象の病態生理学的変化の解釈、判断に必要な技術を修得する。
2. 教育目標：1) 各組織の生理学的変化の機能・構造とその病理学的現象とを関連付けて説明できる。  
2) 機能異常をきたした疾患の病態生理学的変化を理解し、判断することができる。  
3) 診断に必要な検査について理解し、対象に必要な支援につなげることができる。
3. 教育内容：
  - ①② ガイダンス総論
  - ③④ 呼吸障害の発症のメカニズム
  - ⑤⑥ 循環障害の発症のメカニズム
  - ⑦⑧ 消化・吸収機能障害の発症のメカニズム
  - ⑨⑩ 内分泌・代謝機能障害の発症のメカニズム
  - ⑪⑫ 脳・神経機能障害の発症のメカニズム
  - ⑬ 腎機能障害の発症のメカニズム
  - ⑭ 感覚器障害の発症のメカニズム
  - ⑮ 専門看護師に必要とされる病態生理学の知識と判断まとめ
4. 教育の進め方：講義を中心として進めるが、必要に応じ学生によるプレゼンテーション並びにグループワークを行う。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

## 臨床薬理学（共通科目）

2 単位（春学期）

科目責任者 西村 伸大（本学准教授）

1. 教育目的：薬物治療が効果的かつ安全におこなわれるためには、薬物の薬力学（生体内での生理学的、生化学的な影響、作用メカニズム、薬物濃度と作用）および体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）について理解することが重要である。そのために必要な知識と技術を教授する。
2. 教育目標：1) 薬物の体内動態、薬物の薬力学が理解できる。  
2) 病態に応じた薬物治療について理解することができる。  
3) 対象が薬物療法を効果的に継続するための支援のあり方を理解する。
3. 教育内容
  - ① ガイダンス 臨床薬理学総論（1）
  - ② ガイダンス 臨床薬理学総論（2）
  - ③ 薬物の相互作用
  - ④ 薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）
  - ⑤ 中枢神経作用薬（1）
  - ⑥ 中枢神経作用薬（2）
  - ⑦ 末梢神経作用薬（1）
  - ⑧ 末梢神経作用薬（2）
  - ⑨ 末梢神経作用薬（3）
  - ⑩ 末梢神経作用薬（4）
  - ⑪ 消化管機能調整薬
  - ⑫ 内分泌・代謝系作用薬
  - ⑬ 抗悪性腫瘍薬（1）
  - ⑭ 抗悪性腫瘍薬（2）
  - ⑮ 薬物療法を受ける患者への薬物管理と生活調整の支援、まとめ
4. 教育の進め方：講義を中心として進めるが、必要に応じ学生によるプレゼンテーション並びにグループワークを行う。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

## 専攻教育課程照合表

専門看護分野：がん看護

	科目	大学院該当科目	その科目の内容	履修 単位	認定 単位
専攻分野 共通科目	1. がん看護に関する病態生理学	がん看護学特論Ⅰ	がんの様々な病態について具体的事例をもとに学び、病態生理をとらえアセスメントし患者ケアに役立てる方略を学ぶ。	2	2
	2. がん看護に関する理論	がん看護学特論Ⅱ	がん看護を实践するうえで基礎となる、危機理論、ストレス理論、セルフケア理論などを学び、事例展開により活用方法を深める。	2	2
	3. がん治療支援に関わる看護援助論	がん看護学演習Ⅰ	がん患者・家族に対する看護支援に必要な理論や概念を学び、病名・予後告知、治療選択、治療に伴う援助方法および症状緩和の方略を探究する。	2	2
専攻分野 専門科目	1. がん薬物療法看護	がん看護学特論Ⅲ	がん薬物療法を受ける患者・家族に対する看護支援、有害事象の予防や対処方法、症状マネジメントの方略を学ぶ。	2	2
		がん看護学演習Ⅱ	がん薬物療法（化学療法、ホルモン療法を含む）を受ける患者への看護支援についてベットのサイドティーチングを受け、特論Ⅲの講義で学んだことを実際の看護援助場面を通し理解を深め、事例検討を行い看護支援の方向性を見出す。	2	2
	2. 緩和ケア	がん看護学特論Ⅳ	がんによりもたらされる苦痛に対し症状緩和に必要な看護支援の方略を学び、さらに事例分析により患者のQOL向上に必要な援助と課題を見出す。さらに End of Life Care や家族のグリーフワークについて学ぶ。	4	4
実習科目	実習	がん看護学実習 ・がん看護学実習Ⅰ ・がん看護学実習Ⅱ ・がん看護学実習Ⅲ	がん看護学実習Ⅰ(2単位):がん看護専門看護師に必要とされる実践、教育、相談、調整、研究が自立して実践できる能力を養う。がん看護学実習Ⅱ(4単位):がん薬物療法(化学療法、ホルモン療法)の治療に伴い発生する複雑な問題に対し高度な看護実践能力を習得する。がん看護学実習Ⅲ(4単位):がん治療に伴う苦痛の緩和、終末期の疼痛マネジメントや症状緩和などを中心とした看護支援に重点を置き、高度な看護実践能力を習得すると同時に地域連携の実際を学ぶ。また、がん看護学実習Ⅱ、Ⅲでは診断・治療に伴う臨床判断、身体管理について体験し、ケアとケアを融合した看護実践能力を習得する。	10	10
				認定合計単位 24単位	

## がん看護特論 I

2 単位 (春学期)

科目責任者 中島 恵美子 (本学教授)

1. 教育目的：がんの様々な病態について具体的事例をもとにし、その検査データや臨床所見、または看護記録をもとに討議を行い、多角的視点から病因・病態を解析する手法を修得する。
2. 教育目標：1) 様々ながんの臨床所見や検査データから病態を理解するためのアセスメント方法を学ぶ。  
2) 事例の討議から病態の解明ができる能力を養う。  
3) 学んだ病因・病態を看護ケアに生かすことが可能となる能力を養う。
3. 教育内容：
  - ①がんの特異とされる病因・病態像(総論)
  - ②がんの治療 1(各論)
  - ③がんの治療 2(各論)
  - ④呼吸器に発生する悪性腫瘍の病因・病態像とデータ解析(その 1)
  - ⑤呼吸器に発生する悪性腫瘍の病因・病態像とデータ解析(その 2)
  - ⑥女性生殖機能に発生する悪性腫瘍の病因・病態とデータ解析(その 1)
  - ⑦女性生殖機能に発生する悪性腫瘍の病因・病態とデータ解析(その 2)
  - ⑧消化器に発生する悪性腫瘍の病因・病態とデータ解析(その 1)
  - ⑨消化器に発生する悪性腫瘍の病因・病態とデータ解析(その 2)
  - ⑩消化器に発生する悪性腫瘍の病因・病態とデータ解析(その 3)
  - ⑪消化器に発生する悪性腫瘍の病因・病態とデータ解析(その 4)
  - ⑫代謝機能に発生する悪性腫瘍の病因・病態とデータ解析
  - ⑬がんに伴う諸症状の病態生理とアセスメント(その 1)
  - ⑭がんに伴う諸症状の病態生理とアセスメント(その 2)
  - ⑮まとめ
4. 教育の進め方：講義を中心とし、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。  
初回の講義において進め方、課題について具体的に説明する。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

## がん看護学特論Ⅱ

2単位（春学期）

科目責任者 中島 恵美子（本学教授）

1. 教育目的：がん看護の實踐に必要とされる主要な理論の基礎を学び、さらに事例分析により理論の活用方法について探求する。
2. 教育目標：1)がん看護に必要な理論を理解できる。  
2)がん患者が迎える急性期、慢性期、終末期の援助の基礎となる理論について理解する。
3. 教育内容：
  - ①ガイダンス
  - ②がんサバイバーシップ
  - ③治療選択に必要とされる意思決定論
  - ④治療選択に必要とされる意思決定論
  - ⑤がん患者が直面する危機的状況の回避に必要とされる理論(危機理論)
  - ⑥がん患者が直面する危機的状況の回避に必要とされる理論(ストレス理論)
  - ⑦がん患者の治療継続に必要とされる理論(セルフケア理論)
  - ⑧がん患者の治療継続に必要とされる理論(不確かさ)
  - ⑨終末期に必要とされる理論(Loss&Grief)
  - ⑩終末期に必要とされる理論(ホスピスケア論)
  - ⑪がん患者に必要とされる倫理
  - ⑫理論を活用した事例分析(事例展開)
  - ⑬理論を活用した事例分析(事例展開)
  - ⑭理論を活用した事例分析(事例展開)
  - ⑮まとめ
4. 教育の進め方：講義、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。  
初回の講義において進め方、課題について具体的に説明する。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

## がん看護学特論Ⅲ

2 単位 (秋学期)

科目責任者 中島 恵美子 (本学教授)

1. 教育目的：がん薬物療法を受ける患者の有害事象に対するアセスメント、援助法を修得し、治療中の QOL 向上をはかる看護支援について探求する。
2. 教育目標：1) がん薬物療法を受ける患者・家族の特徴が理解できる。  
2) 治療による有害事象に対する症状コントロールについて理解できる。  
3) 治療中の QOL 維持を目的とした患者教育の方法が説明できる。
3. 教育内容：
  - ① ガイダンス
  - ②③ がん薬物療法を受けるがん患者・家族への看護支援
  - ④⑤ がん薬物療法を受ける患者の情報収集とアセスメント
  - ⑥⑦ がん薬物療法における有害事象の予防・早期発見・早期対処
  - ⑧⑨⑩がん薬物療法により生じる有害事象に対する症状コントロール
  - ⑪⑫ がん薬物療法を受ける患者へのチームアプローチ
  - ⑬⑭ がん化学療法の臨床試験に参加する患者・家族への看護支援
  - ⑮ 外来通院においてがん薬物療法を受ける患者・家族への看護支援まとめ
4. 教育の進め方：講義、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。  
初回の講義において進め方、課題について具体的に説明する。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)



## がん看護学特論Ⅳ

4単位（秋学期）

科目責任者 量 倫子（本学講師）

1. 教育目的：がんによってもたらされる苦痛に対し、その症状緩和に必要とされる援助方法に焦点をあて、緩和ケアの方略を探求する。また、がん患者と家族の苦痛を全人的にとらえ、キュアとケアを統合して提供する能力を修得する。さらに End of Life Care や家族のグリーフワークについて知識と技術を修得する。
2. 教育目標：1)がん患者・家族の苦痛を身体、心理、社会、霊的な側面より理解することができる。  
2)症状緩和をはかるためのアセスメントおよびそのアプローチ方法が説明できる。  
3)End of Life Care、グリーフケアについて理解しその必要性が説明できる。  
4)事例分析によりがん患者・家族の QOL 向上に必要な援助と課題を説明することができる。
3. 教育内容：
  - ①②ガイドランス、緩和ケアの概念
  - ③④我が国および諸外国における緩和ケアの現状
  - ⑤⑥緩和ケアを必要とする患者・家族の理解と看護支援
  - ⑦⑧緩和ケアを必要とする患者・家族の倫理的課題
  - ⑨⑩緩和ケアを必要とする患者の全人的痛みの理解と援助
  - ⑪⑫緩和ケアを促進するチームアプローチ
  - ⑬⑭治療に伴う症状緩和(疼痛コントロール)
  - ⑮⑯治療に伴う症状緩和(症状マネージメント)
  - ⑰⑱治療に伴う症状緩和(症状マネージメント)
  - ⑲⑳治療に伴う症状緩和(リラクゼーション法)
  - ㉑㉒緩和ケアを必要とする患者の援助の実際(緩和ケア病棟、一般病棟)
  - ㉓㉔緩和ケアを必要とする患者の援助の実際(ホスピス、在宅)
  - ㉕㉖緩和ケアを必要とする患者の QOL 維持への援助(事例分析)
  - ㉗㉘End of LifeCare、グリーフケアの実際
  - ㉙㉚End of LifeCare、グリーフケアの実際(事例分析)まとめ
4. 教育の進め方：講義、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。  
初回の講義において進め方、課題について具体的に説明する。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

## がん看護学演習 I

2 単位 (春学期)

科目責任者 中島 恵美子 (本学教授)

1. 教育目的:がん患者と家族の特徴を理解し、複雑な健康問題に対し包括的な支援ができるよう専門的アプローチに必要な理論や概念を学ぶと同時に、病名・予後告知、治療の選択、診断、治療に伴う援助方法および症状緩和などについてアセスメント、援助法を探求する。
2. 教育目標 : 1)がん患者・家族の特徴を理解できる。  
2)理論や概念を活用し専門的アプローチの方法が理解できる。  
3)がん治療に伴う援助方法が説明できる。
3. 教育内容 :
  - ①②ガイダンス、がん看護の専門性と役割機能
  - ③④がん看護に必要とされる理論と概念
  - ⑤⑥がん患者・家族の理解
  - ⑦⑧がん患者・家族を支える援助
  - ⑨⑩がん患者の病名・予後告知における援助
  - ⑪⑫治療選択を必要とするがん患者・家族の援助
  - ⑬⑭がん患者の意思決定を支える援助
  - ⑮⑯がん患者の抱えるストレスに対する援助
  - ⑰⑱がん患者の危機とその対処方法への援助
  - ⑲⑳手術療法を必要とするがん患者の援助
  - ㉑㉒薬物療法を必要とするがん患者の援助
  - ㉓㉔放射線療法を必要とするがん患者の援助
  - ㉕㉖疼痛コントロールを必要とするがん患者の援助
  - ㉗㉘がん治療における諸症状の緩和に必要とされる援助
  - ㉙㉚がん患者の治療過程における QOL 維持への援助まとめ
4. 教育の進め方 : 講義、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。  
初回の講義において進め方、課題について具体的に説明する。
5. 成績評価方法 : プレゼンテーション (40%)、課題レポート (60%)

## がん看護学演習Ⅱ

2単位（秋学期）

科目責任者 中島 恵美子（本学教授）

1. 教育目的：がん薬物療法を受ける患者の有害事象に対するアセスメント、援助法を修得し、治療中のQOL向上をはかる看護支援について探求する。
2. 教育目標：1)がん薬物療法を受ける患者・家族への教育支援技術が理解できる。  
2)治療による有害事象に対する症状コントロール方法の実際が説明できる。  
3)患者教育の実際から必要とされる看護支援方法が説明できる。
3. 教育内容：
  - ①②ガイドランスがん薬物療法を受ける患者・家族の理解
  - ③④がん薬物療法を受ける患者への教育支援技術演習(1)
  - ⑤⑥がん薬物療法を受ける患者への教育支援技術演習(2)
  - ⑦⑧がん薬物療法を受ける患者への教育支援技術演習(3)
  - ⑨⑩がん薬物療法を受ける患者へのチームアプローチ方法の実際
  - ⑪⑫外来化学療法を受ける患者・家族への看護支援(病院ベットサイド演習1)
  - ⑬⑭外来化学療法を受ける患者・家族への看護支援(病院ベットサイド演習2)
  - ⑮⑯外来化学療法を受ける患者・家族への看護支援(事例検討)
  - ⑰⑱外来通院にて経口抗がん剤治療を受ける患者への看護支援  
(病院ベットサイド演習1)
  - ⑲⑳外来通院にて経口抗がん剤治療を受ける患者への看護支援  
(病院ベットサイド演習2)
  - ㉑㉒外来通院にて経口抗がん剤治療を受ける患者への看護支援(事例検討)
  - ㉓㉔外来通院にて内分泌療法を受ける患者への看護支援(病院ベットサイド演習1)
  - ㉕㉖外来通院にて内分泌療法を受ける患者への看護支援(病院ベットサイド演習2)
  - ㉗㉘外来通院にて内分泌療法を受ける患者への看護支援(事例検討)
  - ㉙㉚がん薬物療法を受ける患者・家族の看護支援方法まとめ
4. 教育の進め方：講義・演習、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。  
病院においてベットサイドティーチングを受け、講義で学んだことを実際の看護援助場面から理解を深め、さらに事例検討を行い看護援助の方向性を見出す。  
ベットサイドティーチングは杏林大学病院外来室にて実施する。  
初回の講義において進め方、課題について具体的に説明する。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

## がん看護学実習

10単位（春・秋学期）

科目責任者 中島 恵美子（本学教授）

1. 教育目的：がん看護領域において、がん看護の専門性および特殊性を踏まえ、高度なアセスメント能力とエビデンスに基づく的確な臨床判断ができる能力を修得し、専門看護師に必要とされる卓越した実践、教育、相談、調整、研究が自律して実践できる能力を探究する。
2. 教育目標：
  - 1) がん専門看護師の役割を理解し卓越した実践、教育、相談、調整、倫理調整、研究ができる。
  - 2) がん患者・家族に対し、がん看護の専門性、特殊性を踏まえたアセスメントと臨床判断ができる。
  - 3) がん診断、治療に伴う臨床判断、身体管理について体験し、キュアの知識と高度なケア技術を用いてがん患者および家族に対して看護実践ができる。
  - 4) がん患者・家族が抱える倫理的問題に対し、対象者の尊厳を守りながら問題解決をはかることができる。
3. 実習目標：
  - 1) 実践：がん患者・家族(集団)に対する卓越した看護実践能力を磨く。
  - 2) 教育：看護職者に対するケアの質向上のための教育的機能を果たす。
  - 3) 相談：看護職者と他のケア提供者に対するコンサルテーション(相談)機能を実践する。
  - 4) ケア調整：円滑なケア提供のためのコーディネーション(調整)機能を実践する。
  - 5) 研究：専門知識・技術、システムの向上や開発を図るための研究的取り組みを行う。
  - 6) 倫理調整：倫理的な葛藤や問題が生じた場合に対処、解決を図る。
4. 教育の進め方：
  - 1) 実習はがん看護学実習Ⅰ：CNS 役割実習 2 単位、がん看護学実習Ⅱ：上級看護実践実習(がん薬物療法看護分野 4 単位)、がん看護学実習Ⅲ：上級看護実践実習(緩和ケア分野 4 単位)とし実施する。
  - 2) 実習場において実習担当教員の指導とがん専門看護師を始めとする各施設の実習指導担当者における指導を受けながら実習を進める。なお、がん診断、治療に伴う臨床判断、身体管理については、がん医療を専門とする医師の指導受けながら実習を進める。
  - 3) 専門看護師の役割(実践、教育、ケア調整、相談、倫理調整)について実習した内容を記録し、実習目標達成のための実習計画、修正をしながら実行する。
  - 4) 専門看護師の役割(実践、教育、ケア調整、相談、倫理調整)について実習した内容を事例に基づきレポートする。
5. 実習施設：杏林大学医学部付属病院、桜町病院 聖ヨハネホスピスにて実施する。
6. 成績評価方法：最終提出レポート(100%)にて評価。

## がん看護学実習の目標と内容

### がん看護実習Ⅰ：[CNS 役割実習]

がん専門看護師の役割である、実践、教育、相談、ケア調整、倫理調整、研究について、実際に臨床の場でどのように実践されているかをがん専門看護師のスーパービジョンを受けながら理解し学ぶ。また、この実習を通しがん専門看護師の役割開発を行う能力を養うことができるようにする。

### がん看護実習Ⅱ・Ⅲ：[上級看護実践実習]

上級看護実践実習は、がん薬物療法看護、緩和ケアの2分野において実施する。がん専門看護師に必要とされる高度な看護実践能力を習得できるようにする。がん診断、治療に伴う臨床判断、身体管理について体験しケアとケアを融合した高度な看護実践ができるよう、がん専門看護師およびがん専門医師の指導を受けながら実習を行う。

#### [実習目標と内容]

実習目標	実習内容
1. 実践 がん患者・家族に対する卓越した看護実践を行う。	複雑で困難な問題を有する対象に対し、個別に応じたケア提供方略、アセスメント、ケアプラン作成をし、質の高い卓越した看護実践を行う。また、がん診断・治療に伴う臨床判断、身体管理について体験しその知識と技術を生かした看護実践を行う。
2. 教育 看護職者に対するケアの質向上のための教育機能を果たす。	他の看護職者への教育を講義・演習で培った知識や技術を基に、指導者と共に実践する。
3. 相談 看護職者と他のケア提供者に対するコンサルテーションを実践する。	複雑で困難な実践状況において、看護職者や他のケア提供者に対し、がん看護の専門的立場での相談や意見の提供を指導者と共に実践し、問題への対処、解決を図る。
4. ケア調整 円滑なケア提供のためのコーディネーションを実践する。	複雑な問題を有する事例に対し、継続したケア提供を円滑に実施するために、他職種との連携、調整を図る。
5. 研究 専門的知識・技術の向上や開発を図るため研究活動に取り組む。	がん看護分野において、研究的取り組みを必要とする課題を見出し、問題解決やケアの質的向上に向けた研究活動を実践する。
6. 倫理調整 倫理的な葛藤や問題が生じた場合、解決への取り組みを図る。	がん看護分野における倫理的課題に対し、患者・家族、ケア提供者間に立ち、問題解決や対処のための様々な検討を行い、調整を図る。

### 専攻教育課程照合表

専門看護分野：クリティカルケア看護

	科目	大学院該当科目	その科目の内容	履修 単位	申請 単位
専攻分野 共通科目	1. 危機とストレスに関する科目	クリティカルケア看護学特論Ⅰ	クリティカルな状況にある患者と家族を理解するための代表的な理論を学び、衝撃的な体験や持続するストレスからの立ち直りを促す援助方法を探究する。	2	2
	2. 重症患者の代謝病態生理学に関する科目	病態治療論	急性・重症患者の身体機能を総合的にアセスメントし、適切な看護援助を実践するための病態生理および治療について学ぶ。	2	2
	3. クリティカルケア治療管理に関する科目	クリティカルケア看護学演習Ⅰ	急性・重症患者の複雑な病態や身体機能に対して用いられる治療・処置などの全身管理について理解を深め、適切な援助を探究する。	2	2
専攻分野 専門科目	1. クリティカルケア看護援助に関する科目Ⅰ	クリティカルケア看護学特論Ⅱ	クリティカルな状況にある患者と家族を心身統一体としてとらえ、回復を促すためのケアとケアが融合した看護介入の方法を探究する。	2	2
	2. クリティカルケア看護援助に関する科目Ⅱ	クリティカルケア看護学特論Ⅲ	クリティカルな状況にある患者とその家族に生じやすい倫理問題を理解し、看護倫理や意思決定に関する諸理論をもとに問題解決のための援助方法について探究する。	2	2
	3. クリティカルケア看護援助に関する科目Ⅲ	クリティカルケア看護学演習Ⅱ	クリティカルな状況にある患者と家族の身体的・心理的・社会的苦痛を緩和・軽減するための看護ケアについて学ぶ。	2	2
	4. クリティカルケア看護援助に関する科目Ⅳ	クリティカルケア看護学演習Ⅲ	救命救急看護、集中治療看護分野の病態生理・治療・処置などの知識を深め、その分野における高度な看護実践について探究する。	2	2
実習科目	クリティカルケア看護実習	クリティカルケア看護学実習Ⅰ	クリティカルケア専門看護師に必要とされる教育、相談、調整、倫理調整が自立して実践できる能力を養う。	2	2
		クリティカルケア看護学実習Ⅱ	集中治療領域において、診断・治療に伴う臨床判断、身体管理について学び、クリティカルケア専門看護師に必要とされる高度な看護実践能力を習得する。	3	3
		クリティカルケア看護学実習Ⅲ	救急領域において、診断・治療に伴う臨床判断、身体管理について学び、クリティカルケア専門看護師に必要とされる高度な看護実践能力を習得する。	3	3
		クリティカルケア看護学実習Ⅳ	ポストクリティカル期の患者のケア調整やセルフケアに向けた教育的関わりを学び、専門看護師に求められる高度な看護実践能力を習得する。	2	2
				合計単位 24単位	

## クリティカルケア看護学特論 I

2 単位 (春学期)

科目責任者 加賀谷 聡子 (本学教授)

1. 教育目的: クリティカルな状況にある患者とその家族の体験や苦悩を理解するための代表的な理論を学び、衝撃的な体験や持続するストレスからの回復を促す専門的援助方法を探究する。
2. 教育目標: 1) クリティカルな状況にある患者とその家族の体験や苦悩について理解を深める。  
2) 衝撃的な体験や持続するストレスに対する身体的・心理的反応を説明する代表的な理論について理解する。  
3) 理論を用いて事例を分析し、危機的状況からの回復を促す援助方法について述べることができる。
3. 教育内容:
  - ① ガイダンス
  - ②③ クリティカルな状況にある対象および家族の特性
  - ④⑤ 危機的状況にある患者と家族を援助するための理論  
(ストレスコーピング理論 その1)
  - ⑥⑦ 危機的状況にある患者と家族を援助するための理論  
(ストレスコーピング理論 その2)
  - ⑧⑨ 危機的状況にある患者と家族を援助するための理論 (危機理論)
  - ⑩⑪ 危機的状況にある患者と家族を援助するための理論 (悲嘆理論)
  - ⑫⑬ 危機的状況にある患者と家族を援助するための理論 (ソーシャルサポート)
  - ⑭⑮ 危機的状況にある患者と家族を援助するための理論の応用 (事例検討)
4. 教育の進め方: 講義、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。  
初回の講義において進め方、課題について説明する。
5. 成績評価方法: プレゼンテーション (40%)、課題レポート (60%)

## クリティカルケア看護学特論Ⅱ

2 単位（春学期）

科目責任者 伊藤 有美（本学准教授）

1. 教育目的：クリティカルな状況にある患者とその家族を心身統一体としてとらえ、回復に向けたケアとケアが融合した看護介入の方法について探究する。
2. 教育目標：1)クリティカルな状況にある患者に対する援助関係を発展させるために必要な理論を学び、回復を促進するための看護援助の方略を探究する。  
2)家族看護理論を学び、クリティカルな状況にある患者家族の援助に必要な看護援助の方法について述べるができる。
3. 教育内容：
  - ① ガイダンス
  - ②③ クリティカルな状況にある患者に対する援助（対人関係論・援助関係論）
  - ④⑤ クリティカルな状況にある患者家族の理解（体験理解とアセスメント）  
クリティカルな状況にある患者家族に対する看護支援
  - ⑥⑦ （家族看護論・エンパワーメント）
  - ⑧⑨ クリティカルケアを受ける患者・家族に対する援助（急性呼吸不全）
  - ⑩⑪ クリティカルケアを受ける患者・家族に対する援助（急性循環不全）
  - ⑫⑬ クリティカルケアを受ける患者・家族に対する援助（中枢神経障害）
  - ⑭⑮ クリティカルケアを受ける患者・家族に対する援助  
（多臓器不全・ショック）
4. 教育の進め方：講義、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。  
初回の講義において進め方、課題について説明する。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）



## クリティカルケア看護学特論Ⅲ

2 単位 (秋学期)

科目責任者 加賀谷 聡子 (本学教授)

1. 教育目的: クリティカルな状況にある患者とその家族に生じやすい倫理的問題について理解し、看護倫理や意思決定に関する諸理論を学び、問題解決のための援助方法について探究する。
2. 教育目標: 1) クリティカルな状況において生じやすい倫理的問題について理解を深める。  
2) 患者および家族の意思決定を支え、倫理的問題を解決するための理論を学び、問題解決に向けた援助方法を探究する。  
3) 医療チーム内の倫理調整における専門看護師の役割について考察する。
3. 教育内容:
  - ① ガイダンス
  - ②③ 医療および看護倫理の歴史的変遷と倫理に関する諸理論
  - ④⑤ クリティカルな状況にある患者と家族に生じる倫理的問題
  - ⑥⑦ クリティカルな状況にある患者と家族の意思決定支援
  - ⑧⑨ 脳死・臓器移植など最新治療を巡る倫理的問題
  - ⑩⑪ クリティカルな状況下の倫理調整における看護師の役割
  - ⑫⑬ クリティカルな状況下におけるエンドオブライフケア
  - ⑭⑮ クリティカルな状況下における倫理的問題に対する検討 (事例検討)
4. 教育の進め方: 講義、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。  
初回の講義において進め方、課題について説明する。
5. 成績評価方法: プレゼンテーション (40%)、課題レポート (60%)

## 病態治療論

2 単位（春学期）

科目責任者 東 利江（本学准教授）

1. 教育目的：急性・重症患者の身体機能を総合的にアセスメントし、適切な看護援助を実践するための病態生理および治療について学ぶ。
2. 教育目標：1) 生体侵襲を受け、臓器の急性機能不全に陥った重症患者の病態および治療について正確に理解する。  
2) 生体反応を踏まえて、急性重症患者の複雑な身体機能を説明することができる。
3. 教育内容
  - ①② 生体侵襲を受けた患者の病態生理
  - ③④ 急性呼吸不全患者の病態生理
  - ⑤⑥ 急性循環不全患者の病態生理
  - ⑦⑧ 脳神経機能障害の患者の病態生理
  - ⑨⑩⑪ 多臓器障害患者の病態生理
  - ⑫⑬ 熱傷患者の病態生理
  - ⑭⑮ 麻酔による生体侵襲への影響
4. 教育の進め方：講義、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。  
初回の講義において進め方、課題について説明する。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）

## クリティカルケア看護学演習 I

2 単位 (秋学期)

科目責任者 伊藤 有美 (本学准教授)

1. 教育目的：急性・重症患者の複雑な病態や身体機能に対して用いられる治療や処置などの全身管理について理解を深め、患者・家族中心の看護を提供するための適切な援助を探求する。
2. 教育目標：1) 急性・重症患者に用いられる治療や処置の目的と根拠を述べることができる。  
2) 複雑な治療や処置に伴う急性・重症患者の身体的・心理的变化を捉えて包括的にアセスメントすることができる。  
3) 急性・重症患者に用いられる治療や処置の選択や評価について、Evidence Based Practice の観点から探求し、述べることができる。
3. 教育内容
  - ①② 重症患者の栄養管理
  - ③④ 重症患者の創傷管理
  - ⑤⑥ 重症患者の体液管理
  - ⑦⑧ 重症患者の薬物療法
  - ⑨⑩ ICUにおける感染予防対策
  - ⑪⑫ 人工呼吸管理中の患者の看護援助 (1)
  - ⑬⑭ 人工呼吸管理中の患者の看護援助 (2)
  - ⑮⑯ 非侵襲的人工呼吸療法および酸素療法中の患者の看護援助
  - ⑰⑱ 補助循環装置装着中の患者の看護援助
  - ⑲⑳ 急性期心臓リハビリテーションを実施する患者の看護援助
  - ㉑㉒ 低体温療法中の患者の看護援助
  - ㉓㉔ 集中治療を受ける患者の早期リハビリテーション
  - ㉕㉖ 嚥下障害患者の評価とリハビリテーション
  - ㉗㉘ 急性血液浄化法を受ける患者の看護援助
  - ㉙㉚ 救急時の処置と看護援助
4. 教育の進め方：講義、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。  
初回の講義において進め方、課題について説明する。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション (40%)、課題レポート (60%)

## クリティカルケア看護学演習Ⅱ

2単位（秋学期）

科目責任者 伊藤 有美（本学准教授）

1. 教育目的：クリティカルな状況にある患者と家族の身体的・心理的・社会的苦痛を緩和・軽減するための看護ケアについて学ぶ。

2. 教育目標：1)クリティカルな状況にある患者と家族の身体的・心理的・社会的苦痛について理解を深め、アセスメントする知識を修得する。

2)クリティカルな状況にある患者と家族の苦痛を軽減するための理論と方法および評価について探究する。

3)クリティカルな状況にある患者と家族の苦痛を支援する専門看護師の役割および課題について理解を深める。

3. 教育内容：

- ① ガイダンス
- ②③ クリティカルな状況にある患者の全人的な苦痛の理解
- ④⑤ クリティカルな状況にある患者の症状アセスメント
- ⑥⑦ クリティカルな状況にある患者の苦痛緩和の援助（薬物療法）
- ⑧⑨ クリティカルな状況にある患者の苦痛緩和の援助（鎮静について）
- ⑩⑪ クリティカルな状況にある患者の苦痛緩和の援助（せん妄について）
- ⑫⑬ クリティカルな状況にある患者の苦痛緩和の援助（補完代替療法）
- ⑭⑮ クリティカルな状況にある患者の苦痛緩和の援助（術後疼痛管理）
- ⑯⑰ クリティカルな状況にある患者に対する苦痛緩和の介入の評価
- ⑱⑲ クリティカルな状況にある患者の心理・社会的苦痛に対する援助
- ⑳㉑ クリティカルな状況にある患者に必要とされるコンサルテーションの実際
- ㉒㉓ クリティカルな状況にある患者・家族に対する苦痛緩和の援助（ベッドサイド演習1）
- ㉔㉕ クリティカルな状況にある患者・家族に対する苦痛緩和の援助（ベッドサイド演習2）
- ㉖㉗ クリティカルな状況にある患者・家族に対する苦痛緩和の援助（ベッドサイド演習3）
- ㉘㉙㉚ クリティカルな状況にある患者・家族に対して実施した苦痛緩和の援助の分析と評価（事例検討）・まとめ

4. 教育の進め方：講義・演習、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。

病院においてベッドサイド演習を行い、講義で学んだことを実際の看護援助場面から理解を深め、さらに事例検討を行い看護援助の方向性を見出す。ベッドサイド演習は杏林大学医学部附属病院にて実施する。

初回の講義において進め方、課題について具体的に説明する。

5. 成績評価方法：プレゼンテーション（40%）、レポート [ベッドサイド演習レポート、課題レポート]（60%）

## クリティカルケア看護学演習Ⅲ

2単位（秋学期）

科目責任者 加賀谷 聡子（本学教授）

1. 教育目的：救命救急において様々な患者に対応できるように、病態生理、治療・処置に関する知識を深め、専門的な看護実践を行うための能力を養う。
2. 教育目標：1)救命救急看護の対象となる患者の看護問題に対して適切な看護援助を探究することができる。  
2)救命救急看護の対象となる患者の看護援助について、最新の研究成果や知識を活用して考えることができる。  
3)救命救急看護の対象となる患者の看護において、専門性を発揮していくために必要とされる専門看護師の役割と機能について探究することができる。
3. 教育内容：
  - ① ガイダンス
  - ②③ 救命救急治療を受ける患者・家族に対する初期対応（トリアージ）
  - ④⑤ ショック・CPA患者・家族のアセスメントと看護援助
  - ⑥⑦ 外傷患者・家族のアセスメントと看護援助
  - ⑧⑨ 熱傷患者・家族のアセスメントと看護援助
  - ⑩⑪ 脳血管障害患者・家族のアセスメントと看護援助
  - ⑫⑬ 急性腹症患者・家族のアセスメントと看護援助
  - ⑭⑮ 中毒患者・家族のアセスメントと看護援助
  - ⑯⑰ 移植患者・家族のアセスメントと看護援助
  - ⑱⑲ 救命救急看護に必要とされる看護理論
  - ⑳㉑ 救命救急看護に必要とされる具体的援助方法
  - ㉒㉓ 救命救急看護に必要とされる看護援助方法の検討（ベッドサイド演習1）
  - ㉔㉕ 救命救急看護に必要とされる看護援助方法の検討（ベッドサイド演習2）
  - ㉖㉗ 救命救急看護に必要とされる援助方法の検討（事例検討）
  - ㉘㉙㉚ 救命救急看護における高度実践看護師の役割の考察・まとめ
4. 教育の進め方：講義、演習、学生のプレゼンテーションと討議で進行する。  
ベッドサイド演習を行い、講義や文献検討で学んだことを実際の看護援助場面で理解を深め、更に事例検討を行うことで看護援助の方向性を見出す。  
初回の講義において進め方、課題について説明する。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション（40%）、レポート [ベッドサイド演習レポート、課題レポート]（60%）

## クリティカルケア看護学実習 I

2 単位（春・秋学期）

科目責任者 加賀谷 聡子（本学教授）

1. 教育目的：クリティカルケア看護領域において、クリティカルケア看護の専門性および特殊性を踏まえ、専門看護師に必要とされる教育、相談、調整、倫理調整が自律して実践できる能力の開発をめざす。
2. 教育目標：
  - 1) 急性・重症看護専門看護師が果たす教育、相談、調整などの役割・機能について、実際に臨床の場でどのように実践されているかを、急性・重症看護専門看護師のスーパービジョンを受けながら理解し、学ぶ。
  - 2) クリティカルな状況にある患者・家族が抱える倫理的問題に対し、対象者の尊厳を守りながら問題解決をはかることができる。
  - 3) 急性・重症看護専門看護師の役割開発を行うために必要な基礎的能力を養う。

### 3. 実習目標：

[実習目標と内容]

実習目標	実習内容
1. 教育 看護職者に対するケアの質向上のための教育的機能を果たす。	他の看護職者への教育を、講義・演習で培った知識や技術をもとに、指導者と共に実践する。
2. 相談 看護職者と他のケア提供者に対するコンサルテーション（相談）機能を実践する。	複雑で困難な実践状況において、看護職者や他のケア提供者に対し、クリティカルケア看護の専門的立場での相談や意見の提供を指導者と共に実践し、問題への対処、解決を図る。
3. 調整 円滑なケア提供のためのコーディネーション（調整）機能を実践する。	複雑な問題を有する事例に対し、継続したケア提供を円滑に実施するために、他職種との連携、調整を図る。
4. 倫理調整 倫理的な葛藤や問題が生じた場合に対処、解決を図る。	クリティカルケア看護分野における倫理的課題に対し、患者・家族、ケア提供者間に立ち、問題解決や対処のため様々な検討を行い、調整を図る。

### 4. 教育の進め方：

- 1) 実習場において実習担当教員の指導と急性・重症看護専門看護師を始めとする各施設の実習担当者の指導を受けながら実習を進める。
- 2) 専門看護師の役割（教育、調整、相談、倫理調整）について実習した内容を記録し、実習目標達成のための実習計画、修正をしながら実行する。
- 3) 専門看護師の役割（教育、調整、相談、倫理調整）について実習した内容を事例に基づきレポートする。
5. 実習施設：杏林大学医学部附属病院（高度救命救急センター、集中治療室、ハイケアユニット他）
6. 成績評価方法：最終提出レポート（100%）にて評価する。

## クリティカルケア看護学実習Ⅱ

3単位（春・秋学期）

科目責任者 伊藤 有美（本学准教授）

1. 教育目的：集中治療領域でクリティカルケアを必要とする患者に対する直接的な看護実践において、急性・重症看護専門看護師に必要とされる高度な看護実践能力を修得できるようにする。クリティカルケア看護の専門性および特殊性を踏まえ、高度なアセスメント能力とエビデンスに基づく確な臨床判断ができる能力を養う。
2. 教育目標：
  - 1) クリティカルな状況にある患者・家族に対し、クリティカルケア看護の専門性、特殊性を踏まえたアセスメントと臨床判断ができる。
  - 2) 病態生理、治療に伴う臨床判断と高度なケア技術を融合させながら、クリティカルな状況にある患者および家族に対して看護実践ができる。
  - 3) 患者および家族に対して行った看護実践を論理的に評価し、今後の課題も含めて考察することができる。
3. 実習内容
  - 1) 複雑で困難な問題を有する対象に対し、個別に応じたケア提供方略、アセスメント、ケアプランを作成する。
  - 2) ケアプランに基づいて看護実践を行い、実践の結果を論理的に評価する。
4. 教育の進め方：
  - 1) 集中治療室にて治療を受けている複雑で困難な問題を有する患者を受け持ち、看護を実践する。
  - 2) 実習場において実習担当教員および急性・重症看護専門看護師を始めとする各施設の実習担当者の指導を受けながら実習を進める。なお、診断・治療に伴う臨床判断、身体管理については、急性期医療を専門とする医師の指導も受けながら実習を進める。
  - 3) 実習した内容を記録し、実習目標達成に向けて実習計画を修正しながら進めていく。また、適宜クリティカルケアチームメンバーや専門看護師、教員とカンファレンスをもち、実践の評価・検討を行う。
  - 4) 受け持ち終了後、ケースレポートを作成し、ケース検討会を行う。
5. 実習施設：杏林大学医学部附属病院（集中治療室、外科系集中治療室他）
6. 成績評価方法：最終提出レポート（100%）にて評価する。

## クリティカルケア看護学実習Ⅲ

3単位（春・秋学期）

科目責任者 伊藤 有美（本学准教授）

1. 教育目的：救命救急領域でクリティカルケアを必要とする患者に対する直接的な看護実践において、急性・重症看護専門看護師に必要とされる高度な看護実践能力を修得できるようにする。クリティカルケア看護の専門性および特殊性を踏まえ、高度なアセスメント能力とエビデンスに基づいた確かな臨床判断ができる能力を養う。
2. 教育目標：1) クリティカルな状況にある患者・家族に対し、クリティカルケア看護の専門性、特殊性を踏まえたアセスメントと臨床判断ができる。  
2) 病態生理、治療に伴う臨床判断と高度なケア技術を融合させながら、クリティカルな状況にある患者および家族に対して看護実践ができる。  
3) 患者および家族に対して行った看護実践を論理的に評価し、今後の課題も含めて考察することができる。
3. 実習内容
  - 1) 複雑で困難な問題を有する対象に対し、個別に応じたケア提供方略、アセスメント、ケアプランを作成する。
  - 2) ケアプランに基づいて看護実践を行い、実践の結果を論理的に評価する。
  - 3) トリアージの場面に参加し、トリアージの内容を評価し、課題を明確にする。
4. 教育の進め方：
  - 1) 救命救急センターにて治療を受けている複雑で困難な問題を有する患者を受け持ち、看護を実践する。また、救急外来にて、医師およびトリアージナースの指導のもと、トリアージの場面に参加し、可能な範囲で実施する。
  - 2) 実習場において実習担当教員および急性・重症看護専門看護師を始めとする各施設の実習担当者の指導を受けながら実習を進める。なお、診断・治療に伴う臨床判断、身体管理については急性期医療を専門とする医師の指導も受けながら実習を進める。
  - 3) 実習した内容を記録し、実習目標達成に向けて実習計画を修正しながら進めていく。また、適宜クリティカルケアチームメンバーや専門看護師、教員とカンファレンスをもち、実践の評価・検討を行う。
  - 4) 受け持ち終了後、ケースレポートを作成し、ケース検討会を行う。
5. 実習施設：杏林大学医学部附属病院（高度救命救急センター）
6. 成績評価方法：最終提出レポート（100%）にて評価する。



## クリティカルケア看護学実習Ⅳ

2単位（春・秋学期）

科目責任者 伊藤 有美（本学准教授）

1. 教育目的：ポストクリティカルな状況にある患者に対する直接的な看護実践において、急性・重症看護専門看護師に必要とされる高度な看護実践能力を修得できるようにする。クリティカルケア看護の専門性および特殊性を踏まえ、高度なアセスメント能力とエビデンスに基づいた確かな臨床判断ができる能力を養う。
2. 教育目標：1) ポストクリティカル期にある患者のケア調整やセルフケアに向けた教育的関わりができる。  
2) 患者および家族に対して行った看護実践を評価し、今後の課題も含めて考察することができる。
3. 実習内容：
  - 1) クリティカルケア看護実習Ⅱで受け持った患者を引き続きポストクリティカル期で受け持ち、個別に応じたケア提供方略、アセスメント、ケアプランを作成し、室の高い卓越した看護実践を行う。また、実践したケアに対する評価を行う。
  - 2) ポストクリティカル期にある患者のケア調整やセルフケアに向けた教育的関わりを行う。
4. 教育の進め方：
  - 1) クリティカルケア看護実習Ⅱで受け持った患者を引き続きポストクリティカル期で受け持ち、複雑で困難な問題に対する看護を実践する。
  - 2) 実習場において実習担当教員および急性・重症看護専門看護師を始めとする各施設の実習担当者の指導を受けながら実習を進める。なお、診断・治療に伴う臨床判断、身体管理については、急性期医療を専門とする医師の指導も受けながら実習を進める。
  - 3) 実習した内容を記録し、実習目標達成に向けて実習計画を修正しながら進めていく。また、適宜クリティカルケアチームメンバーや専門看護師、教員とカンファレンスをもち、実践の評価・検討を行う。
  - 4) 受け持ち終了後、ケースレポートを作成し、ケース検討会を行う。
5. 実習施設：杏林大学医学部附属病院（ハイケアユニット、他）
6. 成績評価方法：最終提出レポート（100%）にて評価する。

## 専攻教育課程照合表

専門看護分野：精神看護

	科目	大学院該当科目	その科目の内容	履修 単位	認定 単位
専攻分野 共通科目	1. 歴史・法制度に関する科目	精神看護学特論Ⅰ	精神保健医療福祉に関する歴史と法制度や体制、日本における動向および当事者の活動の変遷を学び、精神保健看護の立場から、精神保健医療福祉の体制が抱えている課題や今後のあり方について学ぶ。	2	2
	2. 精神・身体状態の評価に関する科目	精神看護学特論Ⅱ	精神・身体状態のアセスメントができる為に、精神保健上の問題のメカニズムを心身医学の捉え方をふまえ理解し診断・治療について学ぶ。	2	2
	3. 精神科治療技法に関する科目	精神看護学特論Ⅲ	精神保健上の問題をもつ対象に適切な看護援助を提供する為に、対象・家族・集団に対し必要な精神科治療技法について学ぶことができる。また、治療的なかわりについて理解を深めることができるとともに、自己のかわりを振り返る方法を学ぶ。	2	2
		精神看護学演習Ⅰ	精神保健上の問題を抱えている対象のアセスメントや具体的な看護援助、精神科診断面接、精神科治療技法による介入について、事例検討やフィールドワークを通じて習得する。また、患者－看護師関係をふり返り、精神療法や集団精神療法などの技法を習得する。	2	2
	4. 精神看護理論、援助技法に関する科目	精神看護学特論Ⅳ	精神保健上の問題をもつ対象に適切な看護援助を提供する為に、必要な理論と技法を習得する。また、精神看護専門看護師として必要な役割や機能について学ぶ。	2	2
		精神看護学演習Ⅱ	精神看護専門看護師として必要な機能と役割である、実践、コンサルテーション、倫理調整、コーディネーション、教育、研究についてその理論を学び、事例検討を通して実践能力を養う。	2	2
専攻分野 専門科目	1. リエゾン精神看護	精神看護学特論Ⅴ	心身医学・看護の立場をふまえた上で、リエゾン精神看護の役割と機能、その理論的枠組み、対象の特徴、実際の活動などについて学ぶ。	2	2
実習科目	実習	(10 単位) 精神看護学実習 ・精神看護学実習Ⅰ	精神看護学実習Ⅰ (CNS 役割実習 2 単位) 精神専門看護師の役割である、実践、教育、相談、調整、コンサルテーション、研究について、実際に臨床の場でどのように実践されているかを学ぶ。	2	2
		・精神看護学実習Ⅱ	精神看護学実習Ⅱ (精神科診断・治療実習 2 単位) 精神看護専門看護師として精神科診断や治療に関する判断能力および看護援助へのアセスメントを、実際に臨床の場でどのように実践されているかを学ぶ。	2	2
		・精神看護学実習Ⅲ	精神看護学実習Ⅲ (上級看護実践実習 6 単位) 精神看護領域とリエゾン精神看護分野について、医療施設における直接ケアおよび間接ケアを行い、精神専門看護師に必要とされる高度な看護実践能力を習得する。上記については、それぞれ実習終了時に単位を認定する。	6	6
				認定合計単位 24 単位	

## 精神看護学特論 I

2 単位 (春学期)  
科目責任者 浅沼 奈美 (本学教授)

1. 教育目的：精神保健医療福祉に関する歴史と法制度や体制、国際的な動向、日本における動向および当事者の活動の変遷を学び、精神保健看護の立場から、精神保健医療福祉の体制が抱えている課題や今後のあり方について学ぶ。
2. 教育目標：1) 日本の精神保健医療福祉に関する法制度や体制と歴史的な変遷について理解を深める。  
2) 精神障害者が社会復帰するための制度と社会資源の活用方法を修得する。  
3) 精神看護の立場から、精神保健医療福祉の体制が抱えている課題や今後のあり方について討議することができる。
3. 教育内容：
  - ①精神保健医療福祉の歴史的変遷Ⅰ(世界における古代精神医療)
  - ②精神保健医療福祉の歴史的変遷Ⅱ(世界における中世精神医療)
  - ③精神保健医療福祉の歴史的変遷Ⅲ(世界における近代精神医療)
  - ④精神障害者の人権擁護とスティグマ
  - ⑤わが国における精神保健医療福祉の法制度の変遷Ⅰ
  - ⑥わが国における精神保健医療福祉の法制度の変遷Ⅱ
  - ⑦精神障害者の就労支援に関する法制度
  - ⑧精神障害者の地域生活支援制度Ⅰ(地域移行支援)
  - ⑨精神障害者の地域生活制度Ⅱ(ケアマネジメントと福祉施設)
  - ⑩精神障害者の地域生活制度Ⅲ(包括型地域生活支援と精神科訪問看護)
  - ⑪精神障害者の地域生活制度Ⅳ(ひきこもりの自立支援)
  - ⑫学校精神保健に関する法制度
  - ⑬産業精神保健に関する法制度
  - ⑭セルフヘルプグループとピアカウンセリング
  - ⑮セルフヘルプグループと専門職種の支援
4. 教育の進め方:教員による講義および学生の主体的な参加によるプレゼンテーションなどを基に他の学生との討議を通して理解を深める。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

1. 教育目的：精神・身体状態のアセスメントができるために、精神保健上の問題のメカニズムを心身医学の捉え方をふまえ理解し診断・治療について学ぶ。具体的には、精神分析理論・精神病態治療論および心理測定法や治療的な介入を行うための理論的基盤を養う。それらをもとに、精神看護の視点から対象のアセスメントを深め看護援助について学ぶ。
2. 教育目標：1)精神分析理論・精神病態治療論および心理測定法や治療的な介入を行うための理論的基盤をもとに、対象の全体像を捉え、対象の精神保健上の様々な問題について理解を深め説明することができる。  
2)精神疾患患者の看護援助の方法について理解できる。
3. 教育内容：
  - ①対象理解と生活の評価に必要な基礎的理論Ⅰ(Bio - Psycho - Social モデル・セルフケアモデル)
  - ②対象理解と生活の評価に必要な基礎的理論Ⅱ精神力動論①(自我の構造と機能・不安と防衛機制)
  - ③対象理解と生活の評価に必要な基礎的理論Ⅲ精神力動論②  
(フロイトの考え方の成り立ち～発達段階)
  - ④対象理解と生活の評価に必要な基礎的理論Ⅳ心理・社会的発達に関する理論
  - ⑤精神科に用いる治療と検査Ⅰ精神科薬物療法におけるアセスメント
  - ⑥精神科に用いる治療と検査ⅡSPECT・ECT・EEG・心理検査及び様々な尺度など
  - ⑦精神疾患の診断と薬物療法(不安障害・適応障害・パーソナリティー障害)
  - ⑧精神疾患の診断と薬物療法(気分障害・統合失調症・発達障害)
  - ⑨精神疾患の診断と薬物療法(症状性精神障害：せん妄・心身症)
  - ⑩精神状態のアセスメントに必要な技法
  - ⑪精神疾患患者の急性期におけるアセスメントと援助
  - ⑫精神疾患患者の慢性期におけるアセスメントと援助
  - ⑬依存症精神障害患者のアセスメントと援助
  - ⑭処遇困難患者のアセスメントと看護援助
  - ⑮精神の健康の保持増進及び病気の予防におけるアセスメントと看護援助  
(子どもと女性のメンタルヘルス)
4. 教育の進め方:教員による講義および学生の主体的な参加によるプレゼンテーションなどをもとに他の学生との討議を通して理解を深める。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

### 精神看護学特論Ⅲ

2単位（春学期）

科目責任者 浅沼 奈美（本学教授）

1. 教育目的:精神看護の専門看護師として精神保健上の問題をもつ対象に適切な看護援助を提供するために、対象・家族・集団に対し必要な精神科治療技法について学ぶことができる。また、精神看護の専門看護師としての治療的なかわりについて理解を深めることができるとともに、自己のかわりを振り返る方法を学ぶ。
2. 教育目標:1)精神保健上の問題をもつ対象に適切な看護援助を提供するために精神療法的治療技法について理解する。  
2)精神看護の専門家として求められる治療的なかわりについて討議することができる。  
3)自己理解を深めるためにプロセスレコードやロールプレイについて学び、自己の看護場面に  
ついて討議し理解を深める。
3. 教育内容:
  - ①サイコセラピューティックな看護
  - ②精神看護技術Ⅰコミュニケーション論
  - ③精神看護技術Ⅱ面接技法－受理面接
  - ④精神看護技術Ⅲ精神療法①
  - ⑤精神看護技術Ⅳ精神療法②
  - ⑥精神看護技術Ⅴ精神療法③
  - ⑦精神看護技術Ⅵ精神科薬物療法と看護アセスメント
  - ⑧精神看護技術Ⅶ精神科薬物療法における服薬支援
  - ⑨精神看護技術Ⅷ認知行動療
  - ⑩精神看護技術Ⅸグループワーク技法①
  - ⑪精神看護技術Ⅹグループワーク技法②
  - ⑫精神看護技術ⅪSST・家族心理教育
  - ⑬精神看護技術Ⅻプロセスレコード・ロールプレイ
  - ⑭精神看護技術13 事例検討とグループスーパーヴィジョン
  - ⑮精神看護技術14 リラクゼーションの理論と方法
4. 教育の進め方:教員による講義および学生の主体的な参加によるプレゼンテーションなどをもとに他の学生との討議を通して理解を深める。
5. 成績評価方法:プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

### 精神看護学特論Ⅳ

2単位（秋学期）

科目責任者 佐藤 美保（本学准教授）

1. 教育目的:精神看護の専門看護師として精神保健上の問題をもつ対象に適切な看護援助を提供するために、必要な理論と技法を修得する。また、精神看護の専門看護師として必要な役割や機能について学ぶ。
2. 教育目標:1)精神保健上の問題をもつ対象に適切な看護援助を提供するために、必要な理論を理解する。  
2)精神看護の専門看護師として必要な役割と機能について理解する。
3. 教育内容:
  - ①対人関係論(ペプロウ)
  - ②対象関係論(クライン)
  - ③ストレス・コーピング論(セリエ、ラザロス)
  - ④ストレス－対処理論(リバーマン)
  - ⑤家族システム論
  - ⑥セルフケア論(オレム・アンダーウッド理論)
  - ⑦精神疾患患者のセルフケアと自立に向けた退院支援Ⅰ
  - ⑧精神疾患患者のセルフケアと自立に向けた退院支援Ⅱ
  - ⑨精神疾患患者の家族に対する支援
  - ⑩精神科領域におけるチーム医療の展開－他職種とのチームアプローチ
  - ⑪精神看護倫理
  - ⑫精神看護専門看護師の役割と機能Ⅰ:コンサルテーション
  - ⑬精神看護専門看護師の役割と機能Ⅱ:倫理調整
  - ⑭精神看護専門看護師の役割と機能Ⅲ:コーディネーション
  - ⑮精神看護専門看護師の役割と機能Ⅳ:教育・研究(看護管理と継続教育・研究活動の方向性)
4. 教育の進め方:教員による講義および学生の主体的な参加によるプレゼンテーションなどをもとに他の学生との討議を通して理解を深める。
5. 成績評価方法:プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

## 精神看護学特論V

2単位（秋学期）

科目責任者 佐藤 美保（本学准教授）

1. 教育目的：心身医学・看護の立場をふまえた上で、リエゾン精神看護の役割と機能、その理論的枠組み、対象の特徴、実際の活動などについて学ぶ。より実践的な探求を行う。
2. 教育目標：リエゾン精神看護の役割と機能、その理論的枠組み、対象の特徴、実際の活動などについて学び、実践に生かすことができる。
3. 教育内容：
  - ①リエゾン精神看護Ⅰ（理論と実際）
  - ②リエゾン精神看護Ⅱ（活動と実際）
  - ③リエゾン精神看護Ⅲ（活動と実際）
  - ④トラウマケアー心的外傷Ⅰ
  - ⑤トラウマケアー心的外傷Ⅱ
  - ⑥サイコオンコロジーⅠ
  - ⑦サイコオンコロジーⅡ
  - ⑧サイコオンコロジーⅢ
  - ⑨サイコオンコロジーⅣ
  - ⑩せん妄の症状マネージメント
  - ⑪うつ病の症状マネージメント
  - ⑫救命救急センターにおけるコンサルテーション
  - ⑬CNS 活動の実際Ⅰ－総合病院における CNS の役割①
  - ⑭CNS 活動の実際Ⅰ－総合病院における CNS の役割②
  - ⑮CNS 活動の実際Ⅰ－総合病院における CNS の役割③
4. 教育の進め方：教員による講義および学生の主体的な参加によるプレゼンテーションなどをもとに他の学生との討議を通して理解を深める。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

1. 教育目的：精神看護専門看護師として、精神保健上の問題を抱えている対象のアセスメントや具体的な看護援助、精神科治療技法による介入について、事例検討とフィールドワークを通し修得する。また、精神看護の専門看護師として患者―看護師間におこることに関して、自己のかかわりを振り返ることができるとともに、事例検討を1つのグループ体験として、グループダイナミクスやグループのかかわり方などを修得する。
2. 教育目標：1)精神分析理論・精神病態治療論および心理測定法や治療的な介入を行うための理論的基盤を基に、精神看護の視点から対象をアセスメントし、看護援助を立案することができる。  
2)精神科治療技法による看護援助を立案し、実践することができる。  
3)フィールドワークを行うことで、看護援助の特徴と課題を検討する。  
4)自己理解を深めるためにプロセスレコードやロールプレイを活用し検討することができる。  
5)グループによるスーパービジョン、コンサルテーションの実際を体験し理解を深めるとともに、グループダイナミクスの理解を深める。
3. 教育内容：
  - ①②③精神看護技術による看護援助Ⅰ  
－受理面接 - 外来における問診および診断・処方に関するアセスメント①
  - ④⑤⑥精神看護技術による看護援助Ⅱ  
－受理面接 - 外来における問診および診断・処方に関するアセスメント②
  - ⑦⑧⑨精神看護技術による看護援助Ⅲ－認知行動療法
  - ⑩⑪⑫精神看護技術による看護援助Ⅳ－グループアプローチ① - グループ体験
  - ⑬⑭⑮精神看護技術による看護援助Ⅴ－グループアプローチ② - 患者グループへの援助者として
  - ⑯⑰⑱精神看護技術による看護援助Ⅵ－心理教育・SST
  - ⑲⑳㉑精神看護技術による看護援助Ⅶ－退院支援・訪問看護
  - ㉒㉓㉔精神看護技術による看護援助Ⅷ－リラクゼーション
  - ㉕㉖㉗精神看護技術による看護援助Ⅸ－プロセスレコードによる自己理解
  - ㉘㉙㉚精神看護技術による看護援助Ⅹ－ロールプレイによる自己理解
4. 教育の進め方：学生の主体的な参加による事例検討とフィールドワークをもとに他の学生との討議を通して理解を深める。また、フィールドワークに関しては、個別の振り返りも行う。尚、フィールドワークの進め方の詳細については個別に相談する。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)

## 精神看護学演習Ⅱ

2単位（秋学期）

科目責任者 佐藤 美保（本学准教授）

1. 教育目的：精神看護の専門看護師として必要な機能と役割である、実践、コンサルテーション、倫理調整、コーディネーション、教育、研究についてその理論を学び、事例検討を通して実践能力を養う。
2. 教育目標：
  - 1) 精神看護の専門看護師として必要な機能と役割について説明できる。
  - 2) コンサルテーションが必要な事例について、援助計画が立案できる。
  - 3) 精神保健上の問題を抱えた対象およびその家族に必要な倫理調整のための援助計画が立案できる。
  - 4) 臨床スタッフへの教育活動として必要な援助計画が立案できる。
  - 5) 家族支援のための援助計画が立案できる。
  - 6) 精神看護専門看護師としての研究活動を学び、研究の動向、今後の方向性について討議する。
  - 7) 精神看護専門看護師としての今後の展望および課題を討議する。
3. 教育内容：
  - ①②③コンサルテーションⅠ－ケース中心のコンサルテーション
  - ④⑤⑥コンサルテーションⅡ－コンサルティ中心のコンサルテーション
  - ⑦⑧⑨コンサルテーションⅢ－プログラム中心のコンサルテーション
  - ⑩⑪⑫コンサルテーションⅣ－コンサルティ中心の管理に関するコンサルテーション
  - ⑬⑭⑮倫理調整Ⅰ－患者に関する事例の援助計画
  - ⑯⑰⑱倫理調整Ⅱ－患者・家族関係に関する事例の援助計画
  - ⑲⑳㉑倫理調整Ⅲ－臨床倫理に関する事例の援助計画
  - ㉒㉓㉔コーディネーション－他職種とのコーディネーションに関する事例の援助計画
  - ㉕㉖㉗教育に関する事例の援助計画および研究活動
  - ㉘㉙㉚臨床スタッフのメンタルヘルスの援助計画
4. 教育の進め方：教員による講義および学生の主体的な参加によるプレゼンテーション・事例検討をもとに参加者でのディスカッションを通して理解を深める。
5. 成績評価方法：プレゼンテーション(40%)、課題レポート(60%)



## 精神看護学実習

10単位（春・秋学期）

科目責任者 浅沼 奈美（本学教授）

1. 教育目的:精神看護領域において、精神看護の専門性および特殊性を踏まえ、高度のアセスメント能力と、専門看護師に必要とされる卓越した実践、教育、相談、調整、研究が自律的に実践できる能力を修得する。
2. 教育目標：
  - 1) 精神専門看護師の役割を理解し、卓越した実践、教育、相談、調整、研究ができる。
  - 2) 精神疾患患者および精神保健上の問題を抱えている対象およびその家族、その看護に携わっているスタッフに対し精神看護の専門性、特殊性を踏まえたアセスメントと看護実践ができる。
  - 3) 精神疾患患者および精神保健上の問題を抱えている対象およびその家族が抱える倫理的問題に対し、対象者の尊厳を守りながら問題解決をはかることができる。

### 3. 実習目標：

#### [実習目標と内容]

実習目標	実習内容
1. 実践 精神疾患患者および精神保健上の問題を抱えている対象およびその家族に対する卓越した看護実践を行う。	複雑で困難な問題を有する対象に対し、個別に応じたケア提供方略、アセスメント、ケアプランを作成し、質の高い卓越した看護の実践を行う。
2. 教育 看護職者に対するケアの質の向上のための教育機能を果たす。	他の看護職者への教育を講義・演習で培った知識や技術をもとに、指導者と共に実践する。
3. 相談 看護職者と他のケア提供者に対するコンサルテーションを実践する。	複雑で困難な実践状況において、看護職者や他のケア提供者に対し、精神看護の専門的立場での相談や意見の提供を指導者と共に実践し、問題への対処、解決を図る。
4. 調整 円滑なケア提供のためのコーディネートを実践する。	複雑な問題を有する事例に対し、継続したケア提供を円滑に実施するために、他職種との連携、調整を図る。
5. 研究 専門的知識・技術の向上や開発を図るため研究活動に取り組む。	精神看護分野において、研究的取り組みを必要とする課題を見出し、問題解決やケアの質的向上に向けた研究活動を実践する。
6. 倫理 倫理的な葛藤や問題が生じた場合、解決への取り組みを図る。	精神看護分野における倫理的課題に対し、患者・家族、ケア提供者間に立ち、問題解決や対処のための様々な検討を行い調整を図る。

#### [CNS 役割実習]

精神専門看護師の役割である、実践、教育、相談、調整、コンサルテーション、研究について、実際に臨床の場でどのように実践されているかを、精神専門看護師のスーパービジョンを受けながら学ぶ。

#### [医療施設における精神科診断・治療実習]

精神看護専門看護師として精神科診断や治療に関する判断能力および看護援助へのアセスメントを、実際に臨床の場でどのように実践されているかを、精神科医や精神専門看護師のスーパービジョンを受けながら学ぶ。

#### [上級看護実践実習]

医療施設における直接ケアおよび間接ケアを精神専門看護のスーパービジョンを受けながら学び、精神専門看護師に必要とされる高度な看護実践能力を修得する。

4. 教育の進め方：
  - 1) 実習は CNS 役割実習 2 単位、医療施設における精神科診断・治療実習 2 単位、上級看護実践実習 6 単位(精神看護領域、リエゾン精神看護分野)とし実施する。
  - 2) 実習場において実習担当教員の指導と精神専門看護師を始めとする各施設の実習指導担当者の指導を受けながら実習を進める。
  - 3) 専門看護師の役割(実践、教育、相談、調整、コンサルテーション)について実習した内容を記録し、実習目標達成のための実習計画を作成し、修正しながら実行する。
  - 4) 専門看護師の役割(実践、教育、相談、調整、コンサルテーション)について実習した内容を事例に基づきレポートする。
5. 実習施設：杏林大学医学部付属病院、東京武蔵野病院、聖路加国際病院、井之頭病院にて実施する。
6. 成績評価方法：最終提出レポート(100%)にて評価する。

